

⑩第216号住居跡A・B

【位置・検出状況】調査区北部に検出。調査率は100%。掘り込みが浅く、覆土の堆積は希薄。はっきりとした切り合い関係は不明だが、ピットや炉の配置から住居跡2軒が重なっている可能性がある。西側に掘り込み遺構が存在するが、同様に切り合い関係は不明である。

【形状・規模】掘り込みがほとんど無く、壁の立ち上がりも無いため住居範囲は判然とし難い。ピットの配置から推定すると、Aは300～320cmほどの円形、Bは長軸(370)cm×(350)cmほどの楕円形になると思われる。

【構造】A・B合計14基検出。内10基が柱穴と捉えられ、216号住居跡A・Bともに4本あるいは5本主柱穴と考えられる。

【炉】Aは住居中央に検出。炉体土器を伴い、長軸60cm×短軸(50)cmほどの楕円形で、最深部でも10cm程度の浅い掘り込みである。Bも住居中央に検

出。平面円～楕円形の土坑が3つ連なるように重複しており、南から北へと新しくなる。中央の土坑中層には焼土が厚く堆積しており、作業場を伴う地床炉としての利用が考えられる。

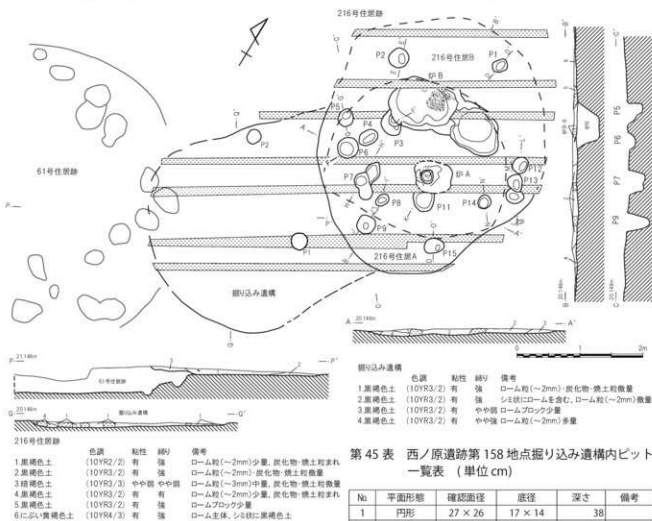
【遺物】No.5はピット7の覆土に半分埋まった状態で出土。その上部には土の堆積を5cmほど挟みNo.2が出土している。炉Bからは、最上層にNo.3がまとまって出土し、同一個体破片も覆土から出土している。また、接合はしないがNo.22と同質の胎土を持つ破片が上層～下層から出土している。

【時期】216号住居跡Aは炉体土器より勝飯Ⅲ式、216号住居跡Bは加曽利EⅢ式と考えられる。

(2) 掘り込み遺構

【位置・検出状況・所見】調査区北部、61号住居跡、216号住居跡の間に位置する。非常に浅いが、人為的に掘り込んだ痕跡は確認できる。また独立した遺構ではなく、住居に付随する施設である可能性もある。

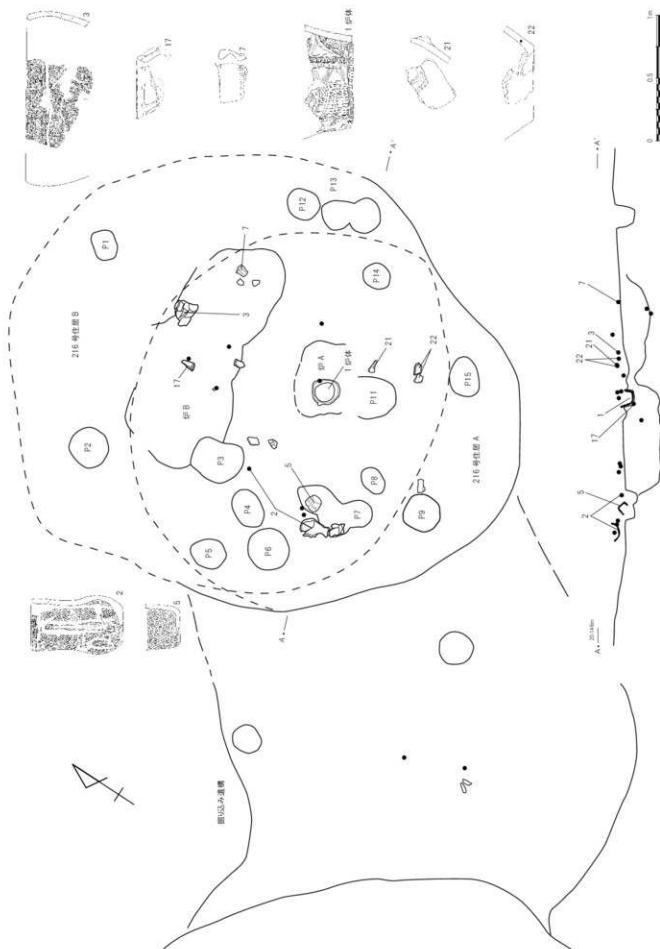
遺構内では遺物も少量だが出土している。



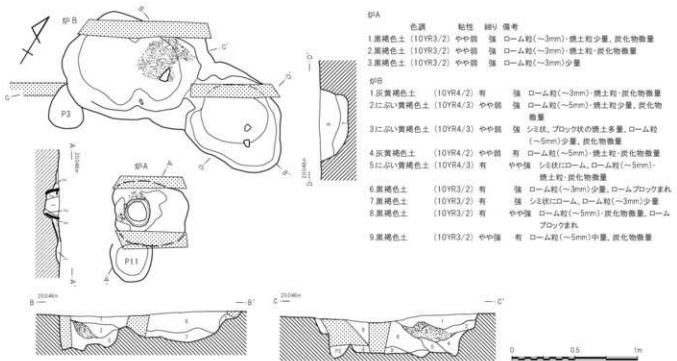
第45表 西ノ原遺跡第158地点掘り込み遺構内ピット一覧表 (単位cm)

No.	平面形状	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	27×26	17×14	38	
2	円形	23×23	5×3	22	

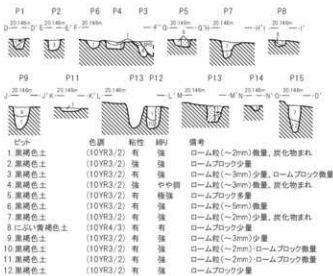
第68図 西ノ原遺跡第158地点216号住居跡A・B(1/60)



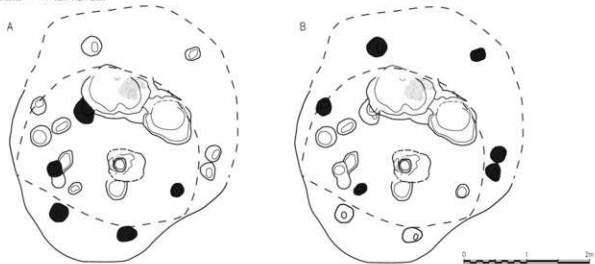
第69図 西ノ原遺跡第158地点216号住居跡A・B、掘り込み遺構遺物出土状況(1/30)



P1～15



216号住居跡A・B柱穴想定図



第70図 西ノ原遺跡第158地点216号住居跡炉(1/30)、216号住居内ピット(1/60)、A・B住居跡柱穴想定図(1/60)

第46表 西ノ原遺跡第158地点216号住居内ピット一覧表 (単位cm)

No.	平面形状	確面直径	底径	深さ	備考
1	方形	24 × 18	17 × 11	17	
2	円形	31 × 30	16 × 9	20.1	
3	不明	(40) × 36	14 × 9	40.8	
4	楕円形	32 × 22	23 × 8	13.4	
5	円形	29 × 25	14 × 11	26	
6	円形	33 × 32	22 × 20	12.2	
7	不整形	50 × (23)	16 × 14	27	
8	楕円形	22 × 15	13 × 7	15.7	
9	円形	29 × 28	10 × 7	36.4	
10欠					跡2に変更
11	円形	38 × 33	25 × 24	6.1	
12	円形	25 × 23	15 × 9	36.7	
13	だるま形	45 × 23	15 × 9	34.6	
14	円形	21 × 20	15 × 13	11.2	
15	楕円形	31 × 22	8 × 6	44.8	

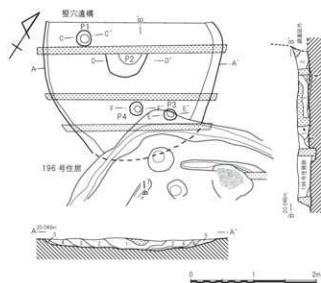
(3) 竪穴遺構(建物跡)

【位置・検出状況】調査区北部にて1/2を検出。南部で196号住居跡と切り合い、本遺構が古い。

【形状・規模】円～楕円形。検出部で南北(180)cm×東西280cm。深さは201cm程度。皿状を呈する。

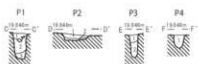
【構造】ピットは4基検出。細く小規模だが、2本は柱穴と考えられる。

遺構中央に皿状の掘り込みが存在するが、焼土や被熱は確認できない。炉が未検出であり、柱穴も貧弱であることから、住居ないし建物とは考えられない。



【遺物】出土量はさほど多くなく、主体は勝飯Ⅲ式であるが、阿玉台式や勝飯Ⅱ式もみられる。出土状況からは2ヶ所に集中が見られるが、両者に土器型式の違いは無く、廃棄の方向も共通する。西側の集中部からは、小型の深鉢跡～底部が焼土ブロックを伴って出土した。土器は被熱が顕著で、焼土は土器内部にも入っており、中からこぼれたように周囲に広がっていた。土の詰まった状態で、ほとんど埋まりかけていた当遺構に破壊されたものと思われる。

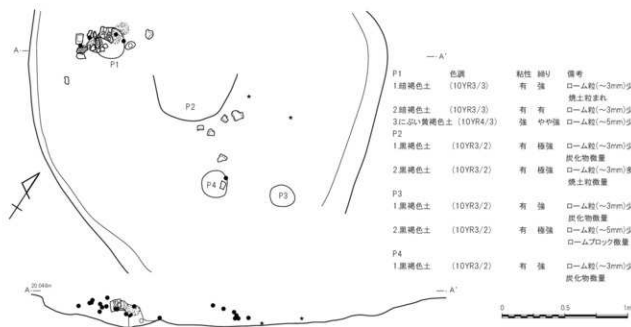
【時期】勝飯Ⅲ式。



色調	粘性 締り	備考
1 黒褐色土 (10YR2/2)	有 強	ローム粒(～3mm)少量、焼土粒・炭化物微量
2 黒褐色土 (10YR3/2)	有 極強	ローム粒(～3mm)少量、炭化物微量
3 暗褐色土 (10YR3/3)	有 強	ローム粒(～3mm)少量、炭化物微量
4 暗褐色土 (10YR3/3)	有 強	ローム粒(～5mm)少量、シロロに多い黄褐色土
5 暗褐色土 (10YR3/3)	有 有	ローム粒(～3mm)少量、キヌ細かい
6 暗褐色土 (10YR3/3)	有 極強	ロームブロック中量

第47表 西ノ原遺跡第158地点竪穴遺構内ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	25 × 24	15 × 13	45	
2	不明	66 × (36)	37 × (17)	15.1	
3	楕円形	20 × 17	13 × 8	35.7	
4	円形	21 × 20	10 × 10	21.1	



第71図 西ノ原遺跡第158地点竪穴遺構(1/60)、遺物出土状況(1/30)

④土坑

土坑は調査区内で4基検出した。詳細については第72図及び第48表参照。

①土坑1

調査区北側、第196号住居跡の南側に位置する。出土遺物はない。

②土坑2

調査区中央やや南東部、第194号住居跡と第201号住居跡の間に位置する。大部分を擾乱によって破壊されているが、平面形態は楕円形を呈するものと考えられる。出土遺物はない。

第48表 西ノ原遺跡第158地点土坑一覧表 (単位cm)

No.	平面形態	確認直径	底径	深さ	備考
1	楕円形	65×40	11×8	50.1	
2	不明	112×84	94×72	11.9	
3	楕円形	212×128	182×81	53.4	
4	楕円形	108×90	94×77	25.8	

③土坑3

調査区中央部よりやや南、第194号住居跡の西側に位置する。出土遺物はない。

④土坑4

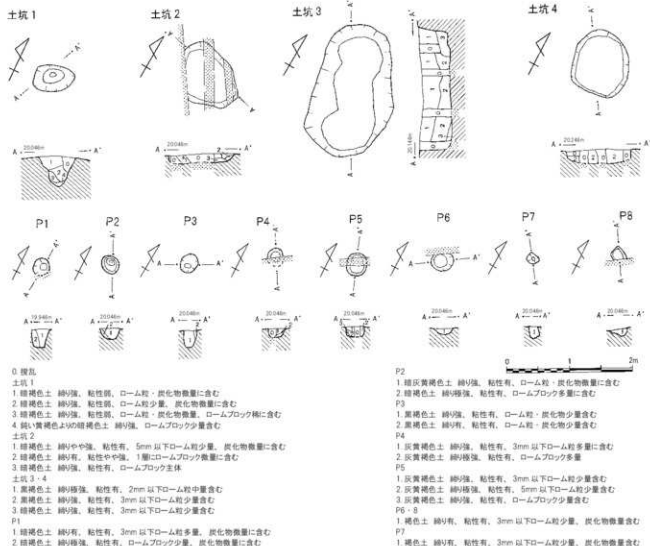
調査区西側に位置する。出土遺物はない。

(5)ピット

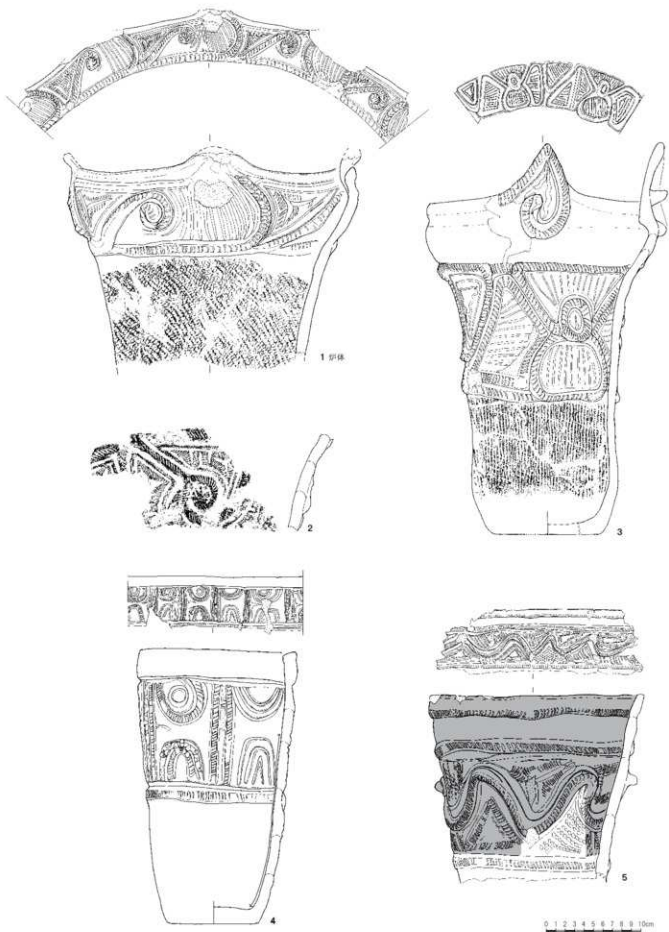
住居跡に伴わないピットは8基検出した。調査区東側に集中する傾向にある。いずれも出土遺物はなく、時期を特定できない。規模等詳細については第49表に掲載した。

第49表 西ノ原遺跡第158地点ピット一覧表 (単位cm)

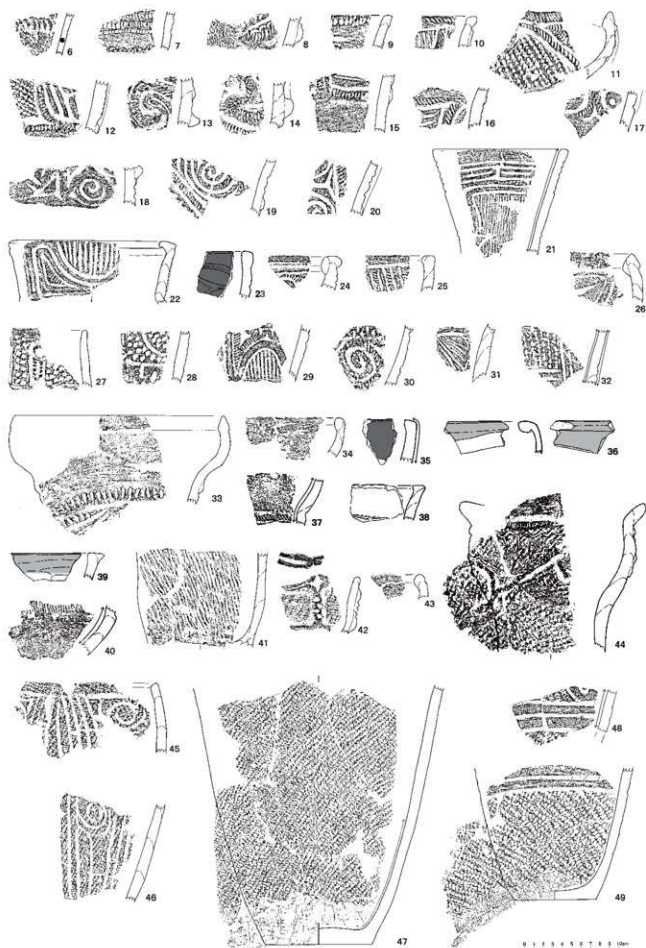
No.	平面形態	確認直径	底径	深さ	備考
1	(円形)	27×(27)	12×12	30.8	
2	円形	30×25	7×3	27.4	
3	円形	32×27	12×7	27.6	
4	(円形)	25×(15)	15×(10)	15.6	
5	円形	36×31	(28)×22	15.8	
6	不明	36×(27)	21×21	8.8	
7	円形	20×18	7×6	23.9	
8	不明	23×(21)	(17)×16	10	



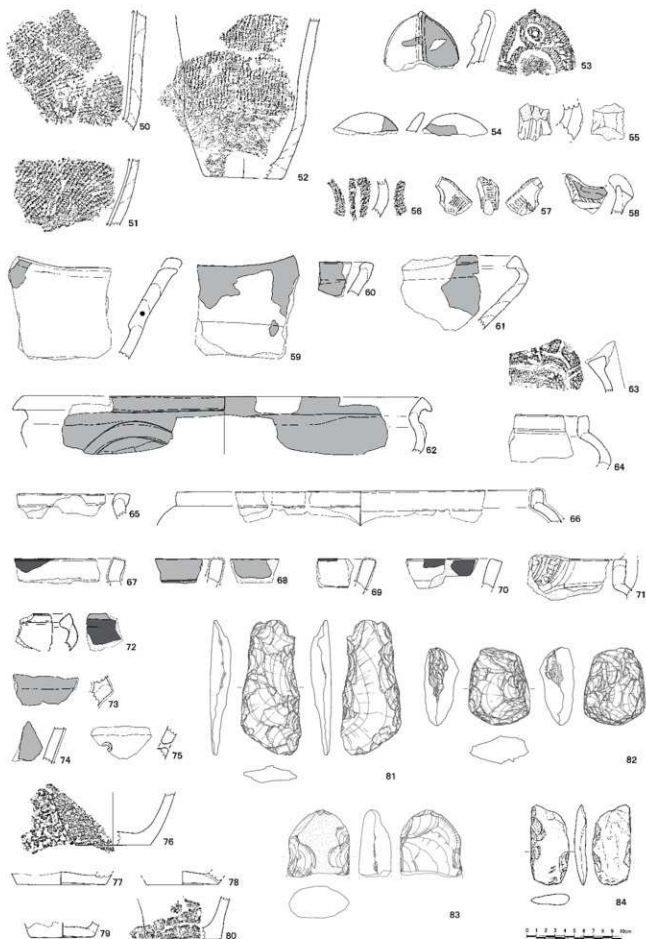
第72図 西ノ原遺跡第158地点土坑・ピット(1/60)



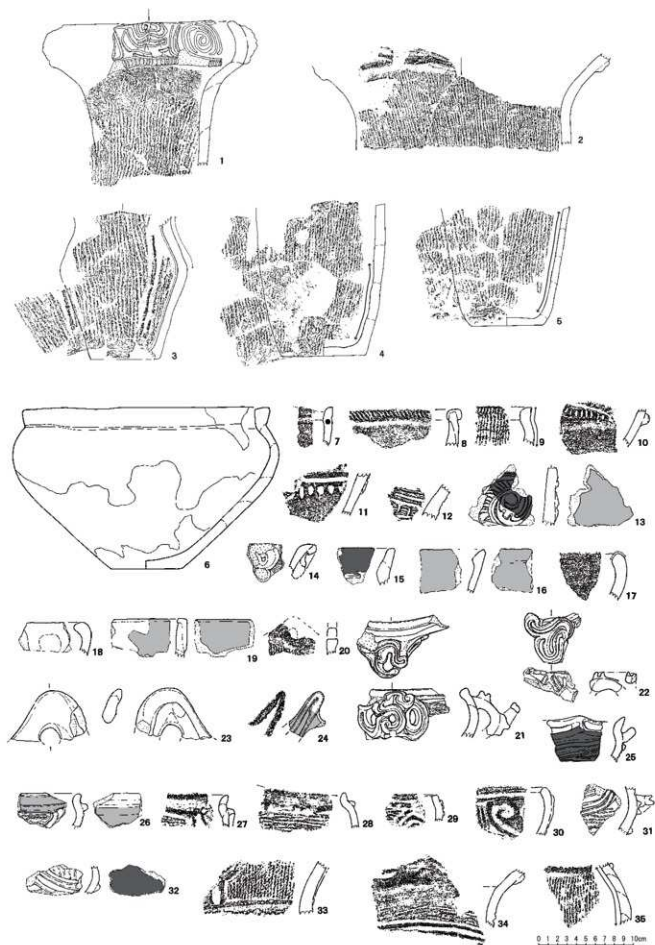
第73図 西ノ原遺跡第158地点61号住居跡出土遺物①(1/4)



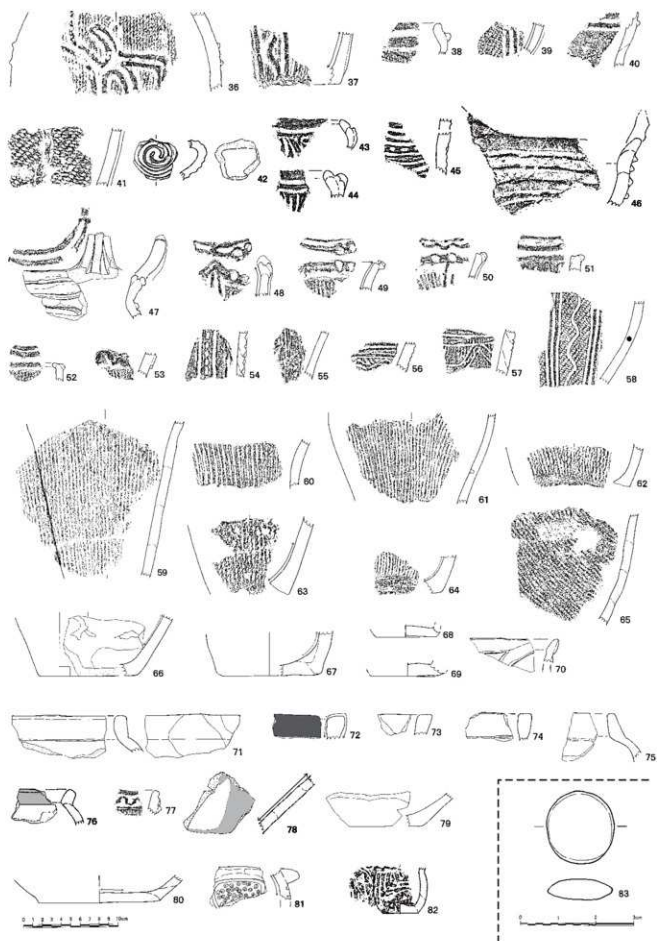
第74図 西ノ原遺跡第158地点61号住居跡出土遺物②(1/4)



第75図 西ノ原遺跡第158地点61号住居跡出土遺物③(1/4)

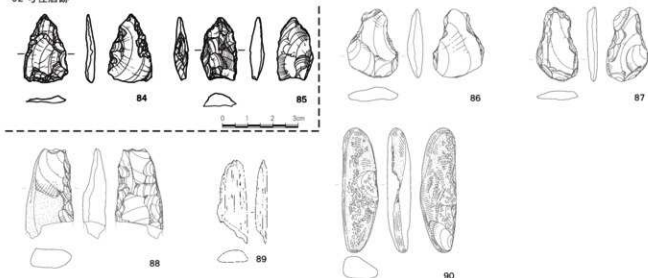


第76図 西ノ原遺跡第158地点62号住居跡出土遺物①(1/4)

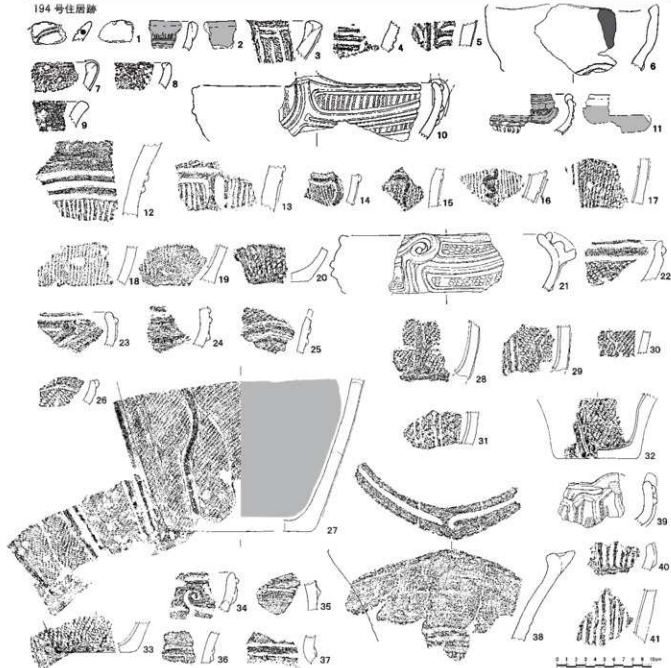


第77図 西ノ原遺跡第158地点62号住居跡出土遺物②(1/4・1/1)

62号住居跡

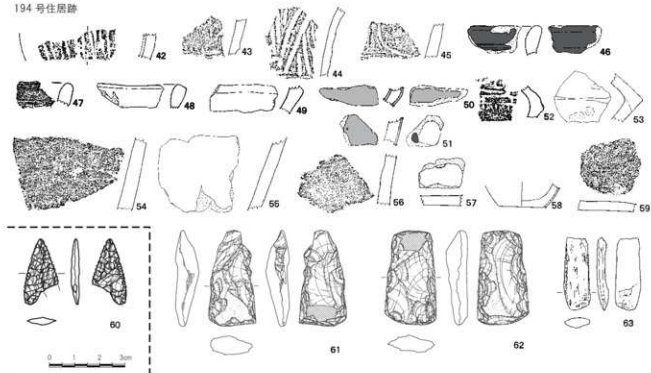


194号住居跡

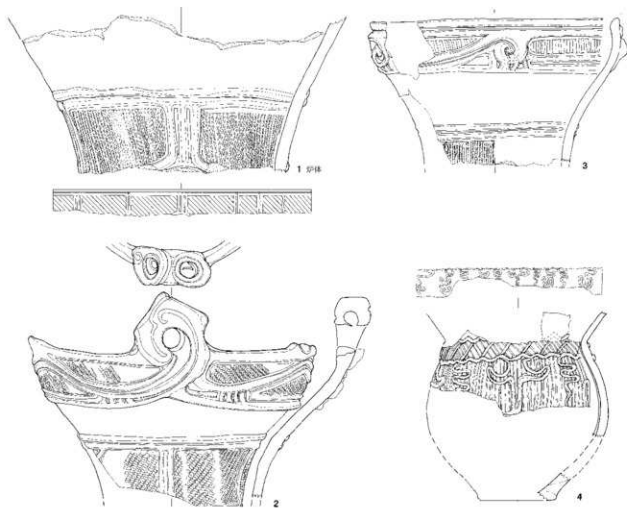


第78図 西ノ原遺跡第158地点62③・194①号住居跡出土遺物(1/4・2/3)

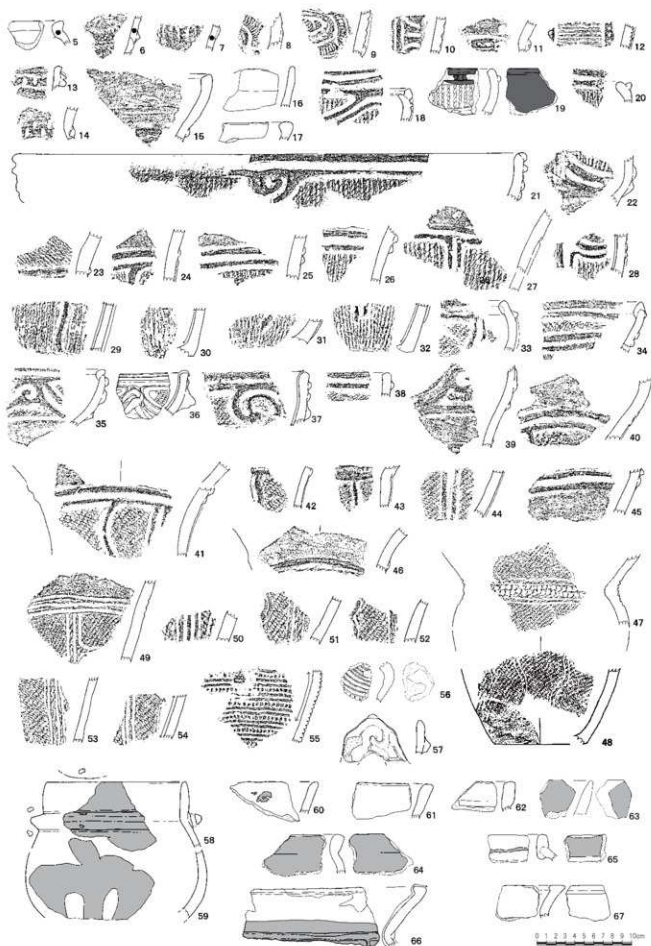
194号住居跡



196号住居跡

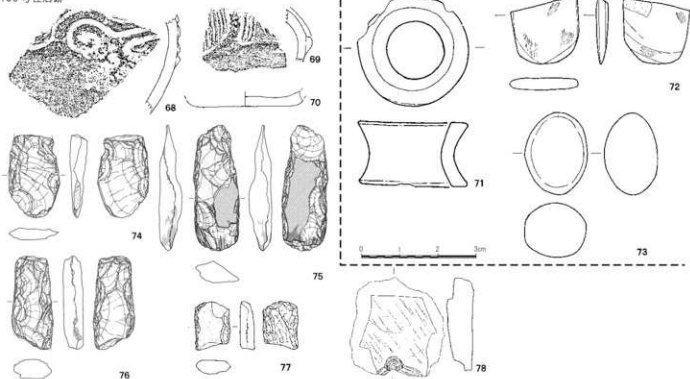


第79図 西ノ原遺跡第158地点194②・196①号住居跡出土遺物(1/4・2/3)

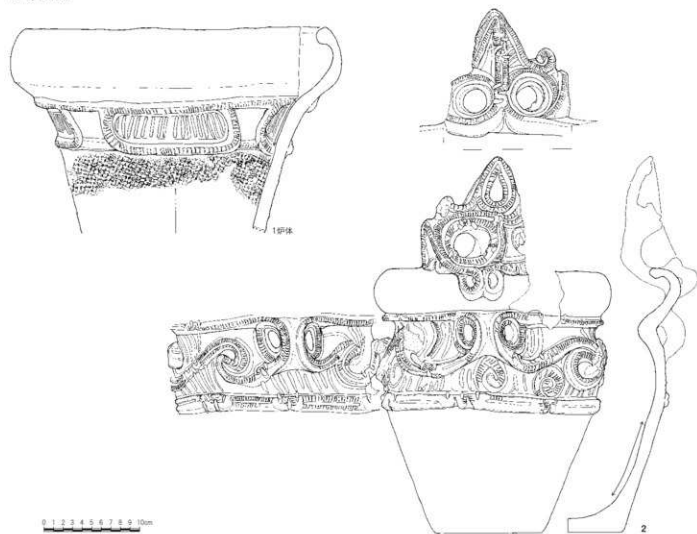


第80図 西ノ原遺跡第158地点196号住居跡出土遺物②(1/4)

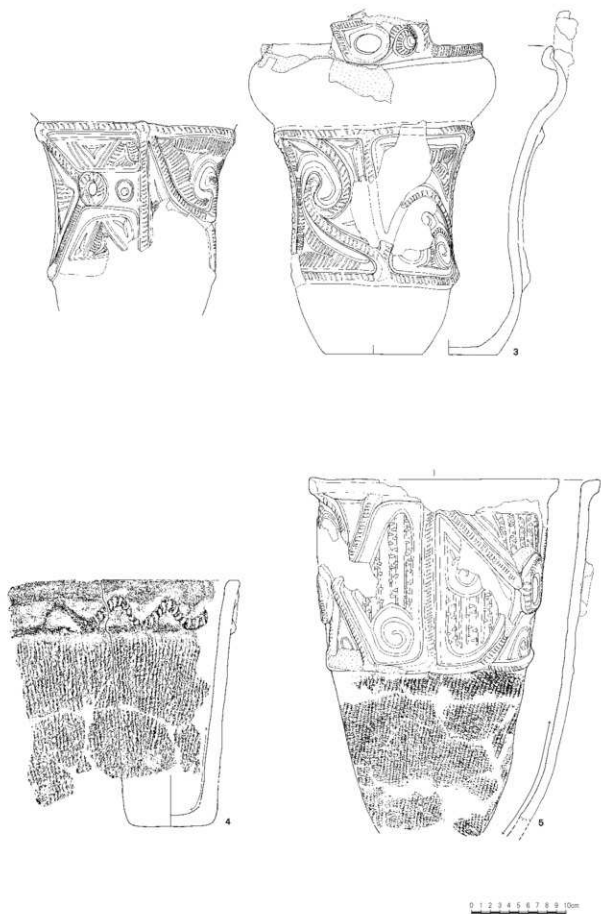
196号住居跡



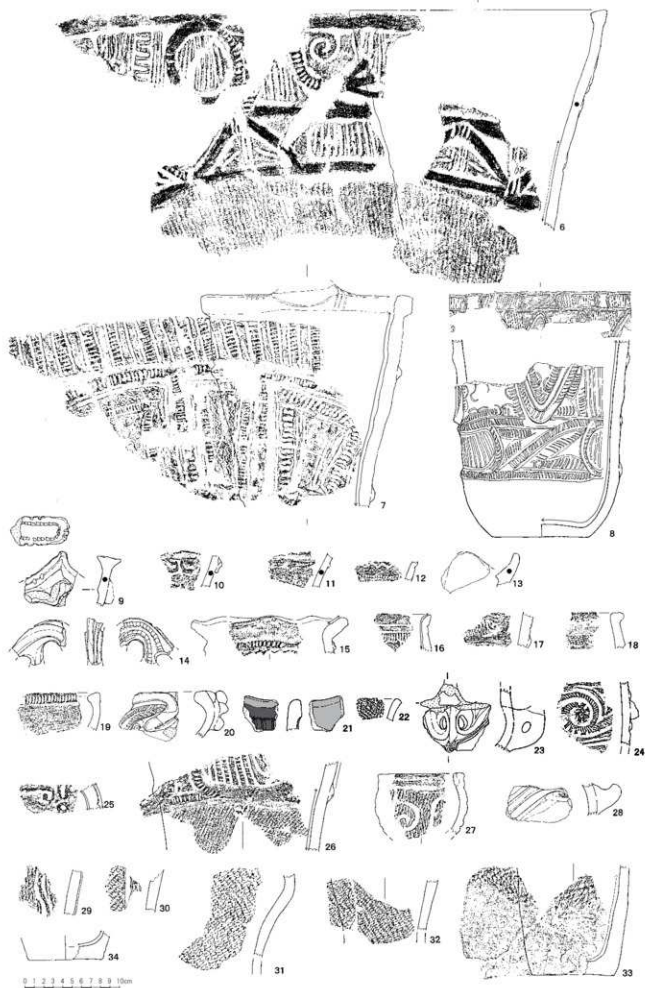
197号住居跡



第81図 西ノ原遺跡第158地点196③・197①号住居跡出土遺物(1/4・1/1)

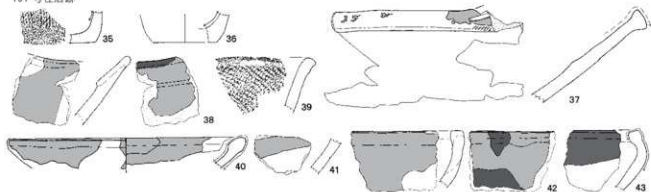


第 82 図 西ノ原遺跡第 158 地点 197 号住居跡出土遺物② (1/4)

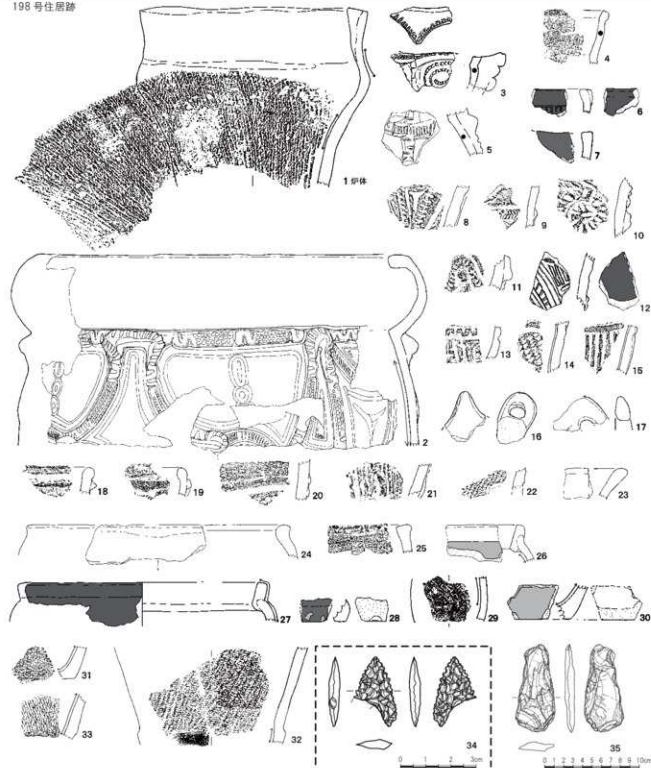


第83図 西ノ原遺跡第158地点197号住居跡出土遺物③(1/4)

197号住居跡

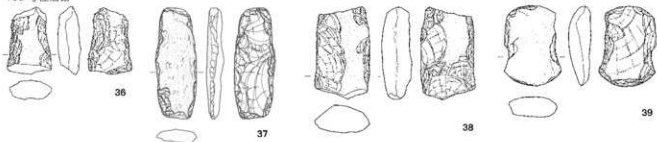


198号住居跡

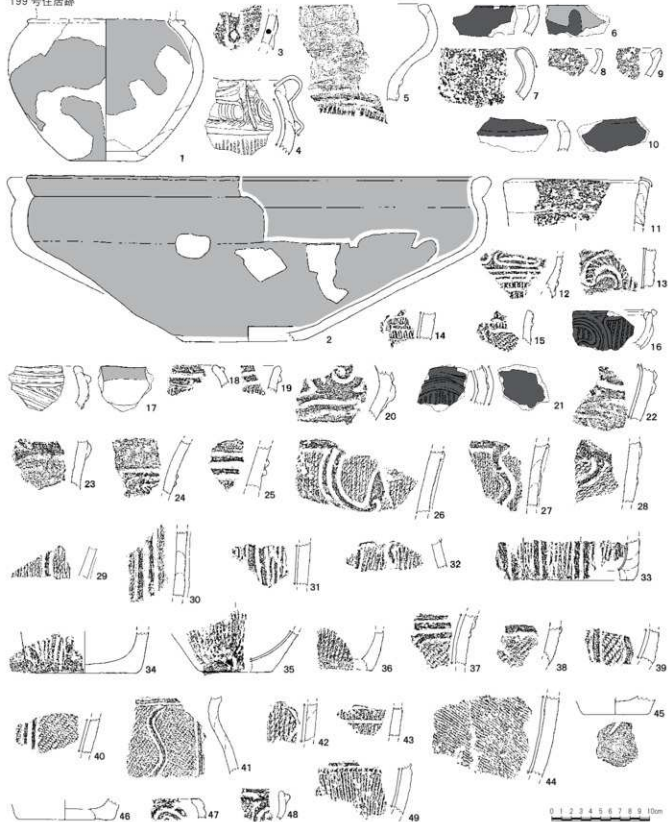


第84図 西ノ原遺跡第158地点197④・198①号住居跡出土遺物(1/4・2/3)

198号住居跡

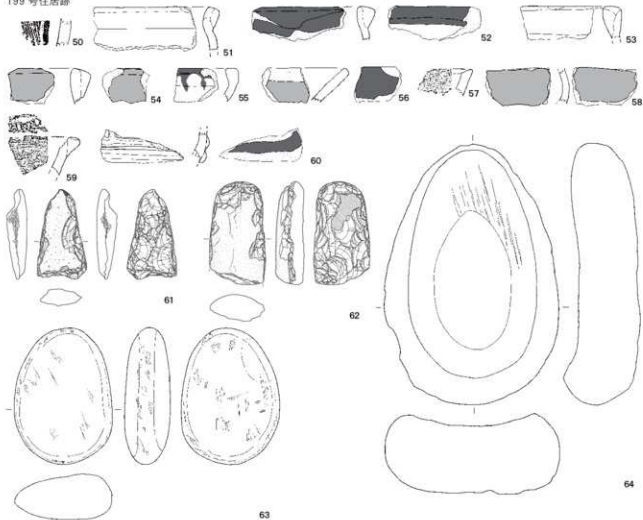


199号住居跡

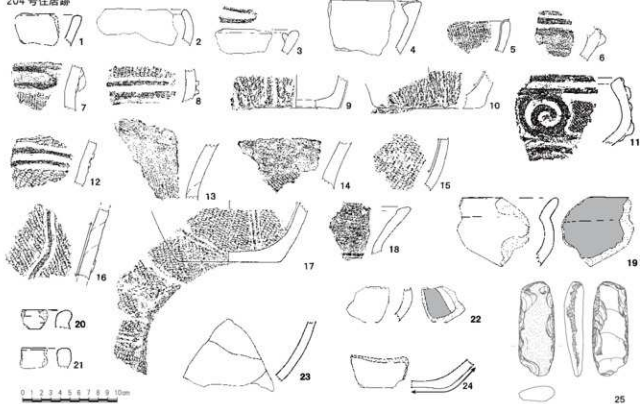


第85図 西ノ原遺跡第158地点198②・199①号住居跡出土遺物(1/4)

199号住居跡



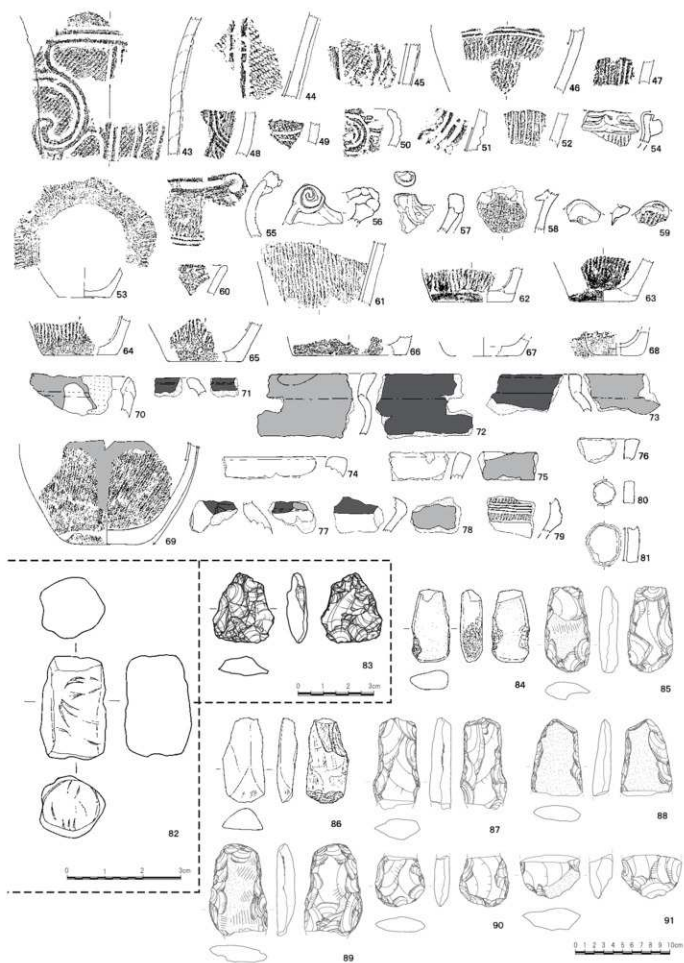
204号住居跡



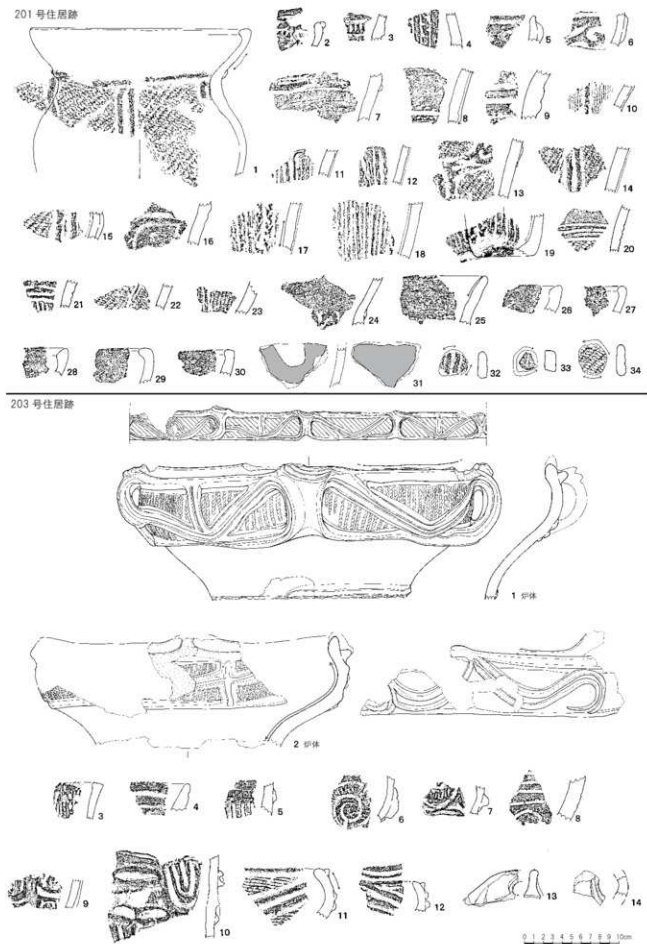
第86図 西ノ原遺跡第158地点199②・204号住居跡出土遺物(1/4)



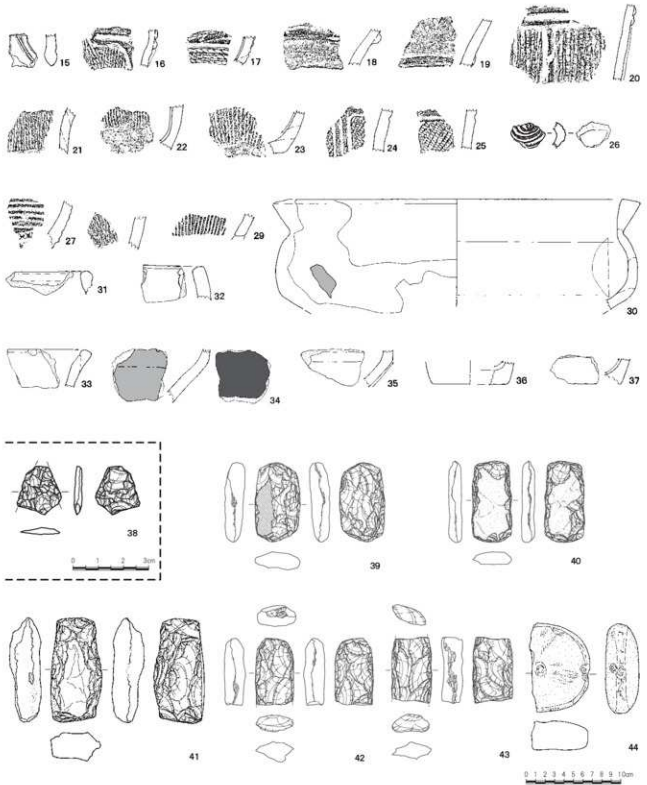
第87図 西ノ原遺跡第158地点200号住居跡出土遺物①(1/4)



第88図 西ノ原遺跡第158地点200号住居跡出土遺物②(1/4・2/3・1/1)

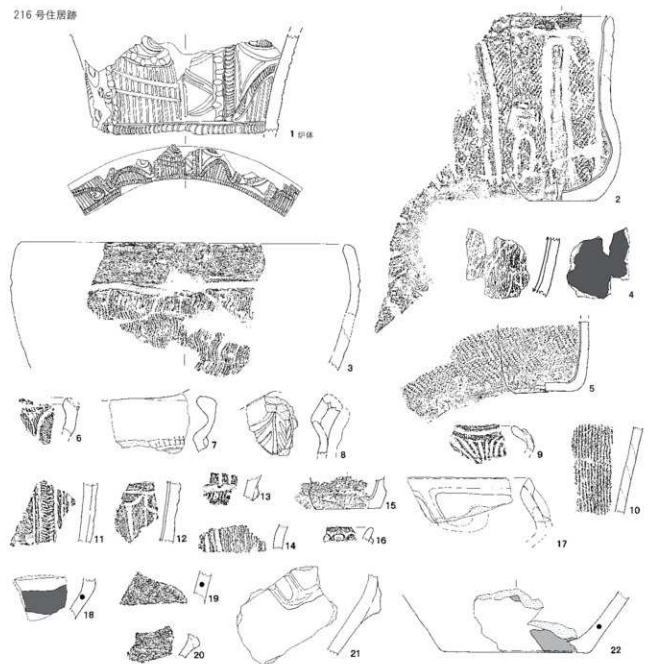


第89図 西ノ原遺跡第158地点201・203①号住居跡出土遺物(1/4)



第90図 西ノ原遺跡第158地点203号住居跡出土遺物②(1/4・2/3)

216号住居跡

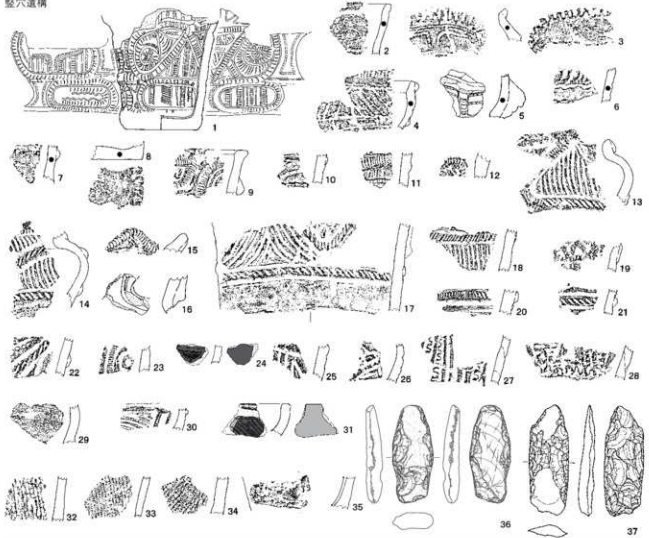


掘り込み遺構

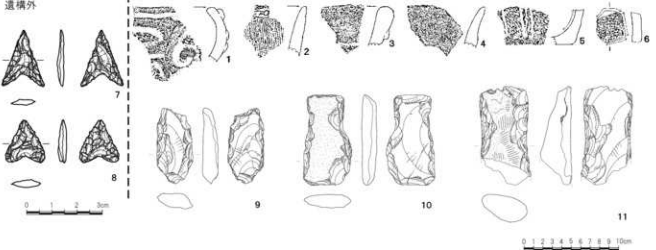


第91図 西ノ原遺跡第158地点216号住居跡、掘り込み遺構出土遺物(1/4)

竪穴遺構



遺構外



第 92 図 西ノ原遺跡第 158 地点竪穴遺構・遺構外出土遺物 (1/4・2/3)

第50表 西ノ原遺跡第158地点出土遺物観察表

図面番号	出土遺物の種類	種別・形態	口径・長さ	直径・幅	高さ・厚さ	経法・文様・その他	推定年代
第7302-1	61号住居跡	深鉢/口縁～胴部	(32.0)		(22.4)	4単位の変状口縁/口縁部文様帯は別目障帯によるワラビ手・弧状文を組み合わせた4単位(文様は4単位であるが、型は2種類である)。障帯帯には沈線を含む。区画内には汎用文で読む三文字の平行沈線を充満。沈線部下の1/4寸には溝書き文が刻まれていたと見られる。横筋は横位瓦敷文/口縁部内面/口縁部外面は部分的に保ある。黒色の赤彩が付着。胴部内面は被熱によるハジケが顕著である/粘土結晶片岩を含む	中期中葉/障帯目
第7302-2		深鉢/胴部				伊土器の外側から出土。旧伊土器/内面は被熱により表面割れる/別目障帯・沈線による区画。区画内は三文字・陶器に汎用文の文様	中期中葉/障帯目
第7302-3		深鉢	25	11.1	41.4	口縁部に突起。障帯帯には変状の沈線。胴上部に文様帯を附ける。別目障帯によるハの字状の区画を中心に、大きく2単位に分けられる。それぞれが分断されており、区画内には沈線を充満。胴下部は幅2cmほどの多角工具による縦位条線/粘土・結晶片岩を含む	中期中葉/障帯目
第7302-4		深鉢	18.0	9.8	28.8	5単位に区切られた口縁部文様帯/上は単沈線。下は別目障帯で区画し。縦位の区画には平行沈線部に刻み・交互刻みを用いる/各区画内では上部に円、下部に三角に近い横円・横丸形状の向き合うよう配置されている/内面に縦付着	中期中葉/障帯目
第7302-5		深鉢/口縁～胴部	(23.6)		(20.0)	別目障帯を縦位に5単位。三角の区画内には①汎用文に沿う変状沈線。②先立工具の連続刻列。③平行沈線を附す。④と⑤をセット関係と捉えると、2単位余りとなる/表面はナデにより滑らか/粘土結晶片岩・石炭を含む。外蓋赤彩、内面黒黒あり	中期中葉/障帯目
第7402-6	深鉢/胴部				ヒダ状底・胎土露母・石炭を含む	中期中葉/河玉台	
第7402-7	深鉢/胴部				幅の違う平行押引文・連続刻みによる変状文	中期中葉/障帯目	
第7402-8	深鉢/胴部				地文和彫糸。障帯上刻目と直交する汎用文	中期中葉/障帯目	
第7402-9	深鉢/口縁部				口縁部連続刻列。障帯上刻目は障帯工具側面の押印	中期中葉/障帯目	
第7402-10	深鉢/口縁部				口縁部。障帯上に刻目。区画内平行沈線	中期中葉/障帯目	
第7402-11	深鉢/口縁部				変状口縁/口縁・障帯上に刻目。胎には沈線。区画内ペン先立工具の連続刻列・汎用文	中期中葉/障帯目	
第7402-12	深鉢/胴部				別目障帯帯に沈線。区画内沈線工具の連続刻列・沈線	中期中葉/障帯目	
第7402-13	深鉢/胴部				障帯上細かな刻み。障帯上に刻目	中期中葉/障帯目	
第7402-14	深鉢/胴部				障帯上に汎用文。部分的に矢羽状になる	中期中葉/障帯目	
第7402-15	深鉢/胴部				障帯上に刻目。胎に沈線	中期中葉/障帯目	
第7402-16	深鉢/胴部				障帯上に刻目。胎・区画内に沈線	中期中葉/障帯目	
第7402-17	深鉢/胴部				障帯上に刻目沈線による円文	中期中葉/障帯目	
第7402-18	深鉢/胴部				縦位の障帯。幅広で低い障帯の上面・側面に刻目。胎に沈線/内面ミガキ	中期中葉/障帯目	
第7402-19	深鉢/胴部				障帯上刻目。単沈線による溝書き	中期中葉/障帯目	
第7402-20	深鉢/胴部				障帯上に刻目。単沈線で三文字・溝書き	中期中葉/障帯目	
第7402-21	深鉢/口縁～胴部	(14.4)		(11.2)	地文縦位和彫糸。沈線による変状文/内面に縦付着	中期中葉/障帯目	
第7402-22	深鉢/口縁部	(17.8)		(6.5)	沈線による区画。区画内平行沈線・刻目	中期中葉/障帯目	
第7402-23	深鉢/口縁部				沈線による区画/外蓋黒色	中期中葉/障帯目	
第7402-24	深鉢/口縁部				沈線部に刻目	中期中葉/障帯目	
第7402-25	深鉢/口縁部				沈線部連続刻列	中期中葉/障帯目	
第7402-26	深鉢/口縁部				沈線部に極めの沈線を充満/粘土角閃石を含む	中期中葉/障帯目	
第7402-27	深鉢/口縁部				沈線と刻みによる文様	中期中葉/障帯目	
第7402-28	深鉢/胴部				胎2と同一一体	中期中葉/障帯目	
第7402-29	深鉢/胴部				沈線による区画。刻みの充填。内面ミガキ	中期中葉/障帯目	
第7402-30	深鉢/胴部				横位区画として平行沈線部の交互刻み・沈線間刻み/粘土角閃石を含む	中期中葉/障帯目	
第7402-31	深鉢/胴部				沈線による区画。区画内刻みの平行する沈線	中期中葉/障帯目	
第7402-32	深鉢/胴部				沈線区画内に押引文/内外面赤化	中期中葉/障帯目	
第7402-33	深鉢/口縁部	(22.2)			口縁部文様。幅広で低い別目障帯による顔部区画。障帯帯には沈線/粘土白色粒・小塊	中期中葉/障帯目	
第7402-34	深鉢/口縁部				無文	中期中葉/障帯目	
第7402-35	深鉢/口縁部				無文/外蓋黒色	中期中葉/障帯目	
第7402-36	深鉢/口縁部				無文/内外蓋赤彩	中期中葉/障帯目	
第7402-37	深鉢/口縁部				沈線部に汎用文/粘土角閃石を含む。内面に縦付着	中期中葉/障帯目	
第7402-38	深鉢/口縁部				沈線/胎土露母を含む	中期中葉/障帯目	
第7402-39	深鉢/口縁部				外蓋赤彩。内面黒黒あり	中期中葉/障帯目	
第7402-40	深鉢/胴部				縦位和彫糸/内面赤化	中期中葉/障帯目	
第7402-41	深鉢/胴部		(11.0)		縦～斜位和彫糸/内面にわずかに縦付着	中期中葉/障帯目	
第7402-42	深鉢/口縁部				口縁部平行する障帯。一部交互刻みをもつ障帯による方形区画。区画内縦位瓦敷文/粘土角閃石を含む	中期中葉/障帯目	
第7402-43	深鉢/口縁部				地文横位瓦敷文。口縁に変状の沈線/粘土結晶片岩を含む	中期中葉/障帯目	
第7402-44	深鉢/口縁～胴部	(20)		(15.8)	変状口縁/地文横位瓦敷文。縦い別目障帯帯に先の太った工具による刻列・変状沈線	中期中葉/障帯目	
第7402-45	深鉢/口縁部				地文縦位瓦敷文。沈線による顔部区画。玉拍き三文字/粘土結晶片岩を含む	中期中葉/障帯目	
第7402-46	深鉢/胴部				胎45と同一一体	中期中葉/障帯目	
第7402-47	深鉢/胴～底部		11.6	(27.4)	縦位瓦敷文/外蓋黒色/胎土露母による上部が変色し、下部にはハジケが見られる。内面は下部に縦付着	中期	
第7402-48	深鉢/胴部				胴上部/沈線による区画内ペン先立の刻列/内面黒色	中期中葉/障帯目	
第7402-49	深鉢/胴～底部	(8.8)		(14.0)	胴下部/平行沈線による上部との区画。横位瓦敷文/内面は溝書きを留し。平滑にナデられ。やや光沢を持つ/胎48と同一一体	中期中葉/障帯目	
第7502-50	深鉢/胴部				横位和彫文。内面赤化	中期	
第7502-51	深鉢/胴部				縦位瓦敷文。内面赤化	中期	
第7502-52	深鉢/胴～底部	(8.2)		(17.0)	斜位瓦敷文	中期	
第7502-53	口縁部突起				沈線による玉拍き三文字。右側の三文字は沈線の後に刻列も加え。陶器に刻みを残す	中期中葉/障帯目	
第7502-54	口縁部突起				一部赤彩	中期	
第7502-55	横位把手				3本の断面三角形の隆帯	中期	
第7502-56	横位把手				縦位瓦敷文/粘土角閃石を含む	中期	
第7502-57	口縁部突起				3面に刻目	中期	
第7502-58	口縁部突起				断面三角形の隆帯を三文字状に貼り付け。隆帯上に刻み。内外面ミガキ	中期	
第7502-59	浅鉢/口縁部				変状口縁/内外面に赤彩/胎土露母を含む	中期	

図版番号	出土遺構名	種別・図種	口縁・長さ	底径・厚さ	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定年代
第7500-60		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ、内外面赤彩、縁らに煤が付着	中朝
第7500-61		浅鉢/口縁部				口縁上の突起を欠損/胎土角閃石・白色粒子を含む	中朝
第7500-62		浅鉢/口縁部	(44.2)			内外面赤彩・ミガキ、口縁内面の一部のみ無彩/内面に煤に煤が付着	中朝
第7500-63		浅鉢/口縁部				波状口縁波頭部/三叉文、内外面ミガキ	中朝
第7500-64		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ	中朝
第7500-65		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ/胎土結晶内岩を含む	中朝
第7500-66		浅鉢/口縁部	(38.8)			内外面赤彩・ミガキ	中朝
第7500-67		浅鉢/口縁部				内外面赤彩・ミガキ	中朝
第7500-68		浅鉢/口縁部				内外面赤彩・ミガキ	中朝
第7500-69		浅鉢/口縁部				内外面赤彩・ミガキ	中朝
第7500-70		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ	中朝
第7500-71		浅鉢/口縁部				口縁から幅の広くて厚い隆帯を垂下、隆帯上は平行波線と刺突/胎土角閃石・白色粒子を含む	中朝
第7500-72		浅鉢/口縁部				内面赤彩、内外面ミガキ	中朝
第7500-73		浅鉢/胴部				内外面赤彩・ミガキ	中朝
第7500-74		浅鉢/胴部				外面赤彩・ミガキ/外面に赤色顔料付着	中朝
第7500-75		浅鉢/胴部				内外面ミガキ/先工具の凹跡による穿孔	中朝
第7500-76		深鉢/底部	(8.0)			焼熱によるハジケ、底面は焼成不良?で白色を呈する/胎土角閃石・白色粒子	中朝
第7500-77		深鉢/底部	9.5			焼熱によるハジケ、特に内面に顕著	中朝
第7500-78		深鉢/底部	7.7			焼熱によるハジケ数/胎土に白色粒子を多く含む	中朝
第7500-79		深鉢/底部	7			底面と胴部との接合部にはヒダ状の指痕押圧が施され、その上に編織みを行う	中朝
第7500-80		深鉢/底部	(8.0)			無文底部	中朝
第7500-81		石葺/打製石葺	14.29	6.17	2.07	石葺・質量210.24g/先形/撥型/方部厚減し偏刀となら、右側面に方直し状の縞が1割程	
第7500-82		石葺/打製石葺	8.02	6.55	3.38	石葺・予らシフェルス/229.65g/先形/撥型/基部に厚減面を有す、長さ、厚み共に1と対応的である	
第7500-83		石葺/打製石葺	(6.77)	(6.58)	(3.37)	石葺・中粒砂質/207.18g/基部破片/ややくびれる分銅型/くびれ部分に厚減が見られる	
第7500-84		石葺/磨削製石葺	8.12	4.17	1.26	石葺・薄縁凝灰岩/65.02g/先形/方部のみ研磨する。表面は自然面	
第7600-1		深鉢/胴～胴部				口縁部の3箇所が突出する/口縁部沈没による褐色文、胴部無文等と各自縦帯により区画、胴部は地文残存/内外面赤彩、胎土・赤褐色を呈し、白色粒子を含む	中朝中葉/加賀群I
第7600-2		深鉢/胴～胴部				隆帯による胴部との区画、縦位し赤系/胎土角閃石・白色粒子を含む	中朝中葉/加賀群I
第7600-3		深鉢/胴～底部	7.0	(15.0)		地文縦位し赤系/隆帯による無文文/内面と外面上部に煤が付着	中朝中葉/加賀群I
第7600-4		深鉢/胴～底部	9.0	(16.0)		縦位し赤系/内面下部に煤付着	中朝
第7600-5		深鉢/胴～底部	7.6	(12.5)		縦位し赤系/内面に煤付着	中朝
第7600-6		浅鉢	(26.4)	7.8	17.1	内外面ミガキ、外面には黒煎が広がる	中朝
第7600-7		深鉢/口縁部				胎土金雲母・石葉を含む	中朝中葉/阿玉台
第7600-8		深鉢/口縁部				口縁部に汎用文	中朝中葉/善徳Ⅲ
第7600-9		深鉢/口縁部				口縁部に汎用文	中朝中葉/善徳Ⅲ
第7600-10		深鉢/口縁部				創目隆帯による口縁部区画/内面に黒煎あり	中朝中葉/善徳Ⅲ
第7600-11		深鉢/口縁部				創目隆帯による口縁部区画、隆帯上には棒状工具による刺突/頸部無彩/胎土角閃石を含む	中朝中葉/善徳Ⅲ
第7600-12		深鉢/胴部				波線間に汎用文	中朝中葉/善徳Ⅲ
第7600-13		深鉢/胴部				創目隆帯と沈没による文様/内面赤彩	中朝中葉/善徳Ⅲ
第7600-14		深鉢/口縁部				隆帯による円文、下位にボタン状の貼り付け文が連なる	中朝中葉/善徳
第7600-15		深鉢/口縁部				無文口縁部/基部に沈線/外表面赤色	中朝
第7600-16		深鉢/口縁部				無文口縁部/外表面赤彩・黒色、内表面黒色	中朝
第7600-17		深鉢/口縁部				無文口縁部/口唇部煤付着	中朝
第7600-18		深鉢/口縁部				無文口縁部	中朝
第7600-19		深鉢/口縁部				無文口縁部/内外面赤彩	中朝
第7600-20		深鉢/口縁部				波頭部/中央に穿孔、下部に煎煎系	中朝
第7600-21		深鉢/口縁部				縦線状突起、地文縦位し赤系/S字の平行隆帯が正面と上面に付く	中朝中葉/加賀群I
第7600-22		深鉢/口縁部				縦線状突起上部破片/取り上げNo88同様、縦線状突起にS字の平行隆帯を付けたもの/胎土はNo1と同一である	中朝中葉/加賀群I
第7600-23		深鉢/口縁部				山型の口縁上突起	中朝中葉/加賀群I
第7600-24		深鉢/口縁部				突起部・平行する隆帯を用いる/赤彩	中朝中葉/加賀群I
第7600-25		深鉢/口縁部				地文縦位し赤系/平行する隆帯	中朝中葉/加賀群I
第7600-26		深鉢/口縁部				地文縦位し赤系/隆帯による文様/外表面赤彩	中朝中葉/加賀群I
第7600-27		深鉢/口縁部				波状口縁/地文縦位し赤系/隆帯による文様	中朝中葉/加賀群I
第7600-28		深鉢/口縁部				地文縦位し赤系/隆帯・内面赤彩か	中朝中葉/加賀群I
第7600-29		深鉢/口縁部				地文縦位し赤系/平行隆帯による滑きき文	中朝中葉/加賀群I
第7600-30		深鉢/口縁部				地文縦位し赤系/低い平行隆帯によるフラビキ文	中朝中葉/加賀群I
第7600-31		深鉢/口縁部				地文縦位し赤系/突出する平行隆帯	中朝中葉/加賀群I
第7600-32		深鉢/口縁部				地文縦位し赤系/突出する平行隆帯/内面黒色	中朝中葉/加賀群I
第7600-33		深鉢/口縁部				地文縦位し赤系/平行隆帯による文様/内表面焼熱によるハジケあり	中朝中葉/加賀群I
第7600-34		深鉢/胴部				頸部無文等/口縁部とは隆帯、胴部とは沈没で区画する/内面はナデにより光沢を持つ、内外面に焼熱によるハジケあり	中朝中葉/加賀群I
第7600-35		深鉢/胴部				地文縦位し赤系/胴部との境に低い隆帯を貼り付け/焼熱によるハジケあり、内面炭化	中朝
第7700-36		深鉢/胴部				地文縦位し赤系/平行隆帯による胴部文様/外表面焼熱によるハジケあり	中朝中葉/加賀群I
第7700-37		深鉢/底部				地文縦位し赤系/隆帯による無文文/内面煤付着	中朝中葉/加賀群I
第7700-38		深鉢/口縁部				地文縦位し赤系	中朝中葉/加賀群I
第7700-39		深鉢/胴部				地文縦位し赤系/平行隆帯による無文文/内面煤付着	中朝中葉/加賀群I

図層番号	出土 遺構名	種別・西層	口徑・ 長さ	直径・ 幅	高さ・ 厚さ	技法・文様・その他	推定年代
第77図-40		深鉢/胴部				地文縦位乱織文/斜位に平行隆帯/胎土:結晶片岩を含む	中期中葉/加賀群Ⅰ
第77図-41		深鉢/胴部				地文縦位乱織文/隆帯による整条文	中期中葉/加賀群Ⅰ
第77図-42		深鉢/口縁部				袋状になる口縁部/沈線による隆張文	中期中葉/加賀群Ⅰ
第77図-43		深鉢/口縁部				沈線による隆張文	中期中葉/加賀群Ⅰ
第77図-44		深鉢/口縁部				突出部/平行する沈線による隆張文と見られる	中期中葉/加賀群Ⅰ
第77図-45		深鉢/口縁部				横位の平行沈線、一部沈線に刻突	中期中葉/賀利系
第77図-46		深鉢/口縁部				波状突起部/平行する断面三角形の隆帯を貼り付け	中期
第77図-47		深鉢/口縁部				波状突起部/平行する隆帯を口縁・口縁部に貼り付け、脇に沈線を施す	中期
第77図-48		深鉢/口縁部				波状口縁/隆帯を貼り付け口縁を厚くし、口唇部に沈線を施した後に胎面に平行する隆帯を加え、平行する粘土縞を口縁から垂下する/地文縦位乱織文/内面黒色	中期
第77図-49		深鉢/口縁部				※	中期
第77図-50		深鉢/口縁部				波状口縁/隆帯を貼り付け口縁を厚くし、口唇部に沈線を施した後に胎面に平行する隆帯を加え、平行する粘土縞を口縁から垂下する/地文縦位乱織文	中期
第77図-51		深鉢/口縁部				粘土縞を貼り付け口縁を厚くし、口縁から沈線を垂下か	中期
第77図-52		深鉢/口縁部				地文縦位乱織文/細い粘土縞を貼り付け口縁が字状になる	中期
第77図-53		深鉢/胴部				地文縦位乱織文/粘土縞を波状に貼り付ける	中期
第77図-54		深鉢/胴部				横位の平行沈線間に上方からの刻突/内外面に熱焼によるハジケあり	中期中葉/賀利系
第77図-55		深鉢/胴部				地文縦位乱織文	中期中葉/賀利系
第77図-56		深鉢/口縁部				地文斜位乱織文/多量管状工具の内皮例による隆張文	中期中葉/加賀群Ⅱ
第77図-57		深鉢/口縁部				地文縦位乱織文/多量管状工具の内皮例による隆張文/内面黒色	中期中葉/加賀群Ⅱ
第77図-58		深鉢/胴部				地文縦位乱織文/沈線による整条文/胎土:角閃石、まれに金雲母を含む	中期中葉/加賀群Ⅱ
第77図-59		深鉢/胴部				地文縦位乱織文/胎土:角閃石を含む	中期
第77図-60		深鉢/胴部				地文縦位乱織文	中期
第77図-61		深鉢/胴部				地文縦位乱織文/内面熱焼によるハジケ、種実残存?あり	中期
第77図-62		深鉢/底部	(12)			地文縦位乱織文	中期
第77図-63		深鉢/底部				地文縦位乱織文/内面炭化し、内外面に熱焼によるハジケあり/胎土:角閃石を含む/内面埋付層	中期
第77図-64		深鉢/底部				地文縦位乱織文/内面炭化する	中期
第77図-65		深鉢/胴部				地文縦位乱織文	中期
第77図-66		深鉢/底部	(10.6)			無文底部/内面炭化し、炭化物が付着する	中期
第77図-67		深鉢/底部	(11.2)			内面に埋付層	中期
第77図-68		深鉢/底部	(6.6)			熱焼によるハジケ	中期
第77図-69		深鉢/底部	(6.6)			胎土に砂層を多く含む	中期
第77図-70		深鉢/口縁部				内外面ミガキ/扁平な隆帯による文様	中期
第77図-71		深鉢/口縁部				内外面ミガキ、内面に黒炭/外表面熱焼によるハジケあり	中期
第77図-72		深鉢/口縁部				内外面ミガキ、黒色を呈する/外表面熱焼によるハジケあり	中期
第77図-73		深鉢/口縁部				内外面ミガキ	中期
第77図-74		深鉢/口縁部				内外面ミガキ、口唇部に赤彩が残存する/内外面に熱焼によるハジケあり	中期
第77図-75		深鉢/口縁部				内外面ミガキ	中期
第77図-76		深鉢/口縁部				部分的に赤彩が残存する	中期
第77図-77		深鉢/口縁部				横位に沈線を伴う細い粘土縞を貼り付け、その上に交互刻突/内面ミガキ	中期
第77図-78		浅鉢/胴部				外面に赤彩、内面ミガキ・黒色を呈する/外表面熱焼によるハジケあり	中期
第77図-79		浅鉢/底部				内面ミガキ/外表面熱焼によるハジケあり、胎土無し	中期
第77図-80		浅鉢/底部	(13.0)			無文底部/内面ミガキ	中期
第77図-81		覆付土器/口縁部				覆付の突起/沈線区画内に管状工具による刻突を充填/内面黒色でミガキ	中期
第77図-82		ミニチュア土器	3.8	0.8	0.48	沈線による文様/胎土:黒く、熱焼か	中期
第77図-83		土製品/磨石	1.84	1.83	0.62	壳形/近賀川/1.76g	中期中葉/加賀群Ⅱ
第78図-84		石器/石鏝	2.69	1.75	0.28	石質チャート(灰色・不透明、黒線入り)/1.47g/壳形/平基/素材割片の形状を生かし、断面の縦線のみ行う	中期中葉/加賀群Ⅱ
第78図-85		石器/石鏝	2.48	1.44	0.52	石質、黒電石(灰色・やや不透明)/1.77g/角製品/右側面を調整し、左上側に補修跡があるため、土器としての使用用途の可能性がある	中期中葉/加賀群Ⅱ
第78図-86		石器/石鏝	7.22	5.43	1.61	石質、極細粒砂岩/62.91g/壳形/船装/方部は平基・断面共にやや丸みを帯び、砥はなし	中期中葉/加賀群Ⅱ
第78図-87		石器/石鏝	7.86	4.24	0.96	石質、赤岩/40.93g/壳形/磨盤のやや発達した石、3凹線方部はのみを帯び	中期中葉/加賀群Ⅱ
第78図-88		石器/打製石斧	(9.57)	(5.06)	(2.26)	石質、半ルンフェルス/(121.81g)/刃部欠損/磨盤/自然面を大きく残す、基部はさび状に薄く作られ、左側面に刃溝し状の細い刻突	中期中葉/加賀群Ⅱ
第78図-89		石器/磨製石斧	(8.73)	(2.99)	(1.11)	石質、極細粒砂岩/(35.99g)/基部断面破片/打点は上方	中期中葉/加賀群Ⅱ
第78図-90		石器/製石	13.17	3.84	2.40	石質、極細粒砂岩/184.03g/壳形/上下端部が黒色光沢を持つ、表面面全体的に磨付層	中期中葉/加賀群Ⅱ
第78図-91		深鉢/口縁部				横位に手摺部/平行する押し引き文、縦に刻突/胎土:金雲母を含む	中期中葉/加賀群Ⅱ
第78図-92		深鉢/口縁部				押し引き文/口縁部に彫文/内外面赤彩	中期中葉/加賀群Ⅱ
第78図-93		深鉢/口縁部				扁平な隆帯上に沈線と彫文、脇に沈線/黒炭有	中期中葉/加賀群Ⅱ
第78図-94		深鉢/胴部				斜目隆帯、脇に沈線、区画内沈線	中期中葉/加賀群Ⅱ
第78図-95		深鉢/胴部				沈線による文様	中期中葉/加賀群Ⅱ
第78図-96		深鉢/口縁部				波状口縁/無文口縁部、断面部に短突の粘土縞/外表面黒色	中期中葉/加賀群Ⅱ
第78図-97		深鉢/口縁部				無文口縁部/熱焼によるハジケあり、口唇部〜外面にかけて埋付層	中期中葉/加賀群Ⅱ
第78図-98		深鉢/口縁部				無文口縁部/熱焼によるハジケあり	中期中葉/加賀群Ⅱ
第78図-99		深鉢/口縁部				無文口縁部	中期中葉/加賀群Ⅱ
第78図-100		深鉢/口縁部	(26.4)			地文縦位乱織文/平行隆帯による文様、口縁上に連続した突起と赤彩/外面に埋付層	中期中葉/加賀群Ⅰ
第78図-101		深鉢/口縁部				地文縦位乱織文/平行隆帯による文様、口縁ミガキ、光沢有、内外面赤彩	中期中葉/加賀群Ⅰ
第78図-102		深鉢/胴部				頸部無文、平行隆帯による頸部区画/頸部地文縦位乱織文/胎土:角閃石を含む	中期中葉/加賀群Ⅰ
第78図-103		深鉢/胴部				平行隆帯による頸部区画/頸部地文縦位乱織文/隆帯による整条文/No.12と同一個体か	中期中葉/加賀群Ⅰ
第78図-104		深鉢/胴部				地文斜位乱織文/隆帯による文様	中期中葉/加賀群Ⅰ
第78図-105		深鉢/胴部				地文縦位乱織文/隆帯による整条文	中期中葉/加賀群Ⅰ

図版番号	出土 遺構名	種別・西種	口径・ 長さ	底径・ 幅	高さ・ 厚さ	技法・文様・その他	推定年代
第7802-16		深鉢/胴部				地文縦位向隅糸/粘土層による底行無文/内面漆付着	中期中葉/加賀時代Ⅰ
第7802-17		深鉢/胴部				地文縦位向隅糸/細い隆帯と沈線による無文/沈線によるハジケあり、内面漆付着	中期中葉/加賀時代Ⅰ
第7802-18		深鉢/胴部				地文縦位向隅糸	中期
第7802-19		深鉢/底部				地文縦位向隅糸/内面に漆付着	中期中葉/加賀時代Ⅰ
第7802-20		深鉢/底部				地文縦位向隅糸	中期
第7802-21		深鉢/口縁部				地文縦位向隅文/平行隆帯によるクラク文。片側はやや上向きの溝巻きとなる	中期中葉/加賀時代Ⅰ
第7802-22		深鉢/口縁部				地文縦位向隅文	中期中葉/加賀時代Ⅰ
第7802-23		深鉢/口縁部				地文縦位向隅文	中期中葉/加賀時代Ⅰ
第7802-24		深鉢/口縁部				地文横位向隅文/隆帯による頸部無文帯との区画	中期中葉/加賀時代Ⅰ
第7802-25		深鉢/胴部				地文縦位向隅文/平行隆帯	中期中葉/加賀時代Ⅰ
第7802-26		深鉢/胴部				地文縦位向隅文	中期中葉/加賀時代Ⅰ
第7802-27		深鉢/胴部～底部	(16)			地文縦位向隅文/隆帯による無文/内面縦方向のミガキにより平滑、内面赤彩	中期中葉/加賀時代Ⅰ
第7802-28		深鉢/底部				地文縦位向隅文/低い隆帯による無文/内面漆付着	中期中葉/加賀時代Ⅰ
第7802-29		深鉢/底部				地文縦位向隅文/隆帯による無文/粘土角閃石を含む、内面漆付着	中期中葉/加賀時代Ⅰ
第7802-30		深鉢/胴部				地文縦位向隅文/沈線による無文	中期中葉/加賀時代Ⅰ
第7802-31		深鉢/胴部				地文縦位向隅文/多岐管状工具の沈線による無文/内面ミガキ・底化する	中期中葉/加賀時代Ⅰ
第7802-32		深鉢/底部	(8.4)			地文縦位向隅文/多岐管状工具の沈線による無文/底面ナデにより平滑/内面漆付着	中期中葉/加賀時代Ⅰ
第7802-33		深鉢/底部	(7.8)			地文縦位向隅文/底面ナデにより平滑/内面底化みられる	中期
第7802-34		深鉢/口縁部				隆帯による口縁部文様	中期中葉/加賀時代Ⅰ
第7802-35		深鉢/胴部				隆帯による口縁部との区画、頸部無文/外面に僅かに漆付着	中期中葉/加賀時代Ⅰ
第7802-36		深鉢/胴部				隆帯による胴部との区画、頸部無文	中期中葉/加賀時代Ⅰ
第7802-37		深鉢/胴部				隆帯による胴部との区画、頸部無文	中期中葉/加賀時代Ⅰ
第7802-38		深鉢/口縁部	(26.1)			4単位波状口縁/無文口縁部/口唇部に沈線/胴部に3条の沈線、沈線による無文/内面に沈線によるハジケあり	中期中葉/善利時代
第7802-39	194号住居跡	深鉢/口縁部				波頭部/地文縦位向隅文/波頭部に刻み約する2本の隆帯、下位の波頭部からも隆帯が垂下する	中期
第7802-40		深鉢/口縁部				縦位に平行する隆帯/内面ミガキ	中期
第7802-41		深鉢/胴部				縦位の沈線/内面底化する	中期
第7902-42		深鉢/胴部				縦位の沈線/内面底化する	中期
第7902-43		深鉢/胴部				縦位条線	中期
第7902-44		深鉢/胴部				棒状工具による沈線で縦帯状の文様	中期
第7902-45		深鉢/胴部				沈線による文様。ナデにより表面平滑	中期
第7902-46		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ。黒色を呈す	中期
第7902-47		浅鉢/口縁部				口唇部～外面にかけて黒褐色	中期
第7902-48		浅鉢/口縁部				口唇部に黒褐色	中期
第7902-49		浅鉢/胴部				内外面ミガキ	中期
第7902-50		浅鉢/胴部				内外面赤彩・ミガキ	中期
第7902-51		浅鉢/胴部				外面に赤彩、内外面ミガキ	中期
第7902-52		浅鉢/胴部				沈線による文様、器底部に刻み	中期
第7902-53		浅鉢/胴部				無文/器面に沈線によるハジケ顕著	中期
第7902-54		不明				無文/粘土角閃石を含む	中期
第7902-55		浅鉢/胴部				外面ミガキ	中期
第7902-56		深鉢/胴部				頸部無文帯/隆帯による口縁部区画	中期中葉/加賀時代Ⅰ
第7902-57		深鉢/底部				隆帯任意?あり	中期
第7902-58		小型鉢/底部		(4.8)		薄手なため、小型の土器と考えられる/外表面漆付着	中期
第7902-59		深鉢/底部				底面?ナ調整により光沢を持つ	中期
第7902-60		石器/石鏃	(2.54)	(1.36)	0.32	石質チャート(灰白色、やや不透明)(0.91g)/基部欠損/刃縁/側面に縦帯状に加工	
第7902-61		石器/打製石片	10.04	4.99	2.29	石質-中粒砂岩/129.75g/先形/短形/刃部直線的。表面に黒褐色。左側面縁上潰れ	
第7902-62		石器/打製石片	10.00	5.43	2.28	石質-粗粒砂岩/165.82g/先形/短形/刃部直線的。表面に黒褐色。酸化した鉄分?が付着する	
第7902-63		石器/打製石片	7.58	2.87	(1.12)	石質-埋藏凝灰岩/41.16g/真直欠損	
第7902-1	196号住居跡	深鉢/胴部～底部	最大径 34.8	(16.5)	最小径 22	地文縦位向隅糸/頸部無文/平行隆帯による頸部区画、無文/内面に沈線によるハジケや彩色あり	中期中葉/加賀時代Ⅰ
第7902-2		深鉢/口縁～胴上部	30.2	(22.8)		口縁に大突起1、小突起3/口縁部(地文横位向隅文、平行隆帯による文様)/頸部無文/胴部(地文縦位向隅文、隆帯による無文)	中期中葉/加賀時代Ⅰ
第7902-3		深鉢/口縁～胴上部	25.4	(15.4)		口縁部(平行隆帯、単隆帯によるワラビ手文を5単位、区画内は縦位の平行沈線を見積)/頸部無文/胴部(地文縦位向隅文)	中期中葉/加賀時代Ⅰ
第7902-4		深鉢/口縁～底部		(8.4)	胴部最大径 19.3	口縁部無文/胴部は斜位、胴部は縦位の多岐管状工具による平行沈線を地文とする/細い粘土層による4種類の無文/内面はミガキにより平滑で、胴部以下は黒色を呈する	中期中葉/善利時代
第8002-5		深鉢/口縁部				粘土・金雲母・石英を含む	中期中葉/阿武台
第8002-6		深鉢/胴部				断面三角形の隆帯上に刺突/平行する引文/粘土・金雲母・石英を含む	中期中葉/阿武台
第8002-7		深鉢/胴部				ヒラ状隆帯/粘土・金雲母・石英を含む	中期中葉/阿武台
第8002-8		深鉢/胴部				沈線部に所収文	中期中葉/善利時代
第8002-9		深鉢/胴部				斜位隆帯、脇に沈線、区画内所収文/粘土結晶片岩を含む	中期中葉/善利時代
第8002-10		深鉢/胴部				沈線による文様	中期中葉/善利時代
第8002-11		深鉢/胴部				隆帯上に管状工具で刺突	中期中葉/善利時代
第8002-12		深鉢/胴部				隆帯上に管状工具で刺突、横位の沈線列	中期中葉/善利時代
第8002-13		深鉢/口縁部				隆帯上に交互刺突	中期中葉/善利時代
第8002-14		深鉢/胴部				隆帯上に交互刺突	中期中葉/善利時代
第8002-15		深鉢/口縁部				無文口縁部/胴部に隆帯	中期中葉/善利時代
第8002-16		深鉢/口縁部				無文口縁部/波状口縁部	中期中葉/善利時代
第8002-17		深鉢/口縁部				無文口縁部	中期中葉/善利時代
第8002-18		深鉢/口縁部				地文縦位向隅糸/平行隆帯	中期中葉/加賀時代Ⅰ

図番番号	出土 遺構名	種別・西端	口徑・ 長さ	直径・ 幅	高さ・ 厚さ	技法・文様・その他	推定年代
第8002-19		深鉢/口縁部				地文縦位肌織文/内面黒色	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-20		深鉢/口縁部				地文縦位肌織文	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-21		深鉢/口縁部 (54.8)				地文縦位肌織文/平行隆帯	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-22		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/平行隆帯	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-23		深鉢/胴部				地文文位肌織文	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-24		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/胴部無文/平行隆帯、整条文	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-25		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/胴部無文/平行隆帯	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-26		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/平行隆帯	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-27		深鉢/胴部→胴部				地文縦位肌織文/胴部無文/平行隆帯、整条文	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-28		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/平行隆帯/内面に埋付着	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-29		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/隆帯による整条文/内面に埋付着	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-30		深鉢/底部				地文縦位肌織文/内面埋付着	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-31		深鉢/底部				地文縦位肌織文/隆帯による整条文	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-32		深鉢/底部				地文縦位肌織文/無い様状の貼り付け文による整条文/内面に埋付着	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-33		深鉢/口縁部				地文縦位肌織文/平行隆帯	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-34		深鉢/口縁部				地文縦位肌織文/平行隆帯	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-35		深鉢/口縁部				地文縦位肌織文/平行隆帯と沈瀬によるワラビ手文/胎土角閃石を含む	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-36		深鉢/口縁部				地文縦位肌織文/平行隆帯/内面埋付着	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-37		深鉢/口縁部				地文縦位肌織文/平行隆帯/内面黒色でやや光沢を持つ	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-38		深鉢/口縁部				地文縦位肌織文	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-39		深鉢/口縁部				地文縦位肌織文/隆帯による渦巻文/胴部無文	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-40		深鉢/口縁部				地文縦位肌織文/口縁部無文、平行隆帯	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-41		深鉢/胴部→胴部				地文縦位肌織文/隆帯による整条文/胴部無文	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-42		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/隆帯による整条文	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-43		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/隆帯による整条文	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-44		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/隆帯による整条文	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-45		深鉢/胴部				胴部無文帯、平行隆帯による区画	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-46		深鉢/胴部				胴部無文帯、平行隆帯による区画	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-47		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/唇曲部に多載管状工具による平行沈瀬・外皮側角を用いた連続刺突	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-48		深鉢/胴部		(9.8)		地文縦位肌織文/多載管状工具による整付整条文	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-49		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/沈瀬による唇部区画、整条文/胴部無文/内面黒色でやや光沢を持つ	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-50		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/多載管状工具による整条文	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-51		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/多載管状工具による整条文	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-52		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/多載管状工具による整条文/胎土角閃石を含む	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-53		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/沈瀬による整条文	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-54		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/沈瀬による整条文/内面に埋付着	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-55		深鉢/口縁部				多載管状工具による平行沈瀬、機率的に爪形文、ボタン状の貼り付け文/内面埋付着	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-56		深鉢/口縁部				沈瀬による螺旋文	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-57		深鉢/口縁部				突起部	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-58		有孔筒付土甕	(14.8)	(14.5)		内外面赤彩/筒部に孔、棒状工具で、3回突き刺して磨孔したと思われる/胴下部に黒泥	中期
第8002-59		有孔筒付土甕				№58と同一個体だが結合しない	中期
第8002-60		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ/外面に赤・黒彩が一帯残る	中期
第8002-61		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ/胎土角閃石を含む	中期
第8002-62		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ	中期
第8002-63		浅鉢/口縁部				内外面赤彩	中期
第8002-64		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ・赤彩/胎土石炭を含む	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-65		浅鉢/口縁部				唇曲部に赤彩が残存	中期
第8002-66		浅鉢/口縁部				唇曲部に隆帯/内外面ミガキ、外面赤彩/口縁へ内面埋付着	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8002-67		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ/口縁へ内面黒色/胎土角閃石を含む	中期
第8102-68		鉢/口縁部→胴部				地文縦位肌織文/平行する低い隆帯による渦巻文/外面に被刺によるハシゲ	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8102-69		浅鉢/胴部				隆帯上に2列の刺突、縦に沈瀬が深い。区画内には沈瀬を先規、内面ナアにより平滑/微塵、割れ口にハシゲ	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8102-70		底部		(11.9)		内面平滑	中期
第8102-71		土製品/耳栓	1.55	2.81		一部欠損/全面ミガキで丁寧な作り。全体的に黒色を呈し、彩色していたと思われる。重量0.12g/胎土細砂粒を少量含む	中期
第8102-72		石器/小型磨製石斧	(1.55)	(1.78)	0.36	石質灰岩/明緑灰色・斑に緑色/(1.45g)/基部欠損	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8102-73		石器/玉?	2.10	1.64	1.30	石質・滑石に5~11黄色2.576×4、やや不透明/6.64g/表面は滑らかで弱い光沢がある。明確な加工部は見られなかった。自然磨光	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8102-74		石器/打製石斧	8.73	5.38	1.84	石質・凝灰岩/100.15g/完形/形状は石器に近いがつまみ部を作らない	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8102-75		石器/打製石斧	13.11	4.69	2.25	石質・凝灰岩/173.17g/完形/扁型/刃部・左側面中位までが研磨され光沢をもつ、左側面上位に磨光	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8102-76		石器/打製石斧	(9.66)	4.38	2.08	石質・凝灰岩/(150.17g)/刃部欠損/扁型/左側面磨光	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8102-77		石器/打製石斧	(4.70)	(3.63)	(1.50)	石質・凝灰岩/(39.26g)/下部欠損/両側面磨光	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8102-78		石器/凹み石	(10.40)	(9.64)	(2.23)	石質・凝灰岩/(306.01g)/一部残存	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8102-1		深鉢/口縁→胴部	34.8	(21.9)		内溝する無文口縁部/胴部文様形は刻目隆帯による横内区画を5帯持つ。区画内は縦位の平行沈瀬/胴部は縦位肌織文、7/11層土から破片が出土し接合。内面黒部以下の一部に煤の付着と微塵のハシゲが見られる	中期中葉/加賀群Ⅰ 新地平次
第8102-2		深鉢	25.1	11.1	39.7	口縁に大突起を1つ持ち、内溝する口縁部は無文。突起部、胴部くびれ部の前後に磨製した把手が付く。胴上半は厚み、文様が削げられ、高さを持つ隆帯で波頭が渦巻く波状文を施す。空白部は平行沈瀬や渦巻文で埋まる。隆帯や沈瀬間には細かな爪形文や交互刺/外面口縁部、内面胴下部に煤が付着/胎土・凝灰岩を含む	中期中葉/加賀群Ⅰ 新地平次

図版番号	出土 遺構名	種別・西種	口径・ 長さ	底径・ 幅	高さ・ 厚さ	技法・文様・その他	推定年代
第82図-3		深鉢	26.1	10.3	(36.6)	口縁に大突起を1つ持ち、直立する口唇部に凸形文。内溝する口唇部は無文。ややくびれる腹部の縁部は割目縁によって区画される。それと異なる文様であるが、共通して縁部による2分割と、沈線による再区画や三叉文が見られる／外蓋の底部以上、内蓋の口縁以下は被熱による変色が見られ、胎土も全体的に粗い	中期中葉/晩期Ⅱ 新地平穴
第82図-4		深鉢	(14.8)	26.1	(9.2)	縁部の内筒型土器。口唇部に文様帯、部分時に相違ない凸形文を持つ隆帯が顕著状にめぐる。以下は縦位乳線系/内蓋上蓋は変色。下平は僅か付着しハジクが見られる	中期中葉/晩期Ⅱ 新地平穴
第82図-5		深鉢/口縁一側下部	(26.6)		(37.5)	口唇部が外反する内筒型。上半に文様帯を設け、割目縁帯により区画。大部分を欠損するため全体は不明だが、区画中央の円文から十字状に隆帯が広がる。区画内は管工具を用いた水平沈線交互刺突文で構成される。下半平は縦位乳線系内蓋下部に埋付着	中期中葉/晩期Ⅱ 新地平穴
第83図-6		深鉢/口縁一側下部	(27.4)		(23.3)	内筒型土器。胎土半の文様帯は部分時にある凸・隆帯により上下2段階に区画される。上段で1つ角の刺突文が口縁から立ち下る。下段は三角・楕円区画。交互は平行沈線や滑文で装飾する/下半平は斜位乳線文/内蓋下部に僅か付着、胎土白色粒子を多量、金雲母を含む	中期中葉/晩期Ⅱ 新地平
第83図-7		深鉢/口縁一側下部	(22.5)		(23.0)	口縁に突起を持ち、口唇部が肥厚する内筒型土器。割目縁帯によって長方形に区画。上段は平行沈線と刻みによる棒状文。下段は沈線による再区画と刻み。顕著状沈線のものも、沈線間に棒状工具の刺突により凸形文を施したものが見られる。区画以下は無文か/内蓋下部に埋付着	中期中葉/晩期Ⅱ 新地平
第83図-8		深鉢/口縁一側下部		10.2	(20.8)	割目縁帯による楕円・三角の顕著区画。楕円は+1区画で区画内は平行沈線。三角は4区画で区画内は凸形文や三叉文/内蓋全体的に僅か付着し、見込み部にハジクが見られる。底蓋は境域がやや厚く、ナ子によりやや平直	中期中葉/晩期Ⅱ 新地平9a,b
第83図-9		深鉢/口唇部				縁状把手/上半に角棒文。波状の隆帯に沿う角棒文/胎土金雲母を含む	中期中葉/阿玉台
第83図-10		深鉢/胴部				断面三角形的隆帯にボタンの状の飾り付け文/胎土金雲母	中期中葉/阿玉台
第83図-11		深鉢/胴部				断面三角形的隆帯/胎土金雲母	中期中葉/阿玉台
第83図-12		深鉢/胴部				角棒文	中期中葉/阿玉台
第83図-13		深鉢/口唇部				突起部/胎土金雲母を微量含む	中期中葉/晩期
第83図-14		深鉢/口唇部				突起部/楕円の押印文	中期中葉/晩期
第83図-15		深鉢/口唇部				斜位の波状口縁/割目縁帯。楕円連続刺突/口唇部内面に埋付着	中期中葉/晩期
第83図-16		深鉢/口唇部				縁位の凸形文。その内側に直交する凸形文/内蓋に埋付着	中期中葉/晩期
第83図-17		深鉢/口唇部				隆帯に沿って凸形文	中期中葉/晩期
第83図-18		深鉢/口唇部				縁位に棒状工具を押し引き	中期中葉/晩期
第83図-19		深鉢/口唇部				口縁に割目	中期中葉/晩期Ⅱ
第83図-20		深鉢/口唇部				口唇部に肥厚状に隆帯を貼り付け、一部に割目	中期中葉/晩期Ⅱ
第83図-21		深鉢/口唇部				沈線による文様/表面平直。外蓋黒色。内蓋赤彩	中期中葉/晩期Ⅱ
第83図-22		深鉢/口唇部				縁位乳線文	中期中葉/晩期
第83図-23		深鉢/口唇部				断縁状突起部/割目縁帯を垂下する	中期中葉/晩期Ⅱ
第83図-24		深鉢/胴部				割目縁帯。楕円に沈線。一部に刺突/胎土角閃石を含む	中期中葉/晩期Ⅱ
第83図-25		深鉢/胴部				細い粘土結を貼り付け/内蓋二方片。外蓋に埋付着	中期中葉/晩期Ⅱ
第83図-26		深鉢/胴部				割目縁帯による楕円区画。区画内沈線。刻み/下半は縦位乳線文/胎土結晶片岩を含む。内蓋埋付着	中期中葉/晩期Ⅱ
第83図-27		深鉢/口唇部		(9.2)	(6.5)	地文縦位・斜位乳線系/沈線による滑巻き文/胎土角閃石を含む	中期中葉/加賀村Ⅰ 併行
第83図-28		深鉢/口唇部				併行隆帯。突起部	中期中葉/加賀村Ⅰ
第83図-29		深鉢/胴部				地文縦位乳線系/隆帯による平行滑巻文	中期中葉/加賀村Ⅰ
第83図-30		深鉢/胴部				地文縦位乳線文/沈線による彫巻文	中期中葉/加賀村Ⅰ
第83図-31		深鉢/胴部				縁位乳線文	中朝
第83図-32		深鉢/胴部				縦位乳線文	中朝
第83図-33		深鉢/胴一底部	(13.5)	(8.8)		縁位乳線文/内蓋炭化	中朝
第83図-34		深鉢/底部				内蓋に埋付着	中朝
第84図-35		深鉢/底部				縦位乳線系/胎土角閃石を含む。内蓋に埋付着	中朝
第84図-36		深鉢/底部				内蓋炭化	中朝
第84図-37		浅鉢/口唇部				口縁に刻み。沈線。内面に縁帯を持つ/内外蓋三方片。口唇部→口縁内面に僅かに赤彩が残存する	中朝
第84図-38		浅鉢/口唇部				波状口縁/内面に段を持つ/内外蓋三方片。内外蓋赤彩。口唇部黒色/胎土結晶片岩を含む	中朝
第84図-39		浅鉢/口唇部				縁位乳線文/被熱によるハジクが見られる/内蓋三方片	中朝
第84図-40		浅鉢/口唇部				内外蓋三方片。赤彩。内面に黒炭有	中朝
第84図-41		浅鉢/胴部				内外蓋三方片。赤彩/No40と同一個体	中朝
第84図-42		浅鉢/口唇部				内外蓋三方片。赤彩。口唇部に黒炭	中朝
第84図-43		浅鉢/口唇部				内外蓋三方片。口唇部黒炭。外蓋黒色/胎土結晶片岩を含む	中朝
第84図-1		深鉢/口縁一側上部	24.3		(20.0)	磨らんだ胴部から無文の口唇部が肥厚しつつ直立する。胴部以下は斜位〜縦位の乳線系。外蓋口唇部下に僅か付着し、胴部以下はハジクが見られ。内蓋胴部以下は僅か付着しハジクが特に顕著である。胎土白色粒子を含む	中期中葉/晩期Ⅱ後半
第84図-2		深鉢/口縁一側上部	(42.0)		(21.2)	無文の口唇部は内溝し、口唇部は水平になる。胴部以下は僅かに磨らみ。文様帯を設ける。後半より棒状工具の刺突の痕跡。筒工具を施した連続刺突。凸形文が見られ。区画内は沈線による再区画。連続状の円文と/内蓋口唇部一部や胴下部に僅か付着。表面他地の土器よりも風化が進んでいる	中期中葉/晩期Ⅱ後半
第84図-3		深鉢/口唇部				把手部/口縁に棒状工具の押印。山状の隆帯を垂下。角棒文による滑巻き/胎土金雲母・石英を含む	中期中葉/阿玉台
第84図-4		深鉢/口唇部				口唇部肥厚/胎土金雲母・石英を含む	中期中葉/阿玉台
第84図-5		深鉢/胴部				交互刺突。割目縁を持つ隆帯を十字に貼り付け/胎土：金雲母・白色粒を含む	中期中葉/阿玉台
第84図-6		深鉢/口唇部				無文口縁。縦位の管状工具の刺突列/内外蓋黒色。胎土角閃石を含む	中期中葉/晩期
第84図-7		深鉢/口唇部				波状口縁/外蓋黒色。胎土：角閃石を含む	中期中葉/晩期
第84図-8		深鉢/胴部				隆帯に沿って連続した凸形文	中期中葉/晩期Ⅱ
第84図-9		深鉢/胴部				隆帯部に棒状の刻み	中期中葉/晩期Ⅱ
第84図-10		深鉢/胴部				割目縁帯。棒状工具側面の押印→刺突を持つ隆帯による滑巻き文	中期中葉/晩期Ⅱ
第84図-11		深鉢/胴部				隆帯上に凸形文。ボタンの状の飾り付け文	中期中葉/晩期Ⅱ
第84図-12		深鉢/胴部				割目縁帯。沈線による文様/内蓋黒色	中期中葉/晩期Ⅱ
第84図-13		深鉢/胴部				沈線間に交互刺突/胎土角閃石を含む。外蓋被熱によるハジクあり	中期中葉/晩期Ⅱ

197号住居跡

198号住居跡

図番番号	出土 遺構名	種別・西様	口徑・ 長さ	直径・ 幅	高さ・ 厚さ	技法・文様・その他	推定年代
第8402-14		深鉢/胴部				隆帯・沈線による区画内に列突列/胎土に角閃石を含む。内面に深付着	中期中葉/厩塚Ⅱ
第8402-15		深鉢/胴部				隆帯区画内に縦沈線/内面に深付着	中期中葉/厩塚Ⅱ
第8402-16		深鉢/口縁部				縦線状突起	中期中葉/厩塚
第8402-17		深鉢/口縁部				口縁上突起/付け懸に列突?列/胎土に角閃石を含む	中期中葉/厩塚
第8402-18		深鉢/口縁部				地文斜位肌艶糸/口唇部に黒直着	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8402-19		深鉢/口縁部				積層隆帯、下部に波状の隆帯附付	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8402-20		深鉢/胴部				積層隆帯/隆帯による頸部との区画/内面縦線によるハジケあり	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8402-21		深鉢/胴部				地文肌艶糸/隆帯による懸垂文/外周縦線によるハジケあり	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8402-22		深鉢/胴部				地文縦位肌艶文/沈線による文様	中期中
第8402-23		浅鉢/口縁部				無文/外周三方キ	中期中
第8402-24		浅鉢/口縁部 (28)				無文/外周三方キ	中期中
第8402-25		浅鉢/口縁部				無文	中期中
第8402-26		浅鉢/口縁部				無文/外周赤彩、内面下部に深付着	中期中
第8402-27		浅鉢/口縁部 (26.4)				無文/口唇部へ外周赤彩、内面黒色	中期中
第8402-28		浅鉢/口縁部				無文/内外周三方キ、外周黒色、赤彩	中期中
第8402-29		深鉢/底部				縁部で小型カ/縦位肌艶文/内面に深付着	中期中
第8402-30		深鉢/底部				無文/内面に深付着	中期中
第8402-31		深鉢/底部				無文/内面に深付着、縦線によるハジケあり	中期中
第8402-32		深鉢/底部				縦位肌艶文/内面に縦線によるハジケ、内面下部に深付着、隆帯痕跡あり	中期中
第8402-33		深鉢/底部				縦位肌艶糸/内面に黒化する	中期中
第8402-34		石皿/石皿 (2.75) (1.56) 0.43				石質黒紫灰色石・透明黒鉛、黒色の焼(1/29g)/基部欠損/凹基/側面に磁器状に加工	中期中
第8402-35		石皿/石皿 9.24 3.98 0.99				石質黒紫砂粒/46.09g/壳形/縦型/薄手作り。両側面の縁縁上に中や丸みを帯びる筋あり	中期中
第8402-36		石皿/打製石片 (6.79) (4.68) 2.25				石質黒紫(38.09g)/刃部欠損/薄型/表に自然面を残す	中期中
第8402-37		石皿/打製石片 11.37 4.15 1.75				石質黒紫砂粒/(110.47g/壳形/短筒型/表に自然面を残す	中期中
第8402-38		石皿/打製石片 (8.77) (5.51) 2.98				石質中粒砂粒/(218.9g)/両端部欠損/短筒型/表に自然面を残す	中期中
第8402-39		石皿/打製石片 (8.22) (5.80) 2.20				石質・ホルンフェルス/(151.23g)/一部欠損/ゆるくくびれる分脚型	中期中
第8501-1		(青丸)埋土土器 側部 16.2 7.2 (14.5)				口縁部欠損/無文。外周三方キ/隆帯状の低い環と直立する口縁の隆帯部、口縁側に身丸痕あり/内外周赤彩、内面黒紫色、外周に黒直着	中期中
第8502-2		浅鉢 (50.0) (10.8) 16.8				口縁部は内周し、口唇部が直立する/内外周三方キ、赤彩、外周黒直着	中期中葉/厩塚Ⅱ～ 加賀村Ⅰ
第8502-3		深鉢/胴部				断面三角形の隆帯上に押圧/胎土に黒帯・石葉を含む	中期中葉/阿豆台
第8502-4		鉢/口縁部				波状口縁/口縁部に斜目隆帯による区画、区画内は平行沈線、胴部は縦位肌艶糸/外周上黒色、内面に深付着、胎土白色粒子を多量に含む	中期中葉/厩塚Ⅱ
第8502-5		深鉢/口縁部				内周する無文口縁部/頸部の屈曲部に隆帯を2本/胎土角閃石を含む。口唇部に黒直着	中期中葉/厩塚Ⅱ
第8502-6		深鉢/口縁部				内周する無文口縁部/内外面黒色、内面一部に赤彩	中期中
第8502-7		深鉢/口縁部				内周する無文口縁部/背面ハジケが顕著で内周から口唇部外面にかけて灰化している	中期中
第8502-8		深鉢/口縁部				無文口縁部、口唇部は折り直し	中期中
第8502-9		深鉢/口縁部				無文口縁部	中期中
第8502-10		深鉢/口縁部				波状口縁、無文/外周黒色	中期中
第8502-11		深鉢/口縁部 (15)				直立する無文口縁部/外周ハジケが顕著/胎土に角閃石を含む。口唇部に深付着	中期中
第8502-12		深鉢/胴部				沈線による横柄、円文、下位に低い斜目隆帯/背面ハジケ多い	中期中葉/厩塚
第8502-13		深鉢/胴部				低い隆帯上に斜目/内面に深付着	中期中葉/厩塚Ⅱ
第8502-14		深鉢/胴部				斜目隆帯による横柄区画、区画内斜目と爪形文/内面に僅かに深付着	中期中葉/厩塚Ⅱ
第8502-15		深鉢/胴部				地文縦位肌艶文、縦い斜目隆帯	中期中
第8502-16		深鉢/口縁部				地文縦位肌艶糸/平行隆帯/外周黒色	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-17		深鉢/口縁部				地文斜位肌艶糸/平行隆帯/内面赤彩、外周黒直着	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-18		深鉢/口縁部				地文縦位肌艶糸	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-19		深鉢/口縁部				地文縦位肌艶糸/外面に深付着	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-20		深鉢/口縁-胴部				平行隆帯による口縁部文様、無文胴部との区画	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-21		深鉢/口縁部				地文縦位肌艶糸/平行隆帯/内外面に深付着	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-22		深鉢/胴部				平行隆帯による無文胴部との区画/内面に深付着	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-23		深鉢/胴部				地文縦位肌艶糸/隆帯による無文胴部との区画/内面大きなハジケ	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-24		深鉢/胴部				積層隆帯、平行隆帯縁線による頸部との区画/外周にハジケ	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-25		深鉢/胴部				積層隆帯、平行隆帯による頸部との区画/胴部地文縦位肌艶糸	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-26		深鉢/胴部				地文太目の縦位肌艶糸/平行隆帯による弧状の懸垂文/背面にハジケあり	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-27		深鉢/胴部				地文縦位肌艶糸/隆帯による斜目隆帯	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-28		深鉢/胴部				地文縦位肌艶糸/隆帯による斜目隆帯	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-29		深鉢/胴部				地文縦位肌艶糸/隆帯による懸垂文	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-30		深鉢/胴部				地文縦位肌艶糸/平行隆帯による懸垂文	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-31		深鉢/胴部				地文縦位肌艶糸/平行隆帯による懸垂文/土器内周まで灰化している	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-32		深鉢/胴部				地文縦位肌艶糸/隆帯による懸垂文/外周部分的に深付着	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-33		深鉢/底部 (10.6)				地文縦位肌艶糸/平行隆帯による懸垂文/内周深付着/胎土角閃石を含む	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-34		深鉢/底部 (10.6)				地文縦位肌艶糸/隆帯による懸垂文	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-35		鉢?/底部 (7.4)				地文縦位肌艶糸/薄手である。内面黒色で平滑/外周ハジケ多い	中期中
第8502-36		深鉢/底部				地文縦位肌艶糸	中期中
第8502-37		深鉢/胴部				地文縦位肌艶文/平行隆帯による頸部との区画、斜目隆帯/内面に深付着	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-38		深鉢/胴部				地文縦位肌艶文/隆帯による頸部との区画	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-39		深鉢/胴部				地文縦位肌艶文/隆帯による懸垂文/胎土角閃石を含む。内周深付着	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-40		深鉢/胴部				地文斜位肌艶文/平行隆帯による懸垂文/内面に深付着	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-41		深鉢/胴部				地文縦位肌艶文/多岐管状工具内周部の沈線による頸部区画、懸垂文	中期中葉/加賀村Ⅰ
第8502-42		深鉢/胴部				地文縦位肌艶文/沈線による斜目隆帯/内面に深付着	中期中葉/加賀村Ⅰ

図版番号	出土遺構名	種別・西種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定年代
第85図-43		深鉢/胴部				地文縦位照形系/濃黒文	中期中葉/加賀料Ⅱ
第85図-44		深鉢/胴部				地文不明、縦位ハシ織文/内面に横付着	中朝
第85図-45		深鉢/底部			6.0	裏面僅かにハジキあり	中朝
第85図-46		深鉢/底部				裏面ハジキあり	中朝
第85図-47		深鉢/口縁部				沈降による同心円	中期中葉/加賀料Ⅱ
第85図-48		深鉢/口縁部				隆帯による同心円?/裏面ハジキ顕著	中期中葉/加賀料Ⅱ
第85図-49		深鉢/胴部				多岐管状工具の沈降と連続的変形により横位に区画。以下同工具による縦位沈降/内面に横付着	中期中葉/加賀料Ⅱ
第86図-50		深鉢/不明				地文横位の櫛歯状工具による条線/隆帯を貼り付ける	中朝
第86図-51		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ、内面に黒褐色	中期中葉/加賀料Ⅱ～加賀料Ⅲ
第86図-52		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ、外面に赤彩顕著	中期中葉/加賀料Ⅱ～加賀料Ⅲ
第86図-53		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ/胎土赤褐色、口縁部に黒褐色	中期中葉/加賀料Ⅱ～加賀料Ⅲ
第86図-54	199号住居跡	浅鉢/口縁部				内外面ミガキ、内外面赤彩/胎土赤褐色	中期中葉/加賀料Ⅱ～加賀料Ⅲ
第86図-55		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ、口縁→外周黒色	中期中葉/加賀料Ⅱ～加賀料Ⅲ
第86図-56		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ、内面黒色、外周赤彩	中朝
第86図-57		深鉢/口縁部				外周ミガキ	中朝
第86図-58		深鉢/胴部				内外面ミガキ、内外面赤彩/外周ハジキ多数、外面に黒褐色、胎土赤褐色	中朝
第86図-59		深鉢/胴部				隆帯上に横付工具側面の押圧と横位ハシ織文/内外面ミガキ/胎土金雲母・石炭を含む	中期中葉/阿武台
第86図-60		浅鉢/胴部				横位の平行隆帯、そこから隆帯が垂下する/内外面ミガキ/内面黒色	中期中葉/加賀料Ⅱ～加賀料Ⅲ
第86図-61		石器/打製石斧	9.10	5.26	2.11	石質:黒頁岩/119.66g/先形/側形/基部を大きく打ち欠き尖らせる。表に自然面を残す	
第86図-62		石器/打製石斧	(10.95)	(6.00)	(3.22)	石質:黒頁岩/120.08g/方部欠損/表に自然面を残す、基部は丸く調整し、穂端にやや膨らみ残らる。磨合あり	
第86図-63		石器/磨り石	14.22	10.30	4.99	石質:閃石質/1052.35g/先形/表面黒平滑	
第86図-64		石器/石皿	27.4	18.4	7.05	石質:多孔質頁岩/4.880g/先形	
第87図-1		深鉢/口縁部				V字状に隆帯を貼り付け/胎土金雲母を含む	中期中葉/阿武台
第87図-2		深鉢/口縁部				縦位のへん先状列列、横位の爪状文による区画文/裏面平滑	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-3		深鉢/胴部				隆帯に爪形文/内外面にハジキあり、内面に横付着	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-4		深鉢/口縁部				縦位の沈降間に横付工具による刻突/口縁→外周黒色	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-5		深鉢/口縁部				口縁に無文部を残し、以下に縦位照形系	中朝
第87図-6		深鉢/口縁部				無文/外周部分的に横付着	中朝
第87図-7		深鉢/口縁部				無文	中朝
第87図-8		深鉢/口縁部				地文横位照形系?/十字に交差する低い平行隆帯	中朝
第87図-9		深鉢/胴部				割目隆帯、縁に沈降、区画内に爪状文	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-10		深鉢/口縁部 (14.4)		6.80		地文縦位照形系/割目隆帯によるフラヒ手文/胎土結晶片を含む	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-11		深鉢/胴部				口縁部地文縦位照形系/口縁部とは横付工具側面の押圧を待つ隆帯によって区画	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-12		深鉢/口縁部 (14.0)				地文斜位照形系/口縁部下から隆帯による懸垂文/内外面に僅かに横付着	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-13		深鉢/口縁→胴部				地文(口縁部)斜位照形系、胴部:縦位照形系/平行隆帯による文様/内面にハジキあり/胎土結晶片を含む、磨合	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-14		深鉢/口縁部				波瀾部/地文横位照形系/大きくせり出す平行隆帯による文様/胎土角閃石を含む	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-15		深鉢/口縁部				地文斜位照形系/平行隆帯によるせり出す文様/胎土角閃石を含む	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-16		深鉢/口縁部				地文縦位照形系/大きくせり出す平行隆帯による文様/裏面ハジキあり	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-17		深鉢/口縁部				地文縦位照形系/平行隆帯によるフラヒ手文	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-18		深鉢/口縁部 (23.0)				地文(口縁部)斜位照形系、胴部:縦位照形系/平行隆帯による文様	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-19		深鉢/口縁部 (19.8)				地文斜位照形系/平行隆帯による文様	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-20		深鉢/口縁部				地文斜位照形系/平行隆帯による文様	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-21	200号住居跡	深鉢/口縁部				地文斜位照形系/内外面に横付着	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-22		深鉢/口縁部				地文横位照形系/外周口縁→内面にかけ黒色	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-23		深鉢/口縁→胴部 (15.2)			(9.7)	波状口縁/斜位照形系文様、胴部は無文で縦位のケズリ痕がみられる。胴部地文縦位照形系/内面に横付着	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-24		深鉢/口縁部→胴部				地文横位照形系/平行隆帯による文様、胴部無文	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-25		深鉢/口縁部				地文縦位照形系/平行隆帯による赤彩文、胴部との区画/胎土赤褐色で白色粉子を含む	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-26		深鉢/胴部				地文縦位照形系/隆帯による胴部との区画/胎土赤褐色	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-27		深鉢/胴部				地文縦位照形系/隆帯による胴部との区画/内面帯状に横付着	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-28		深鉢/胴部				地文縦位照形系/平行隆帯による縦位文	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-29		深鉢/胴部				地文縦位照形系/平行隆帯による文様/内面ハジキあり	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-30		深鉢/口縁部				地文縦位照形系/平行隆帯による文様	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-31		深鉢/胴部				地文縦位照形系/隆帯による懸垂文/内面に横付着	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-32		深鉢/胴部				地文縦位照形系/隆帯による懸垂文	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-33		深鉢/底部				地文縦位照形系/隆帯による懸垂文/内面底化	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-34		深鉢/口縁部 (26.5)			(17.2)	口縁に大突起/地文横位照形系/突起に連続する平行隆帯による立体的な文様/胴部無文、胴部と隆帯で区画	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-35		深鉢/口縁部				地文横位照形系/平行隆帯による文様、外周口縁→内面にかけ赤彩/胎土角閃石を含む	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-36		深鉢/口縁部 (27.0)			(9.2)	地文横位照形系/低い平行隆帯による文様、胴部無文/丁寧なミガキ	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-37		深鉢/口縁部				地文横位照形系/低い平行隆帯による文様	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-38		深鉢/口縁部				波状口縁/地文横位照形系/隆帯による文様/胎土角閃石を含む	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-39		深鉢/口縁部				波状口縁/地文横位照形系/隆帯による文様、内面赤彩/胎土角閃石を含む	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-40		深鉢/口縁部				波状口縁/地文横位照形系/平行隆帯による文様/裏面ハジキあり、内面に横付着	中期中葉/加賀料Ⅱ
第87図-41		深鉢/口縁部				地文横系/平行隆帯による文様	中期中葉/加賀料Ⅱ

図番番号	出土 遺構名	種別・西種	口徑・ 長さ	直径・ 幅	高さ・ 厚さ	技法・文様・その他	推定年代
第8802-42		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/隆帯による口縁部との区画。胴部無文/内面下部にハジケあり	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8802-43		深鉢/胴部				地文縦位→斜位肌織文/胴部無文。平行隆帯による懸垂文。内面赤彩か	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8802-44		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/平行隆帯による懸垂文/内面に埋行書	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8802-45		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/隆帯による懸垂文/内面皮彫。外面大きめのハジケあり	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8802-46		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/多岐管状工具内皮彫による沈線/胴部と区画/内面に埋行書	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8802-47		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/多岐管状工具内皮彫による懸垂文	中期中葉/加賀群Ⅰ ～Ⅱ
第8802-48		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/多岐管状工具内皮彫による懸垂文	中期中葉/加賀群Ⅱ
第8802-49		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/平行沈線による遠流文/外面に黒厚化粧	中期中葉/加賀群Ⅱ
第8802-50		深鉢/胴部				沈線による覆瓦文	中期中葉/曹利
第8802-51		深鉢/口縁部				沈線による覆瓦文/内面皮彫。内外面・割れ口に大きめのハジケあり	中期中葉/曹利
第8802-52		深鉢/胴部				縦位の平行沈線	中期中葉/曹利
第8802-53		深鉢/口縁部	4.6	(3.2)		地文縦位沈線/粘土貼による懸垂文。遠面ナデ/内面に種実圧痕?あり	中期中葉/曹利系
第8802-54		深鉢/口縁部				遠流口縁部/地文縦位肌織文/隆帯による狭い口縁部文様。内面黒色	中期中葉/曹利
第8802-55		深鉢/口縁部				遠流口縁部/隆帯による狭い口縁部文様。遠流部が滑巻く。胴部地文縦位肌織文。胴部とは沈線と区画	中期中葉/大木
第8802-56		深鉢/口縁部				口縁部突起。粘土貼を巻き上げた滑巻文/外面にハジケあり	中期中葉/曹利
第8802-57		深鉢/口縁部				口縁部突起/滑れた円柱状で頂部に沈線で円文。隆帯が垂下する/外面にハジケあり	中期中葉/曹利
第8802-58		深鉢/口縁部				口縁部突起/斜位肌織文	中期中葉/曹利
第8802-59		深鉢/口縁部				遠流部/隆帯を垂下か、内面に沈線文/輪組み複合部に多岐管状工具内皮彫による押引文のような凹凸	中期中
第8802-60		深鉢/口縁部				地文縦位肌織文	中期中
第8802-61		深鉢/胴部				縦位肌織文/内面に埋行書	中期中
第8802-62		深鉢/口縁部	(8.4)			縦位肌織文/沈線による懸垂文?遠面ナ調整/内面皮彫	中期中
第8802-63		深鉢/口縁部	(7.0)			縦位肌織文/遠流部付近は左方向にケズリ。遠流光沢を持つ	中期中
第8802-64		深鉢/口縁部	(7.8)			縦位肌織文/遠流部付近は左方向にケズリ。遠流光沢を持つ/内面皮彫	中期中
第8802-65		深鉢/口縁部	(8.0)			縦位肌織文/遠流部付近は右方向にケズリ/内面皮彫/粘土角閃石を含む	中期中
第8802-66		深鉢/口縁部	(12.2)			無文	中期中
第8802-67		深鉢/口縁部	(7.6)			無文	中期中
第8802-68		深鉢/口縁部		(5.6)		地文縦文/遠面付近左方向ナデ/内面に埋行書	中期中
第8802-69		深鉢/胴～底部	(7.0)	(11.0)		地文や斜位の肌織文/地文をすり消した部分に赤・黒色塗彩を施す。内面は上部に赤・黒色の塗彩が僅かに残り、帯状に帯を空けて下部は黒点状に黒色物が付着。遠面は未調整/粘土砂質	中期中
第8802-70		浅鉢/口縁部				口縁部や内流する/外面赤彩	中期中
第8802-71		浅鉢/口縁部				内外面に黒・赤彩。ミガキ	中期中
第8802-72		浅鉢/口縁部				口縁部と底面する/口縁～内面に黒色を塗し、外面は赤彩と見られる	中期中
第8802-73		浅鉢/口縁部				内外面塗彩/粘土白色砂状物質を含む	中期中
第8802-74		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ/黒厚化粧	中期中
第8802-75		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ。内面赤彩	中期中
第8802-76		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ	中期中
第8802-77		浅鉢/胴部				内外面に黒・赤彩。ミガキ	中期中
第8802-78		浅鉢/胴部				黒面する胴部/外面は斜れ目を境に黒・赤彩を施し、内面は黒彩	中期中
第8802-79		浅鉢/胴部				黒面する胴部/平行する爪痕文と沈線	中期中
第8802-80		土製品/円盤				割れ口厚縁	中期中
第8802-81		土製品/円盤				割れ口厚縁/埋行書	中期中
第8802-82		土製品/耳栓	2.58	1.80	1.30	重量(5.0g)	中期中
第8802-83		石器/石錐	2.77	2.31	0.75	石質:チャート(灰色・不透明。黒色の縞)/343g/未製品	
第8802-84		石器/打製石斧	9.16	4.79	1.79	石質:粗粒砂岩/(106.65g)/一部欠損/磨製/風化は無い。表に自然面を残す	
第8802-85		石器/打製石斧	9.06	4.27	1.91	石質:珪質頁岩/99.28g/両形/磨製/表は自然面をそのまま保留。裏面も細かな調整は刃部のみで、主要利面を残す。裏面の上方部・左側面中位までが磨製し光沢をもつ	
第8802-86		石器/打製石斧	(9.68)	4.84	(2.28)	石質:粗粒砂岩/(126.63g)/刃部欠損/磨製	
第8802-87		石器/打製石斧	(8.17)	(5.42)	(1.70)	石質:ホルンフェルス/(100.17g)/刃部欠損/磨製/風化強い	
第8802-88		石器/打製石斧	(9.81)	6.02	1.79	石質:珪質頁岩/(142.91g)/刃部欠損/磨製/表に自然面を残す。裏面の下部、裏面の左上が磨製し光沢をもつ	
第8802-89		石器/打製石斧	(5.33)	5.05	1.61	石質:ホルンフェルス/(56.76g)/上半部欠損/磨製	
第8802-90		石器/打製石斧	(4.54)	(6.30)	(2.85)	石質:ホルンフェルス/(70.63g)/基部残存	
第8802-91		石器/打製石斧	(5.91)	(6.85)	(2.65)	石質:ホルンフェルス/(133.67g)/刃部残存/表に自然面を残す	
第8802-92		石器/敲石	(7.77)	4.04	2.27	石質:中粒砂岩/(107.75g)/基部欠損/自然面を多く残す。両側面に敲打痕	
第8802-1		深鉢/口縁～胴部	(23.6)		(15.5)	口縁部無文。口縁部が内流する。胴部はひびれ。胴部が大きく割らむ。胴部地文縦位肌織文。隆帯による懸垂文/外縁口縁部に煤が付着し、胴部の一部にハジケが見られる	中期中葉/曹利系
第8802-2		深鉢/口縁部				遠流部/隆帯と利用	中期中葉/曹利
第8802-3		深鉢/胴部				斜行隆帯。脇に沈線/外面塗彩に埋行書	中期中葉/曹利
第8802-4		深鉢/胴部				沈線間に交互刻突	中期中葉/曹利
第8802-5		深鉢/口縁部				隆帯による口縁部文様/粘土角閃石を含む	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8802-6		深鉢/口縁部				隆帯による口縁部文様/内面ナ調整	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8802-7		深鉢/胴部				隆帯による無文胴部との区画/粘土結晶片を含む	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8802-8		深鉢/胴部				胴部無文。胴部地文縦位肌織文/外面に埋行書	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8802-9		深鉢/胴部				平行隆帯による区画/内面にハジケが見られる	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8802-10		深鉢/胴部				地文縦文/隆帯による懸垂文	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8802-11		深鉢/胴部				地文沈線/隆帯による懸垂文	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8802-12		深鉢/胴部				隆帯による懸垂文	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8802-13		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/低い平行隆帯による文様	中期中葉/加賀群Ⅰ
第8802-14		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/隆帯による懸垂文	中期中葉/加賀群Ⅰ

図版番号	出土遺構名	種別・西種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・その他	推定年代
第8905-15	201号住居跡	深鉢/胴部				地文縦位肌織文/隆帯による懸文/内面灰化	中朝中葉/加賀中世Ⅰ
第8905-16		深鉢/胴部				隆帯による懸文/摩滅し地文不明	中朝中葉/加賀中世Ⅰ
第8905-17		深鉢/胴部				地文多敷管状工具による縦位の平行沈線/縁形位に割目を持つ隆帯による懸文/内面に窪行着	中朝中葉/加賀中世Ⅰ
第8905-18		深鉢/胴部				地文多敷管状工具による縦位の平行沈線/縁形位に割目を持つ隆帯による懸文/内面灰化	中朝中葉/加賀中世Ⅰ
第8905-19		深鉢/底部	6.6			地文多敷管状工具による縦位の平行沈線/縁形位に割目を持つ隆帯による懸文/底面調整により平滑/内面灰化	中朝中葉/加賀中世Ⅰ
第8905-20		深鉢/胴部				胴部無文帯と胴部を沈線で区画/胴部地文縦位肌織文	中朝中葉/加賀中世Ⅰ
第8905-21		深鉢/胴部				胴部と胴部を沈線で区画/沈線による懸文	中朝中葉/加賀中世Ⅰ
第8905-22		深鉢/胴部				地文縦位肌織文/沈線による懸文	中朝中葉/加賀中世Ⅰ
第8905-23		深鉢/胴部				地文斜位肌織文/多敷管状工具の沈線による懸文	中朝中葉/加賀中世Ⅰ
第8905-24		深鉢/口縁部				無文口縁部/屋曲部に波状の粘土粒を施り付け	中朝中葉/管利系
第8905-25		深鉢/口縁部				無文口縁部/下部に隆帯の磨滅あり/磨滅によるハツク/内面の一部に窪行着	中朝
第8905-26		深鉢/口縁部				無文口縁部	中朝
第8905-27		深鉢/口縁部				無文口縁部	中朝
第8905-28		深鉢/口縁部				無文口縁部	中朝
第8905-29	深鉢/口縁部				無文口縁部/外面に僅かに窪行着	中朝	
第8905-30	深鉢/口縁部				無文口縁部/粘土角閃石を含む/一部割れ口に摩滅が見られる	中朝	
第8905-31	浅鉢/胴部				内面ミガキ, 内外面赤彩/粘土角閃石を含む	中朝	
第8905-32	土製行盤				土器片転用/割れ口に摩滅が見られる	中朝中葉/加賀中世Ⅰ	
第8905-33	土製行盤				土器片転用/割れ口に摩滅が見られる	中朝	
第8905-34	土製行盤				土器片転用/割れ口に摩滅が見られる	中朝	
第8905-1	203号住居跡	深鉢/口縁～胴部	34	(14.5)		地文縦位肌織文/4単位波状口縁, 波帯部に合わせて機状把手が付き, 把手に接続するように平行隆帯による文様を施す。胴部は無文で胴部とは隆帯によって区画される/内面磨滅によるハツクは少ないが, 底面黒色が見られ, 4分の1ほどは窪?の付着で黒く変色している	中朝中葉/加賀中世Ⅰ (西/原外・黒尾跡)
第8905-2		深鉢/口縁～胴部	32	(11.8)		地文縦位肌織文/4単位波状口縁, 平行隆帯による十字中置線文, 胴部は無文で左方向のクズリによる割整, 胴部とは隆帯で区画される/内面には磨滅によるハツクが見られ, 4分の1ほどが黒く変色している	中朝中葉/加賀中世Ⅰ (西/原外・黒尾跡)
第8905-3		深鉢/口縁部				縦位肌織文	中朝
第8905-4		深鉢/口縁部				縁位に沈線	中朝
第8905-5		深鉢/胴部				隆帯区画内に縦位の沈線	中朝中葉/管利系
第8905-6		深鉢/胴部				割目隆帯による湯釜文	中朝中葉/管利系
第8905-7		深鉢/胴部				割目隆帯縁に沈線, 沈線による三文文	中朝中葉/管利系
第8905-8		深鉢/胴部				沈線文/粘土結晶片岩を含む	中朝中葉/管利系
第8905-9		深鉢/胴部				隆帯による区画文	中朝中葉/管利系
第8905-10		深鉢/胴部				連線状の隆帯, 区画内に縦位の沈線	中朝中葉/管利系
第8905-11		深鉢/口縁部				地文斜位肌織文/平行隆帯による文様/粘土角閃石を含む, 外面の一部に窪行着	中朝中葉/加賀中世Ⅰ
第8905-12		深鉢/口縁部				地文縦位肌織文/平行隆帯による十字中置線文	中朝中葉/加賀中世Ⅰ
第8905-13		深鉢/口縁部				波帯部/口縁との接合部にヒタ状の圧痕	中朝中葉/加賀中世Ⅰ
第8905-14		深鉢/口縁部				機状把手/沈線	中朝中葉/加賀中世Ⅰ
第8905-15	深鉢/口縁部				機状把手/沈線	中朝中葉/加賀中世Ⅰ	
第8905-16	深鉢/口縁部				地文縦位肌織文/隆帯による文様	中朝中葉/加賀中世Ⅰ	
第8905-17	深鉢/口縁部				地文斜位肌織文/隆帯による文様/内面に窪行着	中朝中葉/加賀中世Ⅰ	
第8905-18	深鉢/胴部				無文帯/口縁部とは隆帯で区画	中朝中葉/加賀中世Ⅰ	
第8905-19	深鉢/胴部				無文帯/胴部とは隆帯で区画	中朝中葉/加賀中世Ⅰ	
第8905-20	深鉢/胴部				地文縦位肌織文/磨滅し割れ目/隆帯による懸文	中朝中葉/加賀中世Ⅰ	
第8905-21	深鉢/胴部				縦位肌織文	中朝	
第8905-22	深鉢/胴部				縦位肌織文/内面灰化	中朝	
第8905-23	深鉢/底部				縦位肌織文/内面灰化/底面は平滑で光沢を持つ	中朝	
第8905-24	深鉢/胴部				地文縦位肌織文/沈線による懸文	中朝中葉/加賀中世Ⅰ ～Ⅱ	
第8905-25	深鉢/胴部				地文縦位肌織文/沈線による懸文	中朝中葉/加賀中世Ⅰ ～Ⅱ	
第8905-26	深鉢/口縁部				沈線による線弧文	中朝中葉/管利系	
第8905-27	深鉢/口縁部				縁位の平行沈線, 沈線間に刻文	中朝中葉/管利系	
第8905-28	深鉢/胴部				縦位条線/内面ミガキにより平滑	中朝中葉/管利系	
第8905-29	深鉢/胴部				9本単位の櫛歯状工具による縦位沈線	中朝中葉/管利系	
第8905-30	浅鉢/口縁～胴部	(19.5)	(11.7)		内外面ミガキ, 一部赤彩が残存する, 内外面に黒尾跡	中朝	
第8905-31	浅鉢/口縁部				外面ミガキ	中朝	
第8905-32	浅鉢/口縁部				内面に沈線あり	中朝	
第8905-33	浅鉢/口縁部				内外面ミガキ	中朝	
第8905-34	浅鉢/胴部				内外面ミガキ, 外面赤彩, 内面黒色を呈する/粘土角閃石を含む	中朝	
第8905-35	浅鉢/胴部				外面屋曲部以下が黒色化している/粘土白色斜状物質を含む	中朝	
第8905-36	深鉢/底部	(7.8)			無文/内面灰化	中朝	
第8905-37	深鉢/底部				無文/内面灰化	中朝	
第8905-38	石器/石鏝	1.94	1.78	0.30	石鏝チャート/1.09g/両端部欠損/主要刺痕面を残す		
第8905-39	石器/打製石片	8.45	4.84	2.03	石鏝押型跡/128.74g/壳形/短冊型/両端部・両側面に潰れ		
第8905-40	石器/打製石片	8.58	4.25	1.37	石鏝中軽鈔片/84.44g/壳形/短冊型/裏に自然面を残す, 両側面に潰れ		
第8905-41	石器/打製石片	11.09	5.39	3.25	石鏝ホルンフェルス/279.40g/壳形/短冊型/右側面に自然面を残す		
第8905-42	石器/打製石片	(7.17)	4.06	(2.15)	石鏝中軽鈔片/92.76g/方部欠損/短冊型/上端部・両側面に潰れ		
第8905-43	石器/打製石片	(7.01)	(4.28)	(2.07)	石鏝ホルンフェルス/(102.99g)/両端部欠損/短冊型/磨化が強い		
第8905-44	石器/磨り石・凹み石	(6.09)	(9.13)	3.44	石鏝安山岩/(332.55g)/下欠損/側面以外は磨滅し平滑, 表面中央に凹み		

図番番号	出土 遺構名	種別・西端	口徑・ 長さ	直径・ 幅	高さ・ 厚さ	技法・文様・その他	推定年代
第8602-1		深鉢/口縁部				無文/外面に僅かに残存	中期中葉/厩塚
第8602-2		深鉢/口縁部				無文	中期中葉/厩塚
第8602-3		深鉢/口縁部				口縁内に隆帯を貼り付ける	中期中葉/厩塚
第8602-4		深鉢/口縁部				無文口縁部/口縁部に残存	中期
第8602-5		深鉢/口縁部				縦位に横糸/口唇部へ内面にかけて灰化	中期
第8602-6		深鉢/口縁部				隆帯による口縁部区画内面ミガキ	中期
第8602-7		深鉢/口縁部				頸部の隆帯と/頸部に横線状工具による条線	中期
第8602-8		深鉢/口縁部				地文縦位横糸/平行隆帯による頸部との区画/胎土角閃石を含む	中期中葉/厩塚Ⅰ
第8602-9		深鉢/口縁部	19.0			地文縦位横糸/隆帯による条線/底面平滑	中期中葉/厩塚Ⅰ
第8602-10		深鉢/口縁部		(12.2)		地文縦位横糸/隆帯による条線/胎土角閃石を含む、内面灰化	中期中葉/厩塚Ⅰ
第8602-11		深鉢/口縁部				地文縦位横糸/隆帯による条線	中期中葉/厩塚Ⅰ
第8602-12		深鉢/口縁部				地文縦位横糸/平行隆帯による頸部との区画	中期中葉/厩塚Ⅰ
第8602-13		深鉢/口縁部				地文縦位横糸/頸部無文	中期中葉/厩塚Ⅰ
第8602-14		深鉢/口縁部				地文縦位横糸/頸部無文	中期中葉/厩塚Ⅰ
第8602-15		深鉢/口縁部				地文縦位横糸/内面灰化	中期
第8602-16		深鉢/口縁部				地文縦位横糸/隆帯による條形条線/内面灰化	中期中葉/厩塚Ⅰ
第8602-17		深鉢/口縁部		11		地文縦位横糸/多角管状工具の沈線による条線/底面平滑、内面灰化	中期中葉/厩塚Ⅰ
第8602-18		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ/被熱によるハジケあり、内面灰化	中期
第8602-19		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ、内面赤彩/裏面有	中期
第8602-20		浅鉢/口縁部					中期
第8602-21		浅鉢/口縁部					中期
第8602-22		浅鉢/口縁部				内外面ミガキ、内面には赤彩が残る	中期
第8602-23		浅鉢/口縁部				被熱によるハジケあり、外面に黒帯有	中期
第8602-24		浅鉢/口縁部				裏面未調整、裏部へ外面にかけて黒色化する	中期
第8602-25		石葺/打製石葺	9.97	3.83	1.99	石葺粗粒砂葺/(101.76g)/一部欠損/短冊型/表に自然面を残す	
第9102-1		深鉢/胴部	-	-	10.5	手前管状工具による平縁縁線上に連続凹状文、交互凹状文を施し、2種1組による縦4区画、幅大条からなる横位区画、区画内は波線や爪形文、交互凹状文によりそれぞれ異なる文様を残す	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9102-2		深鉢	(10.4)	6.6	19.5	地文縦位、逆U字の条線、逆U字内を地文横線/内面に残存	中期中葉/厩塚Ⅱ 新
第9102-3		深鉢/口縁部	-	(34.6)	(13.3)	管状工具による縦位の波状文/内面ミガキ、内面に僅かに赤彩が残る	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9102-4		深鉢/胴部	-	-	-	管状工具による縦位の波状文、沈線による条線/内面ミガキ、内面黒色/胎土と同一色	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9102-5		深鉢/口縁部	-	6.9	(7.3)	地文縦位横糸/見込みの調整は施/割れ口に僅かに残存	中期
第9102-6		深鉢/口縁部	-	-	-	隆帯上に胎土、隆帯脇に沈線と胎土	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9102-7		深鉢/口縁部	-	-	-	波状口縁/内湾する無文口縁部、くびれた頸部に斜線隆帯、内面黒色ミガキ後赤彩/内外面黒帯有	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9102-8		深鉢/口縁部	-	-	-	内湾する口縁部/波頂部から高さのある隆帯を垂下し、縁部状の胎土を加える	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9102-9		深鉢/口縁部	-	-	-	強く内湾する口縁、隆帯による縦位の胎土/胎土角閃石を含む	中期中葉/厩塚Ⅰ ～Ⅱ
第9102-10		深鉢/胴部	-	-	-	縦位無文/外面黒帯有	中期
第9102-11		深鉢/胴部	-	-	-	断面三角形の隆帯上に縁部状の胎土、胎土に沈線	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9102-12		深鉢/胴部	-	-	-	沈線による円やY字文/内面ミガキ/外面に残存	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9102-13		深鉢/胴部	-	-	-	斜線隆帯、縦位の沈線	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9102-14		深鉢/胴部	-	-	-	縦位に多条沈線、沈線による2条の条線	中期中葉/厩塚Ⅱ ～Ⅲ
第9102-15		深鉢/口縁部	-	(6.8)	(3.3)	頸に窪みを持ち、管状は薄手/縦位横糸/内面に残存	中期
第9102-16		浅鉢/口縁部	-	-	-	隆帯上に胎土による凹線	中期中葉/厩塚
第9102-17		浅鉢/口縁部	-	-	-	角ばった隆帯による条線/内外面ミガキ、赤彩が僅かに残存、僅かに胎土	中期
第9102-18		浅鉢/口縁部	-	-	-	無文/外面帯状に黒色を呈する/胎土に露骨含む	中期
第9102-19		浅鉢/口縁部	-	-	-	無文/内外面ミガキ/胎土に露骨含む	中期
第9102-20		浅鉢/口縁部	-	-	-	無文断面部/内外面ミガキ	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9102-21		浅鉢/口縁部	-	-	-	隆帯による溝溝さか/内面一部赤彩/胎土に石炭含む	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9102-22		浅鉢/口縁部	-	(15.4)	(5.6)	部分的に赤彩が残存/胎土露骨/石炭を含む、胎土19.4胎土が同一	中期
第9202-1		深鉢/胴部	7.6	(12.5)		斜線隆帯による縦位の胎土、隆帯脇には沈線が沿う。区画内は平行沈線・波状沈線・胎土・押し文/内外面に二次被熱跡、外面にハジケが顕著、内面に残存	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9202-2		深鉢/口縁部				無文/胎土に露骨含む	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9202-3		深鉢/口縁部				突起部/口唇部に胎土、ペン先状工具の連続斜突による胎土/胎土に露骨を含む	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9202-4		深鉢/口縁部				口唇部に胎土、ペン先状工具の連続斜突による胎土/胎土に露骨を含む	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9202-5		深鉢/口縁部				突起部/突起先に胎土、2種の角形文/胎土に露骨を含む	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9202-6		深鉢/胴部				ヒダ状区画、波状の沈線と胎土/胎土に露骨を含む	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9202-7		深鉢/胴部				断面三角形の隆帯/胎土に露骨を含む	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9202-8		深鉢/胴部		9.8		断面外縁に圧痕有/胎土に露骨・石炭を含む	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9202-9		深鉢/口縁部				隆帯による区画、胎土にカタピラ文、区画内に平行角形文	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9202-10		深鉢/口縁部				隆帯脇に平行する角形文、区画内波状沈線	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9202-11		深鉢/口縁部				隆帯による区画、胎土にカタピラ文、区画内に角形文	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9202-12		深鉢/口縁部				爪形文による区画内文様	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9202-13		深鉢/口縁部				斜線隆帯による区画、区画内には沈線を残す	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9202-14		深鉢/口縁部				斜線隆帯による区画、区画内には沈線を残す/胎土13と同一色	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9202-15		深鉢/口縁部				突起部/口縁、隆帯上に胎土	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9202-16		深鉢/口縁部				突起部/隆帯上に胎土	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9202-17		深鉢/胴部				斜線隆帯による区画、区画内縦位の隆帯とそれに沿う波状の沈線	中期中葉/厩塚Ⅱ
第9202-18		深鉢/胴部				低い隆帯上に胎土、縦位の沈線	中期中葉/厩塚Ⅱ

図版番号	出土 遺構名	種別・西種	口径・ 長さ	底径・ 幅	高さ・ 厚さ	技法・文様・その他	推定年代
第92図-19	竪穴状遺構	深鉢/胴部				割田隆帯、縦位の角押文	中朝中葉/磐坂Ⅱ
第92図-20		深鉢/胴部				割田隆帯、下位に沈線と2条	中朝中葉/磐坂Ⅱ
第92図-21		深鉢/胴部				割田隆帯、脇に沈線	中朝中葉/磐坂Ⅱ
第92図-22		深鉢/胴部				割田隆帯、脇に沈線、区画内に刺突充填	中朝中葉/磐坂Ⅱ
第92図-23		深鉢/胴部				刺突と沈線による同心円、区画内に沈線を充填	中朝中葉/磐坂Ⅱ
第92図-24		深鉢/胴部				区画内に沈線を充填、内面黒色	中朝中葉/磐坂Ⅱ
第92図-25		深鉢/胴部				棒状工具による沈線	中朝中葉/磐坂
第92図-26		深鉢/胴部				棒状工具による沈線を斜位や三叉状	中朝中葉/磐坂
第92図-27		深鉢/胴部				縦位沈線と交互刺突による文様	中朝中葉/磐坂Ⅱ
第92図-28		深鉢/胴部				縦位沈線と交互刺突による文様/h27と同一体	中朝中葉/磐坂Ⅱ
第92図-29		深鉢/口縁部				無文口縁部、胴部に割田隆帯による区画か	中朝中葉/磐坂Ⅱ
第92図-30		深鉢/口縁部				地文縦位向隅系、平行隆帯による文様	中朝中葉/加曾利Ⅰ
第92図-31		深鉢/口縁部				地文縦位向隅系/口唇直下に隆帯の痕跡あり/口唇部、内面ミガキ、内外面赤彩	中朝中葉/加曾利Ⅰ
第92図-32		深鉢/胴部				L形系	中朝
第92図-33		深鉢/胴部				斜位L形縦文/内面に僅かに横付着	中朝
第92図-34	深鉢/底部				縦位L形縦文	中朝	
第92図-35	深鉢/底部				無文/内面黒化、外面ハジケが顕著	中朝	
第92図-36	石器/石匙	10.39	4.35	1.68	石質中粒砂岩/103.90g/宛形/縦型石匙/左側面縁線上に溝れ		
第92図-37	石器/打製石斧	(11.51)	(4.14)	(1.59)	石質粗粒砂岩/279.45g/裏面欠損/扇型/自然面を残す、刃部摩滅部あり		
第91図-1	罫り込み 遺構	深鉢/胴部				粘土塗布・石面を青む	中朝中葉/何玉台
第91図-2		深鉢/胴部				低い隆帯上に大きめの凹形文	中朝中葉/磐坂Ⅱ
第91図-3		深鉢/口縁部				粘土塗布を貼り付け	中朝
第91図-4		深鉢/胴部-胴部				地文縦位L形系/屈曲部に連続状の隆帯、隆帯文差部に刺突/器面ハジケあり	中朝中葉/加曾利Ⅰ
第91図-5		深鉢/胴部				斜位L形縦文	中朝
第91図-6		深鉢/胴部				縦位平行沈線/器面ハジケあり、内面に横付着	中朝
第91図-7		深鉢/胴部				内外面ミガキ、内面黒色で一部赤彩残存	中朝
第91図-8		深鉢/底部				内面横付着	中朝
第91図-9		深鉢/底部	5.6	(1.0)		底部器面にハジケあり	中朝
第92図-1	遺構外	深鉢/口縁部				地文縦位L形系/低い平行隆帯による文様/粘土角閃石を青む	中朝中葉/加曾利Ⅰ 新
第92図-2		深鉢/口縁部				口縁部に平行沈線、沈線間に刺突列、以下地文条線	中朝中葉/曾利系
第92図-3		深鉢/口縁部				無文口縁部	中朝
第92図-4		深鉢/口縁部				無文/内外面にミガキ	-
第92図-5		深鉢/底部				地文縦位L形系/沈線による懸垂文/内面に横付着	中朝中葉/加曾利Ⅱ
第92図-6		土製品/円縁				側面摩滅	中朝
第92図-7		石器/石匙	2.23	1.69	0.26	石質チャート(灰黄色・やや不透明)/0.59g/宛形/凹基/薄手で直線的な作り	
第92図-8		石器/石匙	1.67	1.55	0.31	石質チャート(灰黄色・やや不透明)/0.70g/宛形/凹基/基部は丸みを帯びる	
第92図-9		石器/打製石斧	(7.52)	3.91	1.58	石質頁岩/61.10g/一部欠損/扇型	
第92図-10		石器/打製石斧	9.56	4.97	1.58	石質中粒砂岩/105.18g/宛形/ややくびれる扇型/刃部直線的で、右側に刺突が集中する、左側面に溝れ、裏に自然面を残す	
第92図-11		石器/打製石斧	(10.33)	(5.14)	(2.35)	石質ホルンフェルス/1172.60g/刃部欠損/ややくびれる扇型/裏に自然面を残す、黒化が強い	

第8章 まとめ

2017(平成29)年度の本調査は、本書に掲載した松山遺跡第99地点を除く5件以外に、3件の個人住宅建設に伴う本調査を実施している。3件の本調査については、試掘調査の報告と併せて来年度以降に報告を行う。

以下、遺跡別に総括する。

【ハケ遺跡第24地点】

ハケ遺跡第24地点の調査では、縄文時代中期の住居跡を検出した。住居の掘り込みが確認できないほど残りが良くなかったが、榎土器と埋糞が出土している。共に加曾利EⅡ式新段階のものと考えられる。ハケ遺跡で現在までに確認されている住居跡は、そのほとんどが中期につくられたものである。中でも加曾利EⅡ式期の住居が最も多い。遺跡範囲の北西部～西部に集中する傾向にあり、今回発見されたJ36号住居跡もその一連の流れの中に納まるものであろう。また、近世以降の集石土坑から出土した遺物を見ると、縄文時代前期から後期まで様々出土しているが、中でも中期の特徴を持つ土器片が非常に多い。この集石土坑は鏝や土器を廃棄したものと考えられるため、周辺にはこれらの土器を使用していた住居跡が存在していたものと想定できる。このことから、ハケ遺跡に縄文中期の集落が形成されていた可能性が示唆される。しかしながら遺跡範囲の大部分は未調査であるため今後の調査に期待したい。

【駒林遺跡第35・37地点】

今回駒林遺跡では第35地点と第37地点の2地点を調査したが、どちらも共通して堀跡を確認した。駒林遺跡ではこれまでの調査で、同様の堀跡を15ヶ所で確認している。いずれも東西または南北方向に走行する。これらの堀跡は駒林遺跡をぐるりと取り囲むように見つっており、本地点を北限とし、南は第1地点から第23地点のラインまで一連のものと考えれば(第22図参照)、南北の全長約350mの範囲を区画していた堀である可能性が考えられる。

第37地点は南西から北東方向に走行する堀跡である。前述したとおり、現在まで駒林遺跡で発見された堀跡は、東西方向または南北方向を指向するものがほとんどである。第37地点に続くような堀跡は確認さ

れていない。また堀の底部に関しても、これまでに発見されてきた堀は比較的平坦なものが多かったが、第37地点の堀に関しては平坦ではなく、部分的に深く掘り込む部分が見受けられるなど、これまでのものは多少の相違点が見られる。単なる区画としての堀という意味合いだけでなく、防衛的な意味を含んでいる印象を受ける。両端部のレベルを見比べると南西端の方が北東端よりも高く、北側を流れる江川に向かう。しかしながら土層の観察から水が耐水していたような痕跡は見受けられず、他の堀跡同様に空堀であったと考えられる。今後の調査によって解明することであろう。

最後に堀の帰属時期であるが、以前第1地点の調査時に行った土壌サンプル分析によれば、1108年の浅間山噴火の際に降下した火山灰(As-B)を含むことから、12世紀初頭以降に堀の埋没が始まったとされる。今回の2地点に関してもテフラ分析を行ったところ、同様の結果を得ている。両者とも同時期に使用されていた可能性を示唆する結果となった。共存する出土遺物が極端に少ないため、使用時期を絞り込むことが難しいが、こちらも今後の調査に期待したいところである。

【東久保南遺跡第43地点】

東久保南遺跡では縄文時代中期の住居跡1軒を検出した。本遺跡ではこれまでに2軒の縄文時代住居跡を検出しているが、いずれも中期に属するものである。特にJ1号住居跡は加曾利EⅡ式期の中相とみられ、今回検出したJ3号住居跡と同時期のものと考えられる。本遺跡は土地区画整理事業に伴う発掘調査で遺跡範囲の大部分を調査しているが、縄文時代住居跡3軒と少ない。本遺跡はさかい川左岸に立地しているが、約400m下流には中沢遺跡(富士見市)が位置しており、これまでの調査で加曾利EⅠ～EⅢ式期の住居跡を80軒以上検出している。また、対岸のさかい川右岸には、210軒以上の住居跡を検出する西ノ原遺跡の大集落が展開している。特に西ノ原遺跡は阿玉台Ⅰ～加曾利Ⅲ式期まで継続するものと考えられるが、その最盛期は加曾利EⅡ式である。西ノ原遺跡の大集落との関係が考えられよう。

【西ノ原遺跡第158地点】

西ノ原遺跡第158地点の調査では、縄文時代中期の竪穴住居跡12軒を検出した。西ノ原遺跡に展開する縄文時代中期の双環状集落は、西から東へと変遷しており、加曾利EⅡ式期に東へと遷移する。今回の調査地点は双環状集落の西端に位置しており、検出した住居跡はおおむね勝坂Ⅲ～加曾利EⅠ式期に集中している。西ノ原遺跡全体を見ると、前述したとおり加曾利EⅡ式期に最盛期を迎えるが、加曾利Ⅲ式期になると住居の数が激減、その後終焉する。

今回検出した12軒のうち8軒が加曾利EⅠ式期のものであり、その中でも新段階が4軒と最も多い。集落の最盛期である加曾利EⅡ式期の前段階に住居が増加する傾向は集落全体の流れと一致する。

住居構造としては、4本主柱穴または5本主柱穴を持つものが多いが、第194号住居跡は6本、第61号住居跡は6本または8本の主柱穴を持つ住居跡と考えられる。それぞれの時期で傾向を見ると、勝坂Ⅲ式期の住居跡は4本または5本主柱穴の構造で、拡張や建替の痕跡は見られない。また、如に土器を設置する埋裏炉を採用している点で共通している。加曾利EⅠ式期の住居跡では、拡張または建替の痕跡を持つものが3軒確認された。特に第196号住居跡と第203号住居跡は確実に拡張を行っており、西ノ原集落の発展から最盛期へ向かう流れと呼応する。ほかに加曾利EⅠ式期に入ると住居の入口付近に埋裏を設置する住居が出現するが、今回の調査では埋裏を持つ住居跡は確認されていない。

出土遺物の傾向としては、全体として浅鉢が多く出土していること、完形ではないが塗彩土器が比較的多いことが挙げられる。また異系統土器を含む住居跡は7軒あり、加曾利EⅠ式以降という点で共通する。今回の地点で出土した異系統土器はそのほとんどが曾利系であるが、第200号住居跡からは僅かに大木式土器も出土している。

西ノ原遺跡は1971年の調査開始以来これまでに遺跡範囲の約63%を調査しているが、今回の調査でこれまで明らかとなってきた縄文時代中期の集落形成過程を補強するような結果となった。住居の有り方といった点ではおおむね明らかになりつつあるが、広場や墓域といった集落全体としての土地利用方法については未だ不明な点が多く、今後の調査に期待したい。

〈参考文献〉

- ・埼玉県大井町遺跡調査会編 1996 『埼玉県大井町遺跡調査会報告第6集 西ノ原遺跡』
- ・今井亮、高崎直成、坪田幹男編 2008 『ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第4集 市内遺跡群3』

【松山遺跡の堀状遺構について】

わずか6mの堀状遺構の調査をもってその用途を推定するのはきわめて困難を承知で、また土壌サンプリング分析の結果を待つ猶予がないため、現時点で99地点確認の堀状遺構の掘削目的と用途について考えてみる。

堀の主体をなす覆土内に満遍なく褐鉄層（酸化鉄層）が認められた。堀底にはある程度早い流水ならば砂が、滞水するような流水ならばシルト質や粘土質の覆土が確認され、通水と止水が繰り返されるならば酸化鉄層が確認される（2005 梶原勝）。酸化鉄層は通水と止水が繰り返されたことを物語るものか。

当該遺跡からは奈良平安期の住居確認数が52軒に達し、水稲栽培の用水確保で多くの溝を確認しているが、流滞水を確認できた溝（堀）について特記しておく。（第17図に発掘箇所を示した）

1. 松山遺跡第10次調査（1991年度調査）

この調査の際に確認面の幅3m、深さ1.2mの溝1を確認している。報文によると壁面は底面よりほぼ垂直に30cmほど立ち上がり、やや開き気味にローム上面に至る。底面はおおむね水平で、全体の断面形は箱形である。底面直上には、粘性をもち灰色がかかった黒色土層があり、水が漏れていたことが推察された。下の層より、鉄分を含んだローム粒子の層、U字状に鉄分を含み粘性をもった黒褐色土層、その内側に砂層があり、一時改修されたものと考えられる。その上は、ロームを含んだ黒褐色土層と表土である。「埋蔵文化財の調査（14）／1992年3月」

2. 第60地点（2012年3月調査）

堀跡は南北に延びほぼ直角に東に曲がる。断面は逆台形で、上幅232～240cm、下幅170cm、深さ98cmである。覆土層の観察では中世と見られる。遺物は覆土層から近世の陶磁器が出土する。松山遺跡で確認された中世の堀跡と同型の遺構であろう。として、堀1の土層説明の中で5層に赤褐色酸化土や多く含むとある。



松山遺跡第60地点堀跡



松山遺跡第60地点堀跡

溝1

1a. 黒褐色土 粘り強、粘性有。5mm以下ロームブロック・粒。5cm以下ソフトロームブロック

少し含む

1b. 黒褐色土 粘り強、粘性有。5cm以下ロームブロック多く含む

2. 黒山

1. 黒褐色土 粘り強、粘性有。20mm以下ローム粒少し含む

2. 黒褐色土 粘り強、粘性有。20mm以下ローム粒。5～15mm赤褐色の酸化土や多く含む

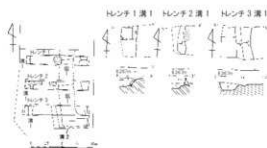
3. 暗黄褐色土 粘り強、粘性有。黒褐色土主体に20mm以下ロームブロック・粒を少量に含む

堀1

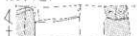
1. 黒褐色土 粘り強、粘性有。5mm以下ローム粒少し含む

2. 黒褐色土 粘り強、粘性有。5mm以下ローム粒や多く（3層より少ない）、間層状にローム

土を下部に少し含む



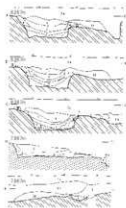
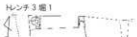
Hンチ1堀1



Hンチ2堀1



Hンチ3堀1



3. 黒褐色土 粘り強、粘性有。5mm以下ローム粒や多く含む（2層よりローム粒多めで黒褐色

味が有る

4. 黒褐色土 粘り強、粘性有。20mm以下ソフトロームブロック少し含む

5. 黒山土 粘り強、粘性有。1cm以下ロームブロック・粒・赤褐色酸化土や多く含む

6.5と7の中期的な土調。ローム粒は中・中が多い

7. 黒褐色土+黄褐色土 粘り強、粘性有。黒褐色土主体に5cm以下ロームブロック。5mm以下

ローム粒多く含む。

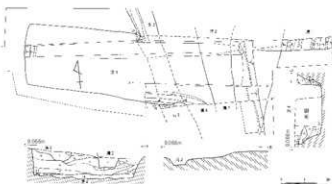
赤褐色・暗褐色の酸化土もやや多く含む

8. 黄褐色土 粘り強、粘性有。黒褐色土ベース。30cm以下ハードブロック主体

第93図 松山遺跡第60地点遺構配置図（1/600）、堀・溝（1/160）

3. 第64地点 (2012年6月調査)

溝



- 1 表土、耕作土、暗褐色土、締り弱
 Ⅱ 耕作土、暗褐色土、締り弱、1～10mm ローム粒やや多く含む
 1 溝2 暗褐色土〔基〕締り有、1～10mm 粒多く、3cm 大ロームブロック少し含む
 2 溝2 暗褐色土〔基〕締り有、1～10mm 多、1～3cm 大ロームブロックやや多く含む
 3 暗褐色土〔基〕非常に硬く締り、1～5mm 粒多く、表面はテラチラ光る、1層とよびぬ
 4 溝3 暗褐色土〔基〕締り有、1～3mm ローム粒多く、下層は水成堆積の痕跡有り
 4' 4層に1～10mm ローム粒多量に混入
 5 地下室 黒褐色土、締り有、硬い、1mm ローム粒少し、5mm 炭粒少し含む
 6 地下室 黒褐色土〔やや基〕締り有、1～10mm 粒多く含む
 7 地下室 褐色土、締り有、暗褐色土と1～10mm ローム粒の混合土
 8 地下室 黒褐色土、締り有、黒褐色土と1～10mm ローム粒の混合土、1～3cm 大ロームブロック多く含む
 9 地下室 褐色土、締り有、ローム主体、暗褐色土混入、壁の剥れたもの
 10 地下室 黒褐色土、締り有、黒褐色土と1～10mm ローム粒と1～5cm 大ロームブロックの混合土、10層より色が濃い
 11 地下室 黒褐色土、締り有、1～3mm ローム粒少し含む
 12 暗褐色土、締り有、硬い、1～3mm ローム粒やや多く含む
 13 黄褐色土、締り有、1mm ローム粒、塊主体、暗褐色土混入
 14 黒褐色土、締り有、1～10mm ローム粒多量、～3cm 大ローム塊多く含む
 15 黄褐色土、締り弱、ローム粒・塊主体
 16 黒褐色土、締りやや有、～3cm 大ローム塊少し含む
 17 黄褐色土、締りやや有、ローム塊主体、ローム粒混入
 18 黒褐色土、締りやや有、1～5mm ローム粒多量、1～3cm 大ローム塊少し含む
 19 黄褐色土、締りやや有、ローム塊主体
 20 暗褐色土、締り弱、1～5mm ローム粒多く含む
 21 暗褐色土、締り有、1～10mm ローム粒多量多く含む

第51表 松山遺跡第64地点溝一覧表 (単位 cm)

No	断面形態	上幅	下幅	深さ	備考
溝1	V字(兼碾場)	210～235	—	160	古代～中世
溝2	U字	110～120	—	88	近世～
溝3	U字	80～155	—	110	近世～
溝4	V字(箱碾場)	250～310	—	104	中世

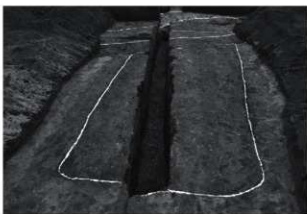
本文中にはふれられていないが、溝2の第4層と溝4の第13層の土説に水成堆積の痕跡、硬化有りとなされている。

- 22 暗褐色土、締り有、5mm 大ロームブロック多量多く含む
 23 黒褐色土、締り有、1～3mm ローム粒少し含む
 24 暗褐色土、締り有、1～3mm ローム粒やや多く含む
 25 暗褐色土〔24層と隣〕締り有、1～3mm ローム粒多く含む
 26 褐色土、締り有、3cm 大ロームブロック少し、1～5mm ローム粒多量多く含む
 27 黒褐色土、締り有、1～3mm ローム粒やや多く含む
 28 褐色土、締り有、1～5mm ローム粒多量多く含む
 29 褐色土、締り有、1cm 大ロームブロック多、1～5mm ローム粒多量多く含む
 30 黄褐色土、締り有、ローム粒主体、1cm 大ロームブロック多く含む
 31 黄褐色土、締り弱、ロームブロック主体
 32 黒褐色土とロームブロックの混合土、締り弱
 溝4
 1 暗褐色土、締り有、硬い、1～3mm ローム粒やや多く含む
 2 黄褐色土、締り有、1mm ローム粒・塊主体、暗褐色土混入、暗褐色土の割合が多い
 3 黄褐色土、締り有、1mm ローム粒・塊主体、暗褐色土混入、ロームの割合が多い
 4 黄褐色土、締り有、1mm ローム粒・塊主体、暗褐色土混入、黒色土主体
 5 黒褐色土、締り有、1～10mm ローム粒多量、～3cm 大ローム塊多量多く含む
 6 黄褐色土、締りやや有、ローム塊主体、ローム粒混入
 7 褐色土、締り有、ソフトロームブロック多量混入
 8 黄褐色土〔やや基〕締り有、3～10mm ローム粒多量多く含む
 9 黄褐色土とロームと黒褐色土の混合
 10 黒褐色土、締り有、3～10mm ローム粒多量多く含む
 11 黒褐色土、締り有、3～10mm ローム粒と～5cm 大ロームブロックの混合土
 12 黄褐色土、締り有、～3cm 大ロームブロック・粒主体
 13 暗褐色土、締り有、1～2cm 大ロームブロックとの混合土、ロームブロックは水成のため硬化している

第94図 松山遺跡第64地点溝 (1/160)、土層 (1/300)



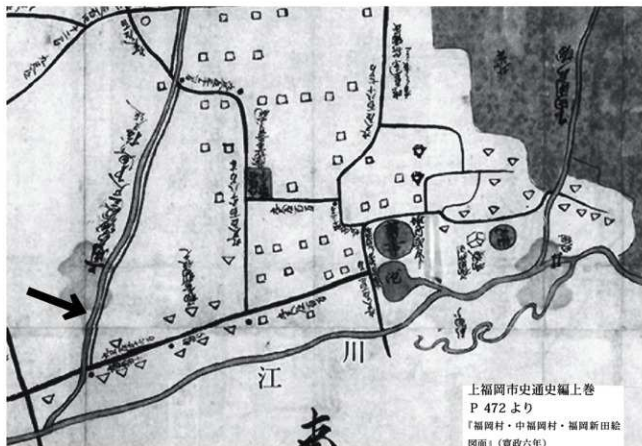
松山遺跡第64地点溝2



松山遺跡第64地点溝4

これらの溝が流滞水したとして、水を求めていたのは何処からか？用水に係る記録をここで引用する。地理的に江川および水天宮池からの引水は容易に想像つく。江川の水量については先述した。赤沼と呼ばれる水天宮池も古く江戸時代からの重要な水源地であった。

- ・『福岡村史』によると江戸期に池の水が枯れることがあったが、地下水が他へ逃げていることが判明したので厚い板を地下水路に並べて打ち込みこれを断ち切って池の方へ湧くように工事を行われたことが今に伝えられている。また、「江川を新田と駒林境でセキ止め畑の間を水路を北に通して中福岡をぬけて耕地に引き相当の用水を作っていた。用水は用が済めば江川のセキをはずすので逆流して濁水するがその逆流がもどってくるのでセキのあったところが落合と言う地名になって残っている」としている。
- ・『新編武蔵風土記稿』の福岡新田には「水田ハ少ク陸田ハ多シ本村薬王寺前ナル沼ヨリ出ル清水ヲモテ用水トナセトモヤヤモスレハ水損ノ患アリ此地元ハ芝野ナリシヲ（後略）」とある。
- ・『福岡村・中福岡村・福岡新田絵図面』（寛政六年）には江川から引いた用水堀が画かれ、「上用水堀三尺下通り拾戸迄」の文字が読める。
- ・松山遺跡は旧中福岡村に位置するが、「用水は、赤沼（薬師手洗いの池）からひいていた。」（上福岡市史通史編）





昭和 35 年頃の赤沼

右端の池のほとりに厳島神社。この池は昭和 43 年頃埋め立てられ、現在は児童公園になっている。

以上の文献からも、松山遺跡内で確認される溝状遺構は用水に供されたものが存在すると推察がつく。99 地点で確認された堀状遺構が用水堀とする決定的な根拠を有さないが、堀の底面ではないが酸化鉄層が認められ、直線的に延びると江川に合流することから、江川から引いた用水堀とみることが妥当であろう。底面標高は東で 9.20 m、西で 9.24 m と江川寄りの方が若干高い。ローム層の底面は掘り方のように凸凹が目立つ。用水堀として使用されていた段階では酸化鉄層が確認される底面上 10 ～ 15 cm まで滞水し、堀の掘削時は掘り方にみられるような荒掘りで用水を通した可能性が考えられよう。今後も、引き続きいねいな調査と使用時期の検討を重ねていくより解明の途はない。

【引用・参考文献】

『上福岡市史通史編上巻』 P 472

梶原 勝 江川南遺跡及び亀久保堀跡遺跡の「堀」について『江川南遺跡Ⅱ 神明後遺跡Ⅰ』（2005 年大井町遺跡調査会報告第 16 集）

『市史調査報告書第 19 集「20 世紀を語る古写真」』2001 年

『福岡村史』

附編

駒林遺跡第37地点のテフラ分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

ふじみ野市に所在する駒林遺跡は、荒川中流域右岸に広がる武蔵野台地北部の台地平坦面上に位置する。この付近の武蔵野台地は、広くM2面(約8万年前に形成)に区分されているが、荒川低地に臨む台地縁辺部にはそれよりも一段低い立川面に相当する台地も分布している(久保,1988など)。駒林遺跡は、こうした立川面相当の台地上に位置していると考えられる。

これまでの発掘調査によって、中世の遺物包含層をその埋積層中部に有する溝跡が検出されている。本報告では、溝跡埋積層を対象として指標テフラの検出を行うことにより、溝跡の年代に関わる資料を作成する。

1. 試料

試料は、中世の遺物包含層の検出された溝跡の埋積層より採取された。試料の採取された溝跡には35地点および37地点がされている。図1に試料採取層位を示す。

35地点ではA-A'とC-C'の2断面が作成されている。A-A'断面では、埋積層の中部から試料番号1と2が採取され、溝底部の埋積層から試料番号3と4が採取されている。試料番号1の採取された埋積層は中世の包含層とされている。また、C-C'断面では、埋積層中部から試料番号5、埋積層下部から試料番号6、溝底部から試料番号7がそれぞれ採取されている。試料番号5の採取された埋積層が中世の包含層とされている。

37地点ではB-B'とC-C'の2断面が作成されている。B-B'断面では、埋積層の中部から試料番号1と2が採取され、埋積層の下部から試料番号3が、溝底部の埋積層から試料番号4が採取されている。C-C'断面では、埋積層中部から試料番号5、埋積層下部から試料番号6、溝底部から試料番号7がそれぞれ採取されている。

2. 分析方法

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

3. 結果

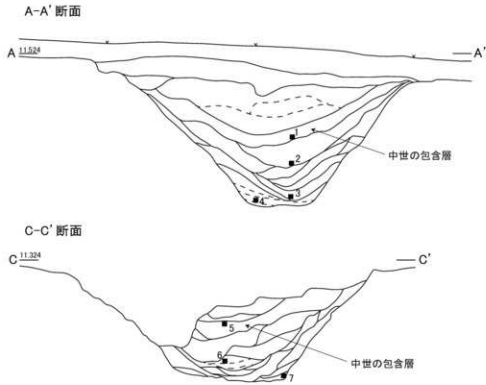
結果を表1に示す。以下に断面ごとに述べる。

(1)35地点

<A-A'断面>

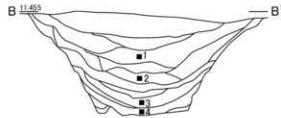
スコリアは、試料番号1と2に微量、試料番号3と4に極めて微量含まれる。特徴は、いずれの試料もほぼ同様であり、最大径は1mm前後、黒色で発泡不良、黒色で発泡やや不良、褐色で発泡やや不良のスコリアが混在する。火山ガラスは、試料番号1と2に極めて微量、試料番号3と4に微量含まれる。いずれの試料も、無色透明のバブル型と無色透明の軽石型が混在する。

35地点

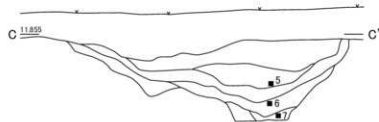


37地点

B-B' 断面



C-C' 断面



0 2m

図1. 各地点における試料採取位置

軽石は、試料番号1と2に微量、試料番号3と4に極めて微量含まれる。特徴は、いずれの試料もほぼ同様であり、最大径は0.5mm前後、灰褐色を呈し、発泡はやや不良、斜方輝石の斑晶を包有するものが認められる。

<C-C' 断面>

スコリアは、試料番号5に微量、試料番号6と7に極めて微量含まれる。火山ガラスは、3点の試料ともに極めて微量含まれる。軽石は、試料番号5に微量、試料番号6と7に極めて微量含まれる。なお、スコリア、火山ガラスおよび軽石ともに、それらの特徴は、35地点A-A'断面の試料とそれぞれほぼ同様である。

(2)37地点

<B-B' 断面>

スコリアは、試料番号1と2に微量含まれ、試料番号3と4には含まれない。火山ガラスは、試料番号1と2に極めて微量含まれ、試料番号3と4に微量含まれる。軽石は、試料番号1と2に微量含まれ、試料番号3と4には含まれない。スコリア、火山ガラスおよび軽石ともに、それらの特徴は、35地点A-A'断面の試料とそれぞれほぼ同様である。

<C-C' 断面>

スコリアは、3点の試料ともに微量含まれる。火山ガラスは、3点の試料ともに極めて微量含まれる。軽石は、3点の試料ともに微量含まれる。スコリア、火山ガラスおよび軽石ともに、それらの特徴は、35地点A-A'断面の試料とそれぞれほぼ同様である。

表1. テフラ分析結果

地点	断面	試料番号	量	スコリア		火山ガラス		軽石	
				色調・発泡度	最大粒径	色調・形態	量	色調・発泡度	最大粒径
35	A-A'	11	I(+)	B-b, B'-sb, Br'-sb	1.2 I(+)	Icl-bw, cl'-pm	I+	GBr-sb(opx)	0.8 I
		12	I(+)	B-b, B'-sb, Br'-sb	1.2 I(+)	Icl-bw, cl'-pm	I+	GBr-sb(opx)	0.8 I
		13	I(+)	B-b, B'-sb, Br'-sb	0.6 I+	Icl-bw, cl'-pm	I(+)	GBr-sb(opx)	0.4 I
		14	I(+)	B-b, B'-sb, Br'-sb	1.0 I+	Icl-bw, cl'-pm	I(+)	GBr-sb(opx)	0.6 I
		15	I(+)	B-b, B'-sb, Br'-sb	1.5 I(+)	Icl-bw, cl'-pm	I+	GBr-sb(opx)	0.8 I
C-C'	16	I(+)	B-b, B'-sb, Br'-sb	1.8 I(+)	Icl-bw, cl'-pm	I(+)	GBr-sb(opx)	0.5 I	
		I(+)	B-b, B'-sb, Br'-sb	1.2 I(+)	Icl-bw, cl'-pm	I(+)	GBr-sb(opx)	0.6 I	
		I(+)	B-b, B'-sb, Br'-sb	1.8 I(+)	Icl-bw, cl'-pm	I+	GBr-sb(opx)	0.7 I	
B-B'	12	I(+)	B-b, B'-sb, Br'-sb	1.6 I(+)	Icl-bw, cl'-pm	I+	GBr-sb(opx)	0.8 I	
		I(-)	-	-	I+	Icl-bw, cl'-pm	I(-)	-	-
37	C-C'	14	I(-)	-	I+	Icl-bw, cl'-pm	I(-)	-	-
		15	I+	B-b, B'-sb, Br'-sb	1.7 I(+)	Icl-bw, cl'-pm	I+	GBr-sb(opx)	0.8 I
		16	I+	B-b, B'-sb, Br'-sb	1.8 I(+)	Icl-bw, cl'-pm	I+	GBr-sb(opx)	0.8 I
		17	I+	B-b, B'-sb, Br'-sb	2.0 I(+)	Icl-bw, cl'-pm	I+	GBr-sb(opx)	0.8 I

凡例 一含まれない、(+):きわめて微量、+微量、++少量、+++中量、++++多量。

B:黒色、Br:褐色、GBr:灰褐色。

g:良好、sg:やや良好、sb:やや不良、b:不良、最大粒径はmm。

cl:無色透明、bw:ワプル型、pm:軽石型。

(opx):斜方輝石斑晶包有。

4. 考察

各断面で検出された火山砕屑物のうち、軽石は、前述した特徴とこれまでの周辺地域におけるテフラの確認事例等から、平安時代の天仁元年(AD1108年)に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ(As-B:新井,1979)に由来すると判断される。

一方、軽石とほぼ同様の試料において混在するスコリアは、完新世の富士火山の活動により噴出した新期富士テフラに由来すると考えられる。新期富士テフラは、上杉(1990)により富士黒土層中のS-0から宝永スコリアのS-25まで記載されており、さらにこの中のテフラによっては細分されているものもあることから50枚近くのテフラにより構成されている。ただし、給源から離れた神奈川県東部や東京都の低地の調査例では、検出される新期富士テフラの枚数は各段に少なくなり、縄文時代後期から晩期のテフラであるS-10・11(湯船第一スコリア(Yu-1))、S-13(砂沢スコリア(Zu))、弥生時代中期頃のS-22(湯船第二スコリア(Yu-2))、古墳時代のテフラとされるS-24-1~5、平安時代延暦年間(西暦800~802年)の噴火で多量のスコリアを噴出したとされているS-24-7、さらには江戸時代の宝永4年(1707年)に噴出した宝永スコリア(F-Ho)などにほぼ限定される。当社では、これまでも神奈川県

県東部や東京都の低地の調査例により、上述した各テフラの試料を得ており、それらの観察から各テフラにはスコリアの粒径や色調および発泡度や斑品の包有状況などの異なるスコリアが複数種混在しており、その混在の度合いが異なることで各テフラの特徴を把握している。今回検出されたスコリアは、その特徴とAs-Bと混在することから、平安時代に噴出したS-24-7に由来する可能性が高い。

火山ガラスについては、その産状と形態的特徴から、立川ローム層中に拡散して含まれている始良Tnテフラ(AT:町田・新井,1976)および立川ローム層上部ガラス質テフラ(UG:山崎,1978)に由来すると考えられる。

ここで溝埋積層中の各テフラ碎屑物の産状をみると、いずれの地点においても溝埋積層の中で濃集するという状況は認められない。このことから溝埋積層中から検出された各テフラの碎屑物は、溝の埋積時に噴火があって降下堆積したのではなく、溝の埋積以前に溝の周囲にあった土層中にもともと含まれていた可能性がある。すなわち、溝周囲の土層が溝内に流れ込むことによって溝埋積層中にもテフラに由来する碎屑物が含まれていると考えることができる。その場合、溝の構築はテフラの降下後であることから、溝の構築は古くとも検出されたテフラの中で最も新しいテフラであるAs-Bの降灰より以降すなわち12世紀初頭以降であると考えられる。このことは中世の遺物包含層が溝内に形成されていることと矛盾しない。

引用文献

- 新井房夫,1979,関東地方北西部の縄文時代以降の指標テフラ層,考古学ジャーナル,157,41-52.
久保純子,1988,相模野台地・武蔵野台地を刻む谷の地形—風成テフラを供給された名残川の谷地形—,地理学評論,61,25-48.
町田 洋・新井房夫,1976,広域に分布する火山灰—始良Tn火山灰の発見とその意義—,科学,46,339-347.
上杉 陽,1990,富士火山東方地域のテフラ標準柱状図—その1:S-25～Y-114—,関東の四紀,16,3-28.
山崎晴雄,1978,立川層とその第四紀後期の運動,第四紀研究,16,231-246.



ハケ遺跡第 24 地点 J36 号住居跡完掘



ハケ遺跡第 24 地点 J36 号住居跡集石土坑検出



ハケ遺跡第 24 地点 J36 号住居跡炉・集石土坑完掘



ハケ遺跡第 24 地点 J36 号住居跡埋裏



ハケ遺跡第 24 地点本調査風景



ハケ遺跡第 24 地点堅穴遺構



ハケ遺跡第 24 地点土坑 1



ハケ遺跡第 24 地点土坑 2



ハケ遺跡第 24 地点ビット 1



ハケ遺跡第 24 地点ビット 2



ハケ遺跡第 24 地点ビット 3



ハケ遺跡第 24 地点ビット 4



ハケ遺跡第 24 地点ビット 5



ハケ遺跡第 24 地点ビット 6



ハケ遺跡第 24 地点ビット 7・8



ハケ遺跡第 24 地点ビット 9



ハケ遺跡第 24 地点ビット 10



ハケ遺跡第 24 地点ビット 12



ハケ遺跡第 24 地点ビット 13・14



ハケ遺跡第 24 地点集石土坑検出状況



ハケ遺跡第 24 地点集石土坑完掘



ハケ遺跡第 24 地点トレンチ 1



ハケ遺跡第 24 地点トレンチ 2



ハケ遺跡第 24 地点トレンチ 2



ハケ遺跡第 24 地点トレンチ 3



ハケ遺跡第 24 地点トレンチ 5



ハケ遺跡第 24 地点トレンチ 6



ハケ遺跡第 24 地点トレンチ 7



ハケ遺跡第 24 地点トレンチ 8



ハケ遺跡第 24 地点トレンチ 9



ハケ遺跡第 24 地点試掘調査風景



ハケ遺跡第 24 地点本調査風景

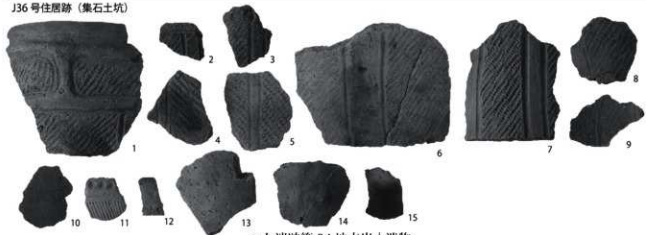


ハケ遺跡第 24 地点博物館実習

J36 号住居跡



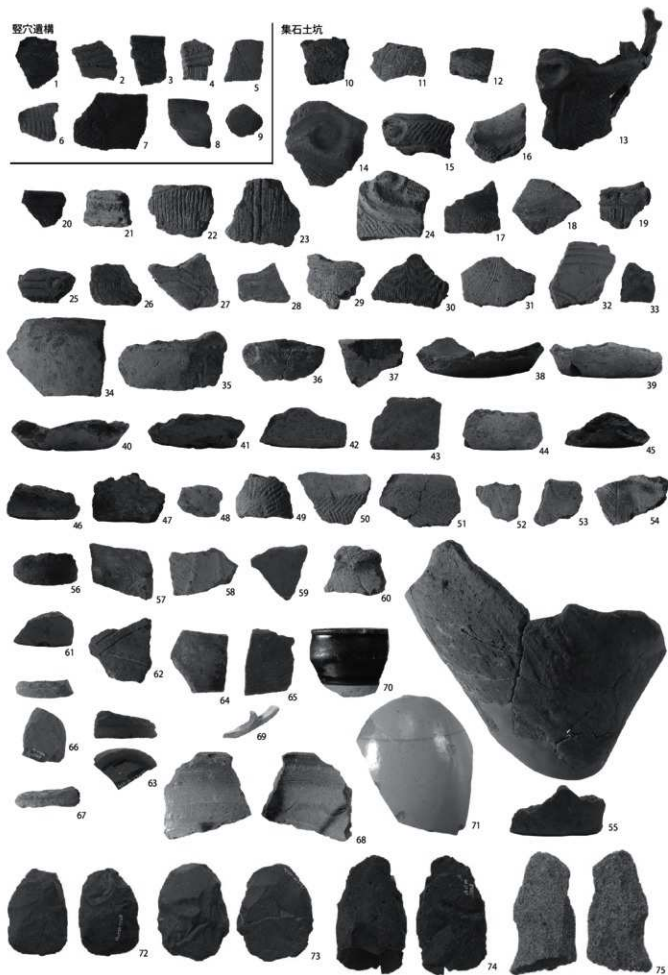
J36 号住居跡 (集石土坑)

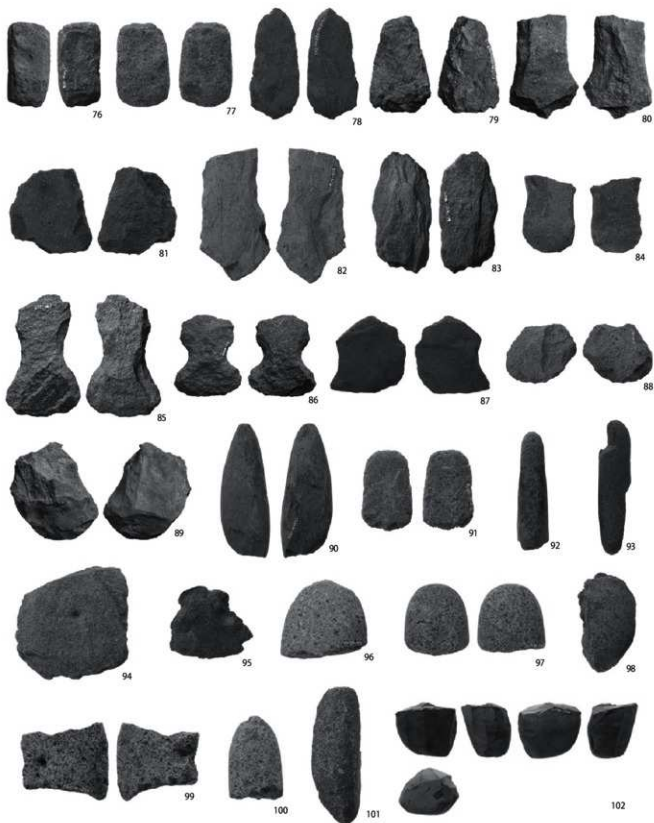


ハケ遺跡第 24 地点出土遺物

整穴遺構

集石土坑





土坑 1



土坑 2



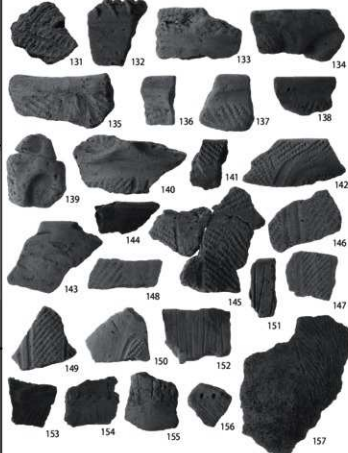
ビット 1



ビット 2



ビット 3



ビット 11



ビット 12



遺構外



ハケ遺跡第 24 地点出土遺物



松山遺跡第 99 地点試掘調査風景



松山遺跡第 99 地点試掘調査風景



松山遺跡第 99 地点試掘調査風景



松山遺跡第 99 地点本調査風景



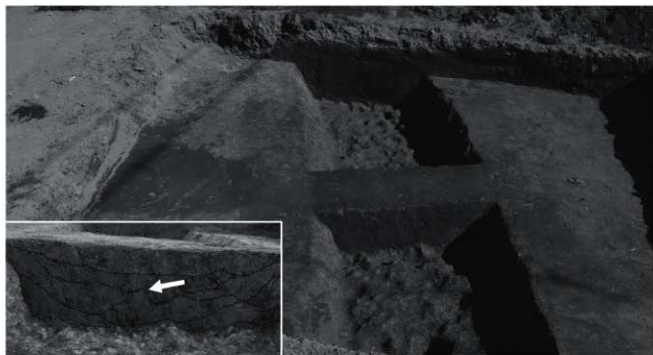
松山遺跡第 99 地点堀状遺構プラン確認



松山遺跡第 99 地点堀状遺構調査風景



松山遺跡第 99 地点堀状遺構調査風景



掘状遺構土層 (矢印が酸化鉄)

松山遺跡第 99 地点掘状遺構全景 (西より)



松山遺跡第 99 地点掘状遺構作業風景と底面掘方



松山遺跡第 99 地点掘状遺構底面ピット



松山遺跡第 99 地点掘状遺構ベルト土層サンプリング風景



松山遺跡第 99 地点出土遺物



駒林遺跡第 35 地点土坑 1



駒林遺跡第 35 地点土坑 2



駒林遺跡第 35 地点掘跡土層



駒林遺跡第 35 地点掘跡完掘



駒林遺跡第 35 地点掘跡完掘 2



駒林遺跡第 35 地点溝 1・4



駒林遺跡第 35 地点溝 2



駒林遺跡第 35 地点溝 3



駒林遺跡第 35 地点トレンチ 1



駒林遺跡第 35 地点トレンチ 2



駒林遺跡第 35 地点トレンチ 3



駒林遺跡第 35 地点トレンチ 4



駒林遺跡第 35 地点トレンチ 5



駒林遺跡第 35 地点トレンチ 6



駒林遺跡第 35 地点トレンチ 7



駒林遺跡第 35 地点トレンチ 8



駒林遺跡第 35 地点トレンチ 9



駒林遺跡第 35 地点トレンチ 10・11



駒林遺跡第 35 地点試掘調査風景



駒林遺跡第 35 地点本調査風景 1



駒林遺跡第 35 地点本調査風景 2



駒林遺跡第 35 地点土壌サンプル採取位置 1



駒林遺跡第 35 地点土壌サンプル採取位置 2



駒林遺跡第 35 地点出土遺物



駒林遺跡第 37 地点堀跡完掘



駒林遺跡第 37 地点試掘調査風景



駒林遺跡第 37 地点堀跡北側



駒林遺跡第 37 地点堀跡内ピット群



駒林遺跡第 37 地点堀跡土層



駒林遺跡第 37 地点溝

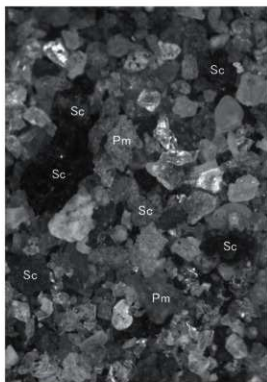


駒林遺跡第 37 地点トレンチ 2

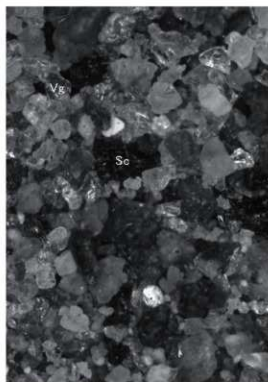


駒林遺跡第 37 地点トレンチ 9

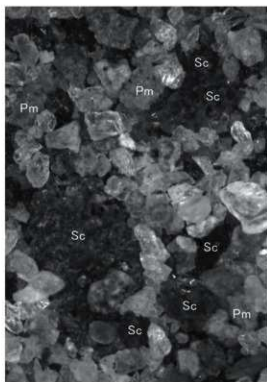
図版1 テフラ・砂分の状況



1. スコリアと軽石(35地点:1)



2. 砂分の状況(35地点:4)



3. スコリアと軽石(37地点:1)



4. 砂分の状況(37地点:4)

Pm: 軽石, Vg: 火山ガラス, Sc: スコリア.





駒林遺跡第 37 地点試掘調査風景



駒林遺跡第 37 地点本調査風景 1



駒林遺跡第 37 地点本調査風景 2

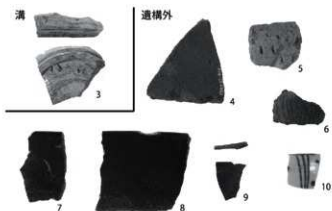


駒林遺跡第 37 地点土壌サンプル採取位置



駒林遺跡第 37 地点調査風景 3

堀跡



駒林遺跡第 37 地点出土遺物



東久保南遺跡第 43 地点 J3 号住居跡



東久保南遺跡第 43 地点 J3 号住居跡炉



東久保南遺跡第 43 地点 J3 号住居跡遺物出土状況



東久保南遺跡第 43 地点ピット 8



東久保南遺跡第 43 地点トレンチ 1



東久保南遺跡第 43 地点トレンチ 2



東久保南遺跡第 43 地点トレンチ 3



東久保南遺跡第 43 地点試掘調査坑検出状況



東久保南遺跡第 43 地点試掘調査風景



東久保南遺跡第 43 地点調査風景

J3 号住居跡



1



遺構外



12

東久保南遺跡第 43 地点出土遺物



西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡完掘



西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡炉



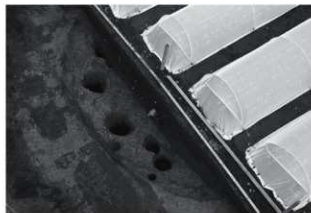
西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡遺物出土状況 1



西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡遺物出土状況 2



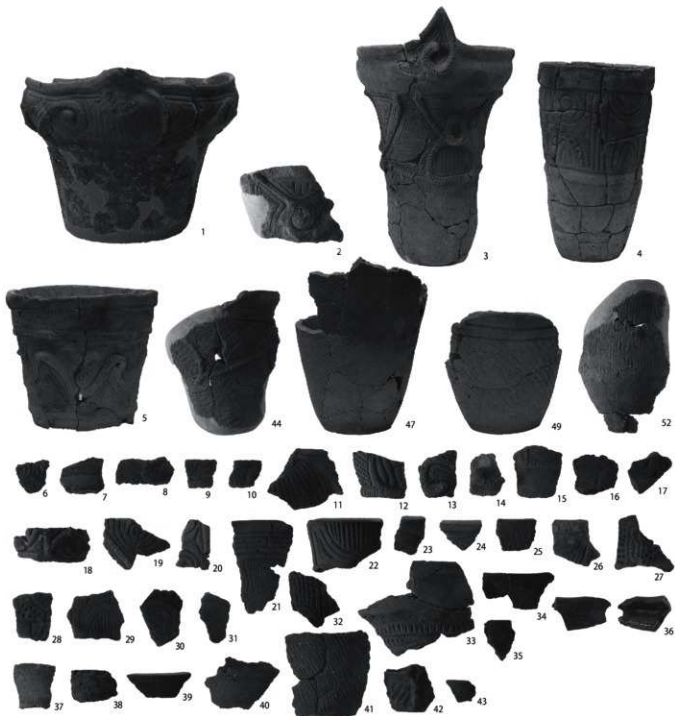
西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡調査風景



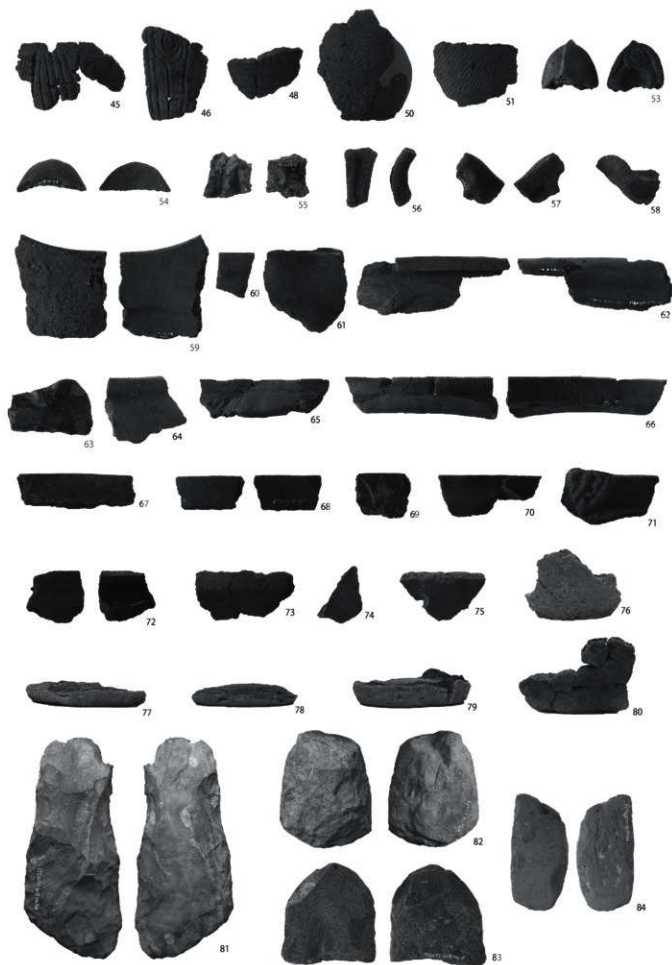
西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡完掘 (1991 年調査時)



西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡出土状況 (1991 年調査時)



西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡出土遺物



西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡出土遺物



西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡完掘 1



西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡完掘 2



西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡研完掘



西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡焼土 1



西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡焼土 2



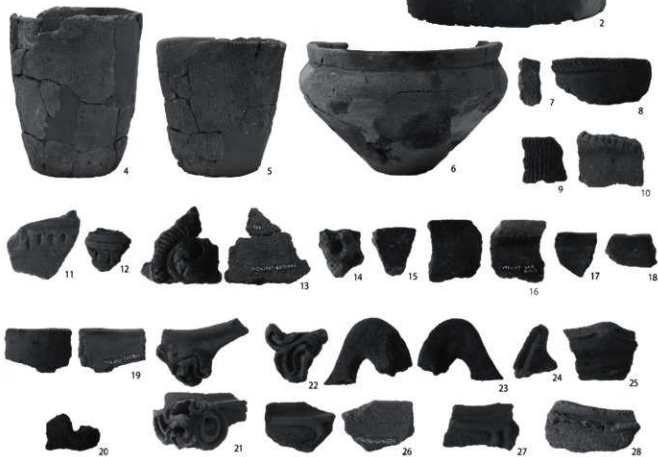
西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡炭化物範囲



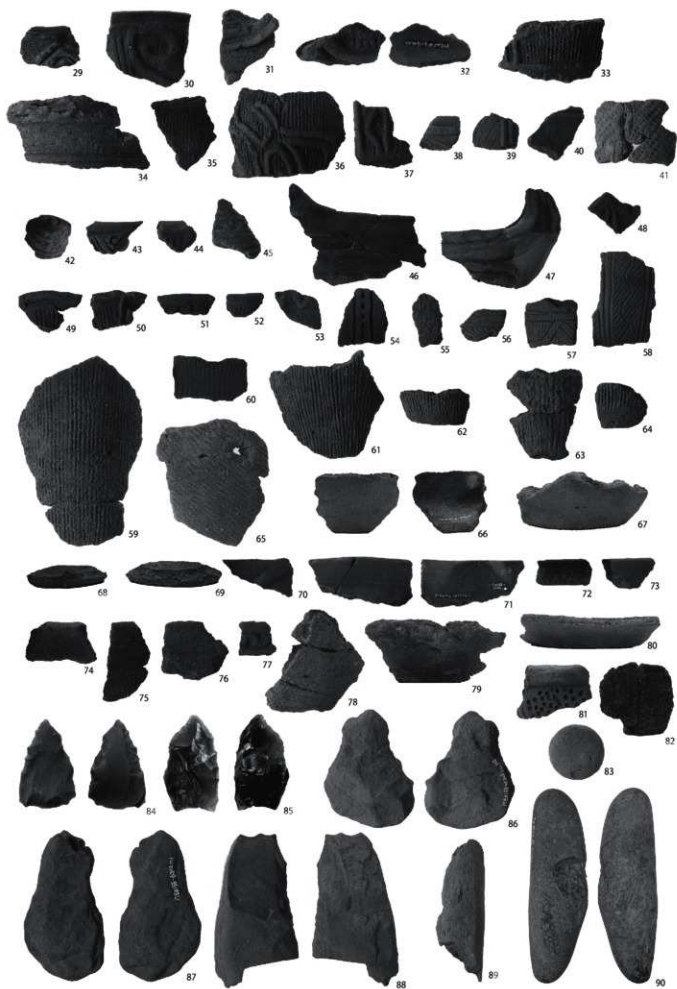
西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡遺物出土状況 1



西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡遺物出土状況 2



西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡出土遺物①





西ノ原遺跡第 158 地点 194 号住居跡完掘 1



西ノ原遺跡第 158 地点 194 号住居跡完掘 2



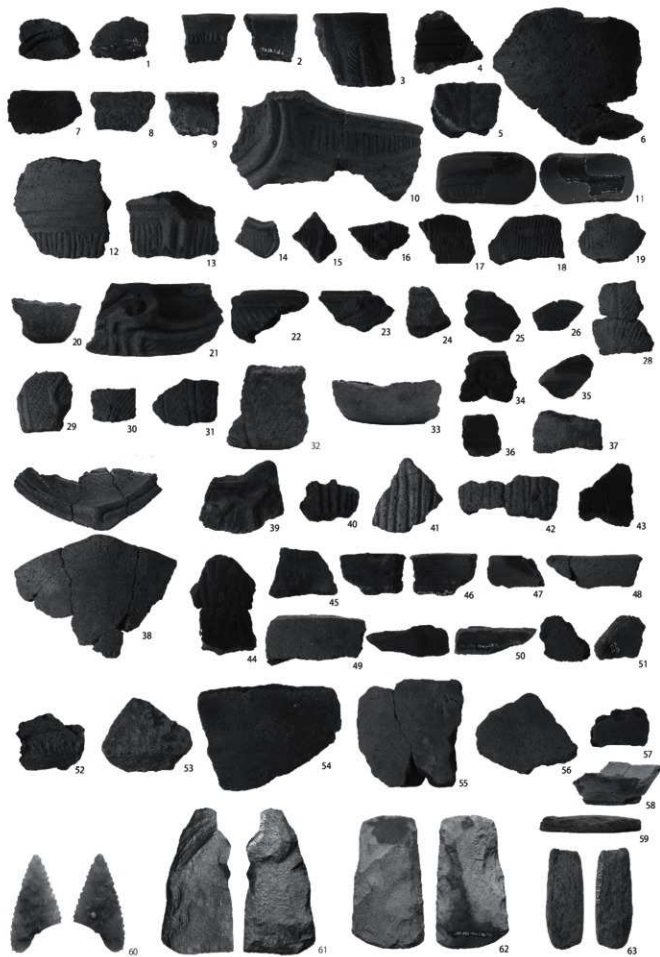
西ノ原遺跡第 158 地点 194 号住居跡炉 1



西ノ原遺跡第 158 地点 194 号住居跡炉 2



西ノ原遺跡第 158 地点 194 号住居跡出土遺物



西ノ原遺跡第 158 地点 194 号住居跡出土遺物



西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡完掘 1



西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡完掘 2



西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡完掘 3



西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡炉 1



西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡炉 2



西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡遺物出土状況 1



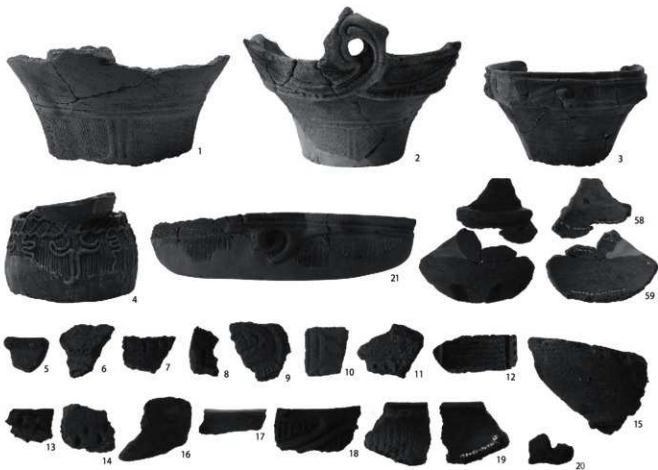
西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡遺物出土状況 2



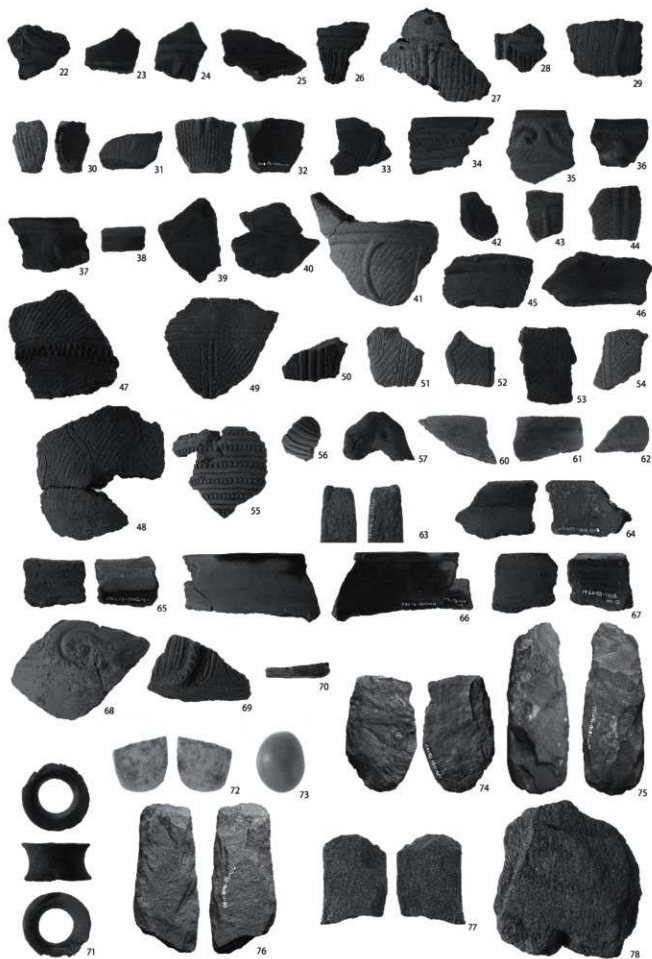
西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡遺物出土状況 3



西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡耳栓出土状況



西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡出土遺物①





西ノ原遺跡第 158 地点 197 号住居跡完掘 1



西ノ原遺跡第 158 地点 197 号住居跡完掘 2



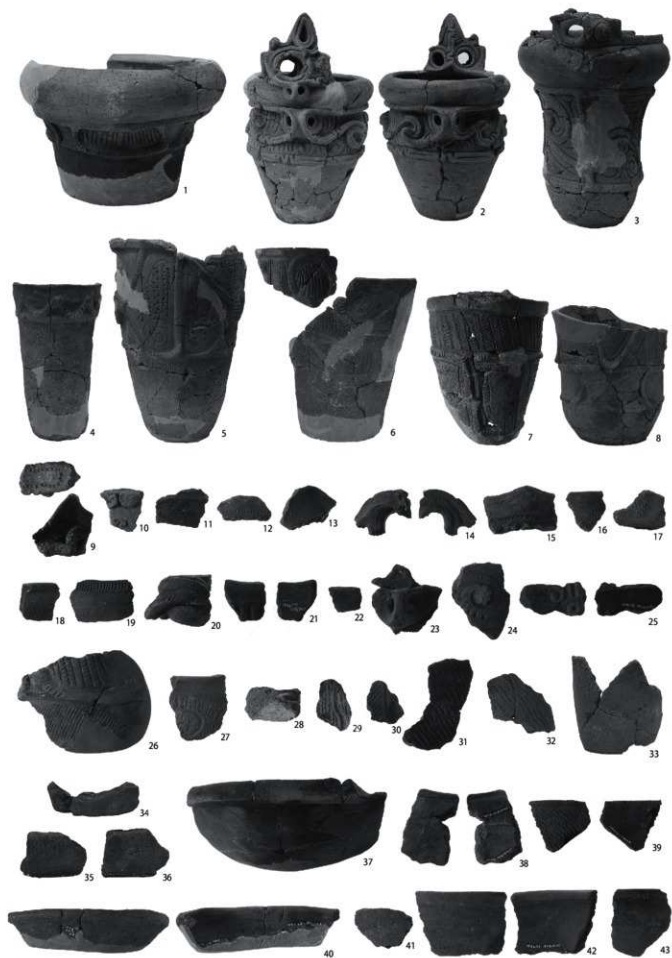
西ノ原遺跡第 158 地点 197 号住居跡炉



西ノ原遺跡第 158 地点 197 号住居跡炉掘方



西ノ原遺跡第 158 地点 197 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 158 地点 197 号住居跡出土遺物



西ノ原遺跡第 158 地点 198 号住居跡完掘 1



西ノ原遺跡第 158 地点 198 号住居跡完掘 2



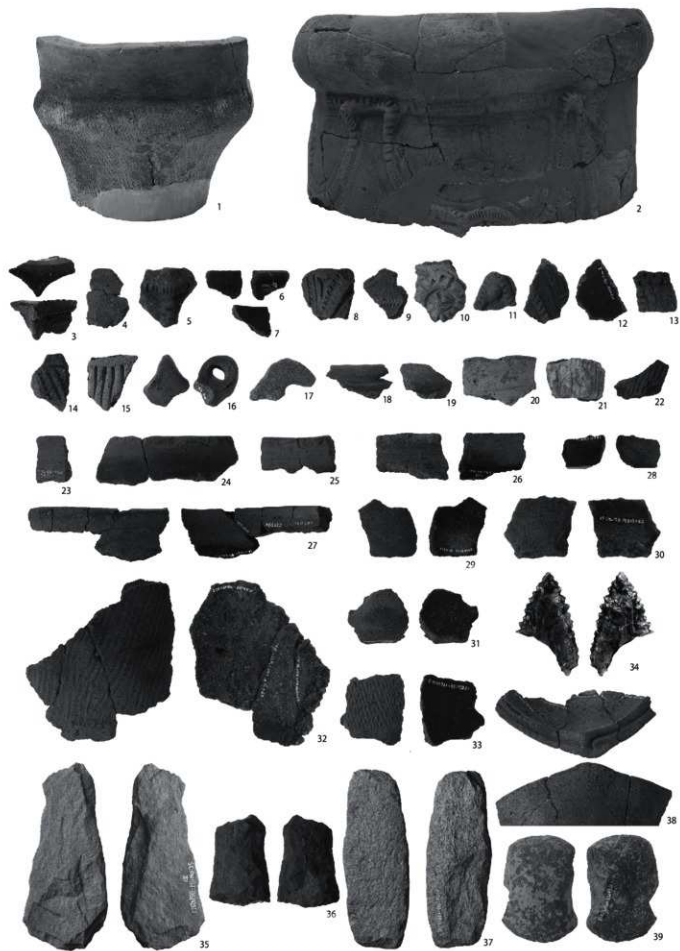
西ノ原遺跡第 158 地点 198 号住居跡炉



西ノ原遺跡第 158 地点 198 号住居跡炉掘方



西ノ原遺跡第 158 地点 198 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 158 地点 198 号住居跡出土遺物



西ノ原遺跡第 158 地点 199・204 号住居跡完掘 1



西ノ原遺跡第 158 地点 199・204 号住居跡完掘 2



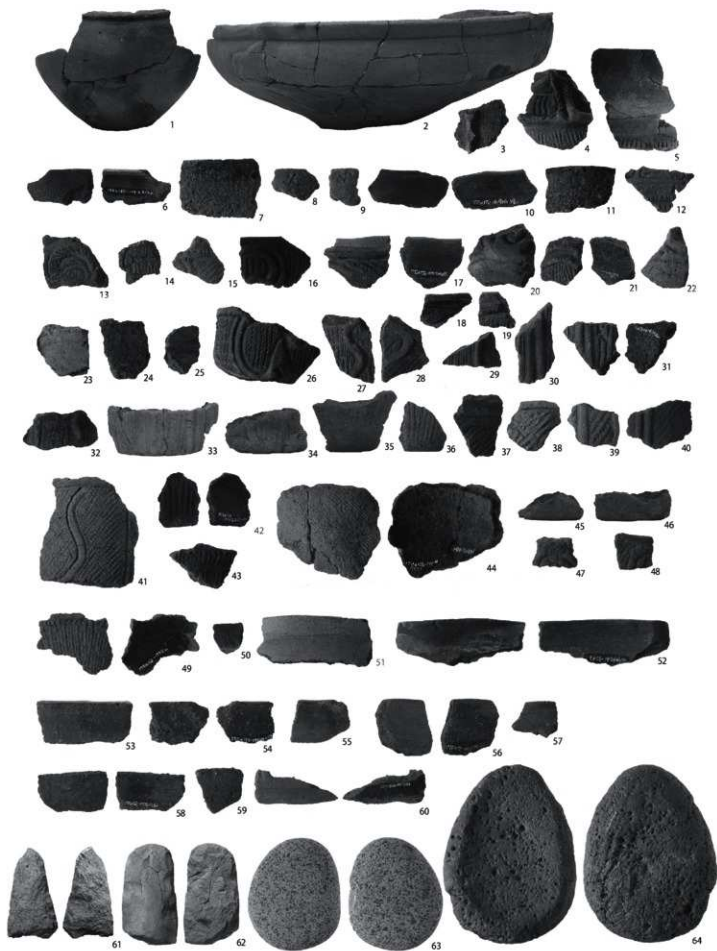
西ノ原遺跡第 158 地点 199 号住居跡炉



西ノ原遺跡第 158 地点 199 号住居跡遺物出土状況 1



西ノ原遺跡第 158 地点 199 号住居跡遺物出土状況 2



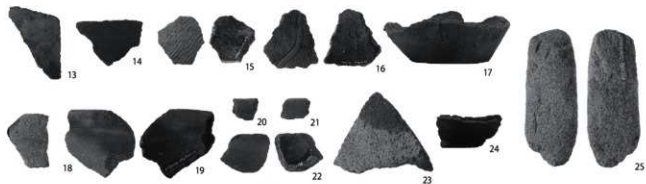
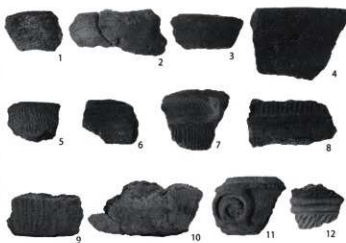
西ノ原遺跡第 158 地点 199 号住居跡出土遺物



西ノ原遺跡第 158 地点 204 号住居跡完掘



西ノ原遺跡 158 地点 204 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 158 地点 204 号住居跡出土遺物



西ノ原遺跡第 158 地点 200 号住居跡完掘 1



西ノ原遺跡第 158 地点 200 号住居跡炉 1



西ノ原遺跡第 158 地点 200 号住居跡炉 2



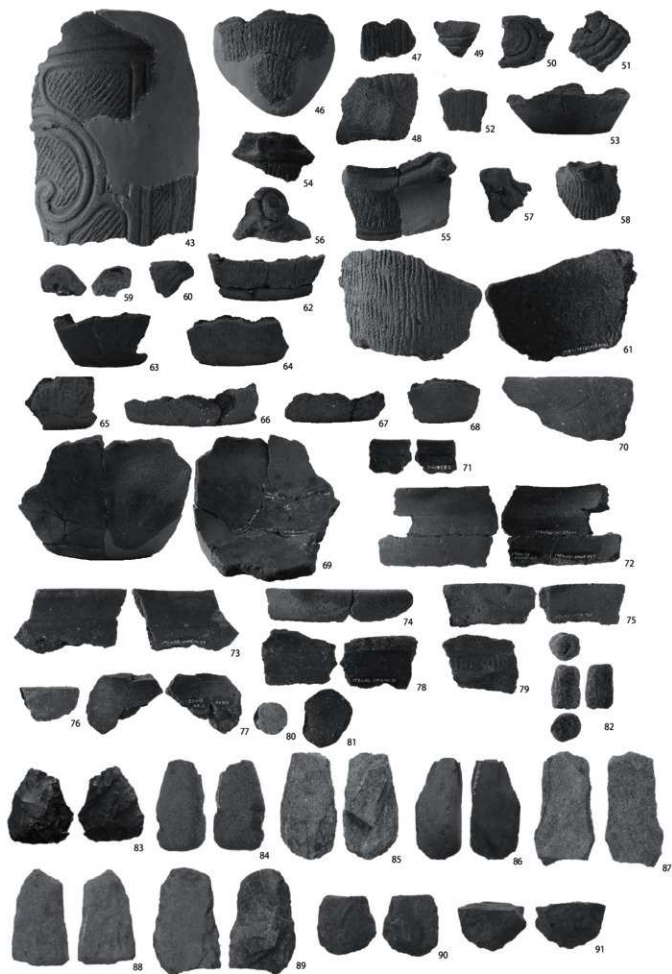
西ノ原遺跡第 158 地点 200 号住居跡遺物出土状況



西ノ原遺跡第 158 地点 200 号住居跡調査風景



西ノ原遺跡第 158 地点 200 号住居跡出土遺物①



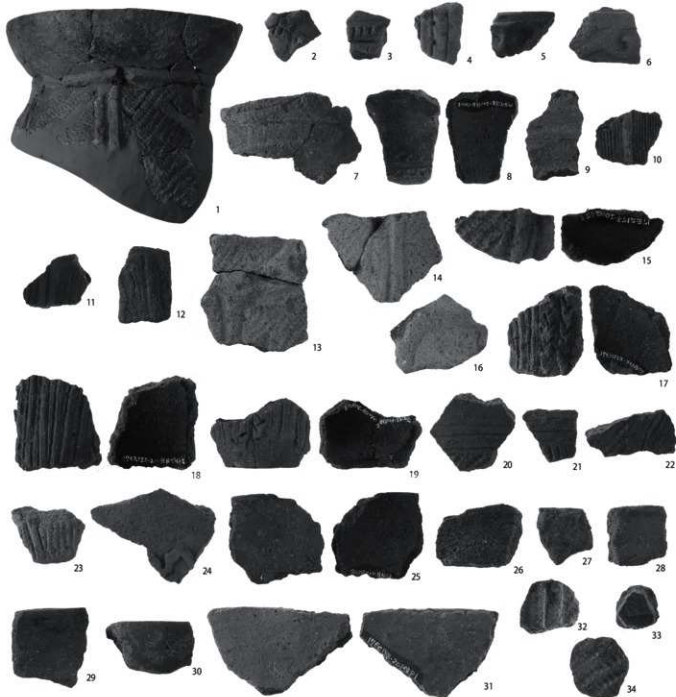
西ノ原遺跡第 158 地点 200 号住居跡出土遺物②



西ノ原遺跡第 158 地点 201 号住居跡完掘



西ノ原遺跡第 158 地点 201 号住居跡炉



西ノ原遺跡第 158 地点 201 号住居跡出土遺物



西ノ原遺跡第 158 地点 203 号住居跡完掘 1



西ノ原遺跡第 158 地点 203 号住居跡完掘 2



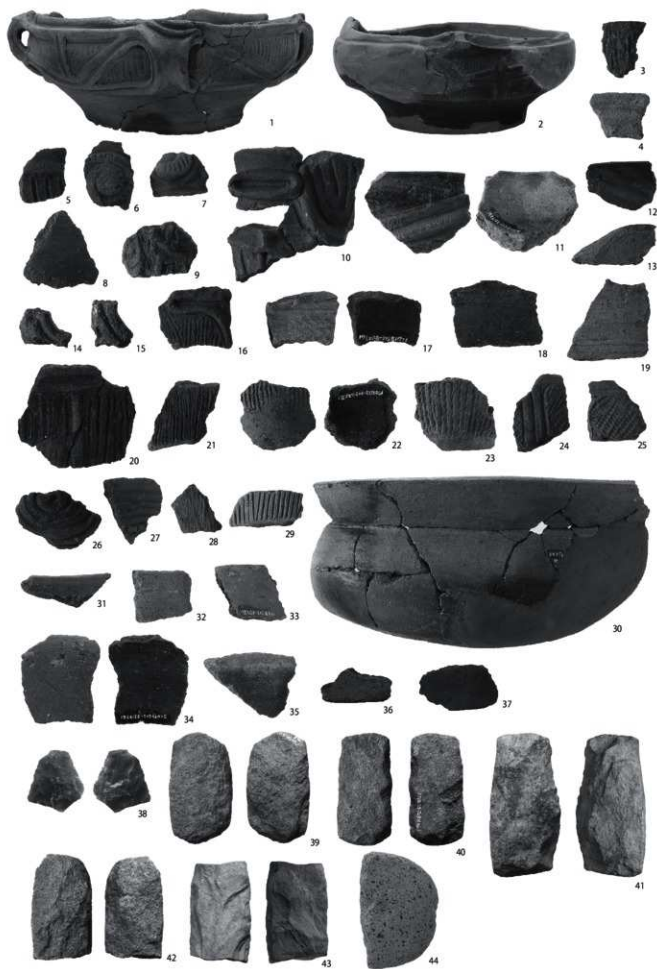
西ノ原遺跡第 158 地点 203 号住居跡完掘 3



西ノ原遺跡第 158 地点 203 号住居跡炉



西ノ原遺跡第 158 地点 203 号住居跡作業風景



西ノ原遺跡第158地点203号住居跡出土遺物



西ノ原遺跡 158 地点 216 号住居跡完掘 1



西ノ原遺跡第 158 地点 216 号住居跡完掘 2



西ノ原遺跡第 158 地点 216 号住居跡炉 A

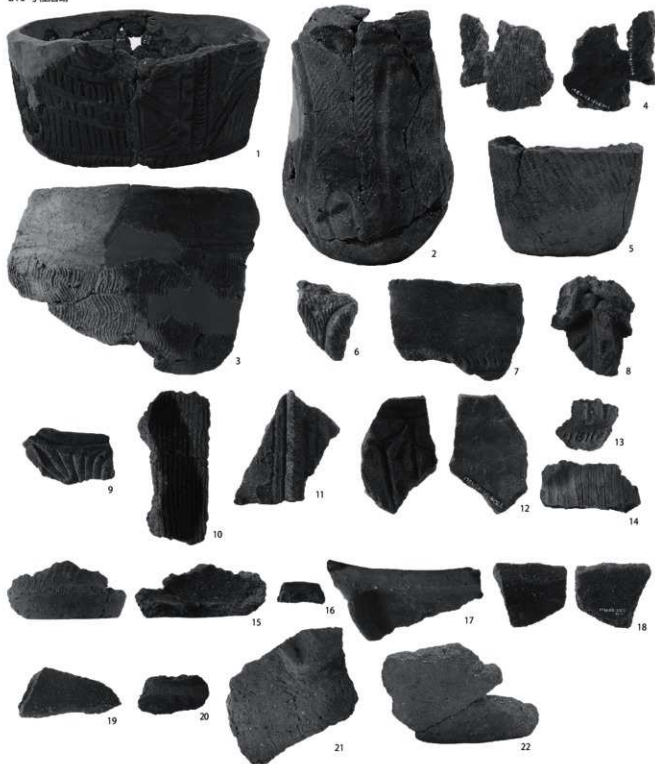


西ノ原遺跡第 158 地点 216 号住居跡炉 B 掘方



西ノ原遺跡第 158 地点 216 号住居跡炉 B 完掘

216 号住居跡



掘り込み遺構

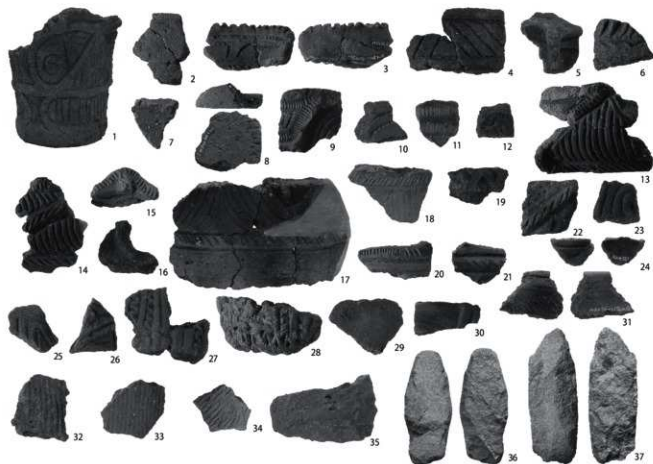




西ノ原遺跡第 158 地点竖穴遺構完掘



西ノ原遺跡第 158 地点竖穴遺構遺物出土状況



西ノ原遺跡第 158 地点竖穴遺構出土遺物



西ノ原遺跡第 158 地点土坑 1



西ノ原遺跡第 158 地点土坑 3



西ノ原遺跡第 158 地点土坑 4



西ノ原遺跡第 158 地点ピット 1



西ノ原遺跡第 158 地点ピット 2～5



西ノ原遺跡第 158 地点ピット 6



西ノ原遺跡第 158 地点ピット 7



7

8



9

10

11

西ノ原遺跡第 158 地点遺構外出土遺物

報告書抄録

書名	市内遺跡群23	シリーズ名	ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第24集			
編集者	岡崎裕子	著者	岡崎裕子、鎌田翔、長谷川義行、坪田幹男			
編集機関	ふじみ野市教育委員会	所在地	〒356-8501 ふじみ野市福岡一丁目1番1号 TEL. 049 (261) 2611			
発行日	2019年(平成31年)3月29日					
所収遺跡地点名	所在地	市町村コード	北緯	調査開始	調査面積	調査原因
		遺跡コード	東経	調査終了	㎡	調査担当者
種別/主な時代/主な遺構/主な遺物						
特記事項						
ハケ遺跡第24地点	埼玉県ふじみ野市福岡三丁目1178-1、1179-1、1180-1、1181-1、2066-2、2067	112453	35° 53' 03"	20170719	63.75	宅地造成
		25-005	139° 31' 21"	20170807		岡崎裕子・鎌田翔
	集落跡/縄文時代/縄文時代住居跡1軒・集石土坑1基・竪穴遺構1基・土坑2基・ピット14基/近代/集石土坑1基/縄文土器・須恵器・陶磁器					
確認された縄文時代住居跡は、当地域の縄文時代の集落形成を考える上で貴重である。						
松山遺跡第99地点	埼玉県ふじみ野市仲二丁目4-2	112453	35° 52' 20"	20190111	33.8	分譲住宅
		25-010	139° 32' 02"	20190122		岡崎裕子・坪田幹男
	集落跡/中近世以降/掘状遺構1本・ピット5基/陶磁器・ガラス瓶					
中近世とみられる掘状遺構は、当地域の中世集落の有り方を考える上で貴重である。						
駒林遺跡第35地点	埼玉県ふじみ野市新駒林三丁目709-1・4、710-1・2	112453	35° 52' 11"	20170727	294	宅地造成
		25-013	139° 31' 37"	20170904		岡崎裕子・鎌田翔
	集落跡/中近世/堀跡1本・土坑2基・溝4条/縄文土器・砥石・凹石・掘跡					
中世とみられる堀跡は、当地域における中世集落を考える上で貴重である。						
駒林遺跡第37地点	埼玉県ふじみ野市新駒林二丁目216-1、217-1	112453	35° 52' 08"	20180305	180	店舗
		25-013	139° 31' 41"	20180316		岡崎裕子・鎌田翔
	集落跡/中近世/堀跡1本・堀内ピット47基/瓦質土器・陶磁器・縄文土器・泥面子・砥石					
中世とみられる堀跡は、当地域における中世集落を考える上で貴重である。						
東久保南遺跡第43地点	埼玉県ふじみ野市ふじみ野四丁目11-2・7	112453	35° 51' 29"	20171101	22.5	共同住宅
		30-032	139° 31' 03"	20171115		岡崎裕子・鎌田翔
	集落跡/縄文時代/縄文時代住居跡1軒・ピット/近代/溝/縄文土器					
確認された縄文時代住居跡は、当地域の集落範囲を知る上で貴重である。						
西ノ原遺跡第158地点	埼玉県ふじみ野市旭一丁目15-6の一部	112453	35° 50' 57"	20170404	700	共同住宅
		30-001	139° 31' 05"	20140718		岡崎裕子・鎌田翔
	集落跡/縄文時代/縄文時代住居跡12軒・竪穴遺構1基・掘り込み遺構1基・土坑4基・ピット8基/縄文土器・石器・耳栓					
確認された縄文時代住居跡は、当地域の集落範囲及び集落形成を知る上で貴重である。						

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第24集

埼玉県ふじみ野市 市内遺跡群 23

2019年3月20日印刷

2019年3月29日発行

発 行 ふじみ野市教育委員会

〒356-8501 埼玉県ふじみ野市福野一丁目1番1号

TEL 049-261-2611

FAX 049-261-5100

印 刷 関 東 図 書 株 式 会 社
